

始



京都府立醫學專門學校一覽

大正六年

287-6

京都府立醫學專門學校一覽

目次

府立學校長職務規程	六五
京都府立醫學專門學校處務細則	六二
京都府立醫學專門學校職制	六〇
京都府立醫學專門學校海外留學規程	五七
專門學校入學者檢定規程	五五
公立私立專門學校規程	五四
公立學校職員俸給令	四〇
公立學校職員待遇官等等級令	三五
公立學校職員制	三〇
專門學校令	二五
公立學校令	二〇

大正
7. 1. 15
内交

京都府立醫學專門學校沿革略

沿革略

當府立醫學專門學校ハ明治五年粟田青蓮院内ニ於テ初メテ假療病院ヲ開設シ患者ヲ治療スル傍ラ醫學生ヲ教授スルニ艦艦ス其後數回ノ改革變遷ヲ經テ現今ノ如ク全ク獨立ノ專門學校トナリタルモナリ故ニ本校ノ沿革ヲ掲クルニ當リ附屬療病院ノ沿革モ併テ記述スルノ要アリ

第一期 粟田假療病院時代

粟田假療病院ノ創設ハ實ニ我府ニ於ケル醫學校及ヒ療病院ノ創業ニシテ初メ本府夙ニ人民保全ノ願ヲ奉體シ府下ニ療病院ヲ建設シテ汎シ人民ノ病患ヲ救濟セント欲シ商議スルコト玆ニ日アリ當時ノ府知事榎村正直及ヒ醫務掛長明石博高等率先大ニ斡旋ノ勞ヲ取り遍ク府下ニ曉諭シ官民協力亟カニ之レヲ經營センコトヲ期ス是ニ於テ管内諸寺院ノ僧侶、醫師、藥舗及ヒ有志ノ輩命穀物品ヲ獻シ療病院設置ノ費途ニ充ンコトヲ請願スルモノ無慮數千名ニ及フ是ニ於テ獨逸國ヨリ教師ヲ招聘シ明治五年十一月洛東粟田青蓮院内ニ初メテ假療病院ヲ開設スルニ至ル故ニ本院設置ノ始メハ專ラ官民ノ協力ト有志者ノ寄附金ニ因テ創立シタルモノナリ

當時醫學ノ狀況ヲ觀察スルニ醫學ノ教授ト患者ノ治療ハ主トシテ外國教師ニ一任シ我教員及ヒ
醫員ハ之レカ助教若クハ助手ノ位置ニアリテ之レヲ補佐スルニ過キス而シテ醫學生ノ教育ハ專ラ
療病院内ニ於テ授業シ別ニ醫學校ノ設備アルニアラス明治十二年四月ニ至リ京都府中學校内ノ醫
學豫科校ヲ廢シ更ニ府立療病院内ニ醫學豫科校及ヒ醫學校ヲ設ケ同年五月ニ至リ初メテ校長ヲ置
キ同年八月府ハ醫學校規則ヲ制定シ生徒ノ入學ヲ許セリ茲ニ初メテ醫學校ノ設置成ルト雖モ其
實明治十四年七月ニ至ルマテ未タ獨立ノ體面ヲナスニ至ラス寧ロ醫學校ハ療病院ノ附屬タルニ過
キス此期ハ事々創業ニ屬シ未タ完全ナル醫學校ノ體面ヲ保タスト雖モ茲ニ其基礎ヲ創メ今日ノ隆
盛ニ進ミタルヲ追懷セサルヘカラス

明治五年

十一月一日 愛宕郡第二組栗田口村青蓮院内(舊栗田宮跡)ニ假療病院ヲ設置シ是日ヲ以テ開院
式ヲ舉行ス同日府ハ治療條例入學生徒條例及ヒ教師課業表等ヲ制定シ遍ク管内ニ布達シ醫
學生ヲ募集セリ當時ノ職員ハ獨逸國ドクトル、ヨンケル、ホナン、ランケツシテ教師トナ
シ通譯ニ山田文友、教員ニ永松東海(數月ニシテ陸軍ニ轉ス)當直醫ニ新宮涼閣、前田松
閣、安藤精軒、江馬權之助、牧田文俣等藥局掛ニ上田涼湖、横井俊助、松岡周吉等庶務會計

ニハ李家隆彦、六角博通、酒井良顯等之レニ當レリ、其後本院ニ於テ半井澄、萩原三圭ノ
外教官及ヒ醫員トナリテ勤務シタル主ナルモノヲ掲グレハ教官ニハ神戸文哉、村治重厚、
柳下士興、田村克己、渡忠純、吉賀耕作、菊池賀祐、原口隆造氏等醫員藥局ニハ眞島利民
島成家、木下熙、廣瀬元周、高階經倫、須川英橋、里見時三氏等ナリ

明治六年

一月 其筋ノ裁可ヲ得テ無籍ノ刑屍或ハ病體ニシテ遺族ノ承諾ヲ得タルモノヲ解剖シテ醫學研究
ノ材料ニ供シタリ同年二月ニ至リ含密局所管ノ栗田口解剖場ヲ以テ本院ノ所轄トナシ又タ
同年十月ニ至リ本院内ニ假解剖場ヲ設置ス

一月 本府ノ市政庶務課ヲシテ本院ノ事務ヲ兼掌セシム

二月 本院ノ正則生徒ヲシテ中學校雇獨逸語教師リユウドルフ、レーマン氏ニ就キ理化ノ二學ヲ
修行セシム同年十一月佛語教師ヨリ氏ニ就キ羅旬語ヲ兼修セシム

九月 教師課業表ヲ改正シ當直醫ノ旅費額ヲ定ム同年十月ニ至リ更ニ教師并ニ當直醫ノ往診料ヲ
定ム

明治七年

二月 當直醫以下諸掛ヲ廢シ更ニ管學事、通辯、助教、當直醫、記開掛ヲ置ク、同年九月ニ至リ更ニ管醫事ヲ置ク

四月 治療條例生徒條例及ヒ舍則ヲ改正ス

六月 市醫ノ開業ハ從來唯々之レヲ府廳ニ申報スルノミヲ以テ例トセシカ自今開業ヲ要スルモノハ本府ニ申請シテ本院ノ試験ヲ受クヘキ旨ヲ布達セラル

六月 授産所、懲役場及ヒ監獄等ノ患者治療ヲ本院ニ於テ擔當スルコト、ナレリ

十月 教師及ヒ當直醫ノ往診料ヲ改正セラル

明治八年

五月 丹波船井郡園部ニ於テ本院ノ支院ヲ設置シ園部療病支院ト稱セシモ數月ニシテ廢ス

七月 洛東南禪寺境内ニ假癲狂院ヲ創立シテ本院ノ附屬トナシ主治醫ハ本院ノ當直醫ヲ以テ之ヲ兼務セシム七月二十五日開院式ヲ舉行シ同日府ハ癲狂院設立ノ主旨及ヒ其規則ヲ布達ス

九月 教師ヨシケル氏ノ雇期満期トナルモ更ニ半年間繼續スルコト、ナル

明治九年

二月 職員ノ月俸支給規則ヲ定ム

三月 和蘭國ヨリドクトル、セーゲハン、マンズヘルト氏ヲ招聘シ本月ヨリ三ヶ年間雇入レヨシケル氏ノ後任トス

五月 本院ノ教則ヲ制定ス

五月 半井澄ヲ以テ本院ノ院長トナス、院長ヲ置クコト茲ニ始マル

六月 是ヨリ先キ五月二十二日假中學校内ニ醫學豫科校ヲ設ケ本院ノ所管トナス是ニ於テ本府其教則ヲ管内ニ布達ス、同年八月生徒條例ヲ改正ス

九月 是ヨリ先キ六月三日驅微規則ヲ定メ九月十一日建仁寺境内福聚院内ニ假驅微院ヲ開設シ主治療ハ本院ノ當直醫ヲ以テ之ニ充ツ同年九月十三日ニ至リ伏見ニモ檢微所ヲ開設セリ

明治十年

二月 天皇陛下當地御駐輦ニ際シ二品熾仁親王殿下ヲ御名代トシテ本院始メ癲狂院へ御台臨アラセラレ本院へ金貳千五百圓癲狂院へ金貳拾五圓及ヒ教師マンズヘルト氏へ絹二匹下賜セラレ又同年七月皇居内ノ御寮屋二棟ヲ本院ニ下賜セラル今以テ患者ノ病室ニ充テ長ク皇恩ノ優渥ナルヲ拜戴シ改築ニ際シテモ紀念トシテ長ク之ヲ保存スルコト、セリ

四月 西南戰役ニ際シ征討兵士傷痍ノ治療補助トシテ本院自費ヲ以テ醫員十二名ヲ大阪臨時病院

ニ差遣シ同年六月二十九日ヲ以テ辭シ還ル明治十一年三月其賞トシテ銀盃壹個ヲ本院ニ下賜セラレ

八月 是レヨリ先キ教師マンスヘルト氏雇期未タ滿タサレトモ熟識ニ因リ大阪府病院ニ轉雇ノ約成リ因テ更ニ獨逸國ヨリドクトル、ボット、シヨイバ氏ヲ聘シ本月ヨリ三ヶ年間雇入レ其後任トナス

明治十一年

二月 愛宕郡淨土寺村ニ療病院ヲ開設シテ本院ノ支院トナシ醫員後藤直三郎ヲ以テ之レカ主任醫トナシ專ラ癩病患者ヲ治療セシム、明治十二年四月廢院ス

三月 院長半井澄癩狂院長ヲ兼務ス

四月 治療條例及ヒ生徒條例中第十二條改正ヲセラレ

四月 院長ノ往診料及暑中ノ診察時間ヲ定ム

七月 本府各區長ニ達スルニ學術研究上脚氣患者アルトキハ本院ニ報告スヘキ旨ヲ以テス

明治十二年

四月 京都府中學校内ノ醫學豫科校ヲ廢シ更ニ本内院ニ醫學豫科校及ヒ醫學校ヲ置ク

五月 萩原三圭ヲ以テ醫學校々長トナス、本校ニ校長ヲ置クコト茲ニ始マル

第二期 甲種醫學校時代

明治十三年七月 梶井町ニ療病院ノ新築竣工シテ茲ニ移轉式ヲ舉行シタル以來數年ヲラスシテ院ノ組織事々革新ノ緒ニ就キ第一外國教師ヲ解雇シ各科ニ醫學士ヲ聘シテ部長トナシ各々専門的ニ學科及ヒ診療ヲ擔當シテ大ニ盡ス所アリ明治十四年七月ニ至リ醫學校ハ全ク療病院ノ管理ヲ離レテ獨立シ療病院ト並立ス但經濟ハ從前ノ如ク療病院ヲ主トシテ經營セリ十五年十一月ニ至リ甲種醫學校ニ進ミ本校ヲ卒業シタルモノハ別ニ開業試驗ヲ要セス直ニ免狀ヲ下附スルコト、ナル學生ノ授業ヨリ患者ノ治療ニ至ルマテ大ニ整頓完備シテ亦昔日ノ觀テ一變シタリ因テ學生ノ笈ヲ負フモノ月ニ加フ患者ノ治療ヲ乞フモノ日ニ増シ大ニ隆盛ノ域ニ達セリ從テ教室、手術室、研究室及ヒ病室ノ狹隘ヲ告ケ之レガ新築或ハ改築シタルモノ少ナカラス、又々諸規則ノ制定改正等是レ日モ足ラサルノ盛況ヲ呈シタリ實ニ此期ハ我醫學校及ヒ療病院ノ革新時代ナリシ

明治十三年

七月十八日 上京區元第十二組御車道堀井町〔元日光宮里坊二條正親〕ニ本校及ヒ療病院ノ新築竣工セ

シヲ以テ此日移轉式ヲ舉行ス時ニ

天皇陛下 當地御駐轡中ナルヲ以テ二品貞愛親王殿下此日午前八時御代臨アラセラレ校

長助教及醫學優等生三十一名ニ金圓ヲ賞賜セラレ還輿後午前十時移轉式ヲ舉行ス本府長

官臨場本校生徒十九名ニ卒業證書ヲ授與シ畢テ市民ノ縱覽ヲ許ス

十月 教師シヨイベ氏本月十五日ヲ以テ雇期滿ツ更ニ三ヶ年間繼雇ノ約ヲ結フ

明治十四年

一月 此月十九日木下熙ヲ以テ驅微院長トナス驅微院ニ院長ヲ置クコト茲ニ始マル

五月 醫學士新宮涼亭一等教諭ニ任セラレ内科ヲ擔任ス又栗生光謙本校教諭ニ任セラレ物理學及
ヒ生理學ヲ擔任ス

七月 是ヨリ先キ十二年四月本院内ノ醫學豫科校及ヒ醫學校ヲ置キ本院ノ管理スル所トナリシカ
自今全ク分離シテ獨立スルニ至ル

九月 萩原圭三辭職シ半井澄本校々長ニ任セラレ

十二月 教師シヨイベ氏雇期未タ滿期ニ達セザルモ本院ノ事宜ニ因リ解雇スルコトナル

二月 相田義和本校監事ヲ命セラレ

明治十五年

五月 醫學士猪子止戈之助本校一等教諭ニ任セラレ外科學ヲ擔任シ部長ヲ命セラレ、同月醫學士
齋藤仙也一等教諭ニ任セラレ内科學ヲ擔任シ部長ヲ命セラレ、同年九月上田勝行三等教諭
ニ任セラレ理化學ヲ擔任シ藥局長ヲ命セラレ

十二月 文部省達ノ醫學校通則ニ準據シ本校ヲ以テ甲種醫學校ト認定セラレ

明治十六年

一月 教諭醫學士猪子止戈之助副校長ニ任セラレ

十月 自今本校ヲ卒業シタルモノハ内務省醫術開業試驗ヲ受クルコトヲ要セス直ニ開業免狀ヲ下
附セラルコトナル

十月 醫學士新宮涼亭辭職ス

明治十七年

三月 第一回卒業生十二名ハ卒業證書ヲ授與ス

四月 醫學士淺山郁次郎本校一等教諭ニ任セラレ眼科學ヲ擔任シ部長ヲ命セラレ、同年九月助手

武部隆太郎本校教諭ニ任セラレ婦人科産科學ヲ擔任ス
二月 京極誓願寺ニ於テ第一回解剖牀大法會ヲ施行ス

明治十八年

一月 自今本校々長ヲ奏任トセラル
三月 第二回卒業生七名へ卒業證書ヲ授與ス
四月 本校監事相田義和ニ療病院監事兼務ヲ命セラル
八月 本校々則ヲ改正ス

明治十九年

二月 第三回卒業生九名へ卒業證書ヲ授與ス
六月 第四回卒業生十四名へ卒業證書ヲ授與ス
六月 校長半井澄辭職ス
十月 第五回卒業生六名へ卒業證書ヲ授與ス
十月 助手星野元彦本校教諭ニ任セラレ病理解剖學及診斷學ヲ擔任ス

明治二十年

一月 副校長兼教諭醫學士猪子止戈之助本校々長ニ任セラル
一月 本院内ニ於テ同職員及開業醫諸氏ト相謀リ醫學會ヲ設立シ京都醫學會ト名ケ毎月一回演說及ヒ談話會ヲ開ク、二十一年一月ニ至リ京都醫學會雜誌第一号ヲ發刊ス
二月 第六回卒業生十二名へ卒業證書ヲ授與ス
三月 教諭武部隆太郎辭職ス、同年六月醫學士足立健三郎本校教諭ニ任セラレ婦人科産科學ヲ擔任シ部長ヲ命セラル
九月 第七回卒業生九名へ卒業證書ヲ授與ス

明治二十一年

三月 給費患者規程ヲ制定ス
三月 京極誓願寺ニ於テ第二回解剖牀大法會ヲ施行ス
四月 第八回卒業生十二名へ卒業證書ヲ授與ス
四月 喜多川義比本校教諭ニ任セラレ化學ヲ擔當ス
九月 第九回卒業生二十八名へ卒業證書ヲ授與ス
十二月 第十回卒業生六名へ卒業證書ヲ授與ス

二月 教諭醫學士齊藤仙也辭職ニ就キ同月醫學士佐藤廉本校教諭ニ任セラレ内科學ヲ擔任シ部長ヲ命セラル

二月 教諭上田勝行轉任辭職ス

明治二十二年

一月 本校生徒ノ服制ヲ定ム

四月 本校ノ附屬トシテ產婆教習所ヲ設置ス

五月 徵兵令第十一條ニ據リ本校ヲ中學程度同等以上ト認定セラル

六月 第十一回卒業生二十九名へ卒業證書ヲ授與ス

九月 京極誓願寺ニ於テ第三回解剖体大法會ヲ施行ス

十二月 本校生徒心得ヲ改正ス

明治二十三年

六月 第十二回卒業生三十八名又同年十二月第十三回卒業生二十八名へ卒業證書ヲ授與ス

明治二十四年

二月 教諭田村克己病死ニ就キ更ニ醫學士加門桂太郎本校教諭ニ任セラレ解剖學ヲ擔任ス

二月 教諭醫學士佐藤廉辭職ニ就キ同年四月更ニ醫學士笠原光與本校教諭ニ任セラレ内科學ヲ擔任シ部長ヲ命セラル

四月 陸軍省令ヲ以テ本校卒業生へ陸軍一年志願兵トナリ服役後現役衛生醫官ノ候補生タルコトヲ得ル旨達セラル

九月 第十四回卒業生三十四名へ卒業證書ヲ授與ス

九月 教諭栗生光謙辭職ニ就キ同月更ニ醫學士宮入慶之助本校教諭ニ任セラレ生理學及衛生學ヲ擔任ス

十二月 濃尾地方ノ震災ノ際日本赤十字社京都支部ヨリ猪子校長醫員數名ヲ率キテ大垣ニ出張シ凡ソ一ヶ月間患者ノ救護ニ從事セリ

二月 濃尾地方ノ震災ノ際日本赤十字社京都支部ヨリ猪子校長醫員數名ヲ率キテ大垣ニ出張シ凡ソ一ヶ月間患者ノ救護ニ從事セリ

二月 猪子校長在職ノ儘自費ヲ以テ歐州各國ヲ視察シニケ年ニシテ歸朝ス

九月 第十五回卒業生四十四名へ卒業證書ヲ授與ス

明治二十五年

一月 本校々則ヲ改正ス

一月 本校々則ヲ改正ス

一月 本校々則ヲ改正ス

明治二十六年

一月 本校々則ヲ改正ス

一月 外科大手術室ノ新築落成ス
 九月 第十六回卒業生三十五名へ卒業證書ヲ授與ス
 二月 日本赤十字社京都支部看護婦ノ養成ヲ本院ニ囑託セララル
 三月 本校幹事兼療病院幹事相田義和辭職ス

明治二十七年

二月 教諭醫學士笠原光興自費獨逸國へ留學ノ爲メ辭職ス
 三月 平井毓太郎本校教諭ニ任セラレ内科學及小兒科學ヲ擔任シ部長ヲ命セララル
 三月 伊藤正信本校教諭ニ任セラレ理學ヲ擔任シ療病院幹事兼務ヲ命セララル
 五月 教諭醫學士宮入慶之助辭職ニ就キ同月更ニ醫學士富永兼榮本校教諭ニ任セラレ生理學及衛生學ヲ擔任ス
 九月 第十七回卒業生三十九名へ卒業證書ヲ授與ス
 十二月 教諭醫學士足立健三郎辭職ス
 十二月 日清戰役ニ際シ日本赤十字社京都支部ヨリ猪子校長醫員及ヒ看護婦數十名ヲ率イテ廣島ノ陸軍臨時院へ派遣ス

十二月 醫學士島村俊一本校教諭ニ任セラレ神經精神病學及ヒ法醫學ヲ擔任シ部長ヲ命セララル

明治二十八年

一月 醫學士高山尙平本校教諭ニ任セラレ婦人科產科學ヲ擔任シ部長ヲ命セララル
 五月 南一等及二等病室新築落成ス
 七月 教諭星野元彦辭職ス
 九月 第十八回卒業生四十四名ニ卒業證書ヲ授與ス
 十月 教諭喜多川義比辭職ニ就キ同月藥學士古屋恒次郎本校教諭ニ任セラレ化學ヲ擔任シ藥局長ヲ命セララル
 十二月 本校教諭兼療病院幹事伊藤正信辭職ス
 同月 恩田壽夫療病院幹事ヲ命セララル

明治二十九年

一月 附屬產婆教習所規則ヲ改正ス
 四月 醫學士笠原光興獨逸國ヨリ歸朝ニ就キ更ニ本校教諭ニ任セラレ内科學ヲ擔任シ内科第一部長トナシ平井教諭ヲ内科第二部長トナス

九月 療病院幹事恩田壽夫辭職シ大野政忠同幹事ヲ命セラル
 十月 第十九回卒業生四十七名へ卒業證書ヲ授與ス
 同月 本校内ニ初メテ校友會ヲ設ケ職員卒業生及ヒ在學生ヲ以テ組織シ校長ヲ會長トナシ教諭若干名ヲ部長トナシ運動部學術部及庶務會計ノ三部ヲ置キ一年四回校友會雜誌ヲ發刊シテ會員ニ頒ツ

明治三十年

一月 江馬章太郎本校教諭ニ任セラレ皮膚微毒科及耳科學ヲ擔任シ部長ヲ命セラル
 九月 醫學士富永兼榮辭職ニ就キ同月更ニ栗生光謙へ生理學及ヒ衛生學教授ヲ囑託ス
 九月 第二十回卒業生六十六名へ卒業證書ヲ授與ス
 九月 本校々則ヲ改正ス
 三月 藥學士古屋恒次郎轉任辭職ス

明治三十一年

一月 藥學士平山松次本校教諭ニ任セラレ化學ヲ擔任シ藥局長ヲ命セラル
 四月 本校々則中授業料ヲ管内管外ニ區別シテ徴収スルコトニ改正ス

五月 陸軍醫務局ヨリ陸軍々醫委託生徒ノ養成ヲ托セラル
 同月 角田隆本校助教諭ニ任セラレ病理學及病理解剖學ヲ擔任ス
 六月 本校東南空地ニ體育場及ヒ標本室ヲ新築ス
 同月 第二十一回卒業生五十八名へ卒業證書ヲ授與ス
 十月 教諭醫學士淺山郁次郎休職トナル
 十二月 融禮次郎本校教諭ニ任セラレ眼科學ヲ擔任シ部長ヲ命セラル
 三月 本校東方空地ニ精神病室ノ新築落成ス

明治三十二年

二月 本校備付ノ圖書ヲ基礎トシテ職員卒業生市内篤志者及ヒ在校生ノ藏書寄贈又ハ寄附金ヲ募集シテ校内ニ醫學圖書室ヲ設置ス
 六月 第二十二回卒業生五十九名へ卒業證書ヲ授與ス
 六月 教諭醫學士平井毓太郎京都醫科大學へ轉任ニ付辭職ス
 七月 校長猪子止戈之助同シテ京都醫科大學へ轉任ニ付教諭醫學士加門桂太郎ニ校長事務取扱ヲ命セラル

七月 松山爲雄教諭ニ任セラレ外科學ヲ擔任シ部長ヲ命セラル
 七月 教諭醫學士淺山郁次郎及八月教諭醫學士笠原光興京都醫科大學へ轉任ニ付辭職ス
 九月 教諭醫學士加門桂太郎本校々長ニ任セラル
 同月 助教諭淺木直之助本校教諭ニ任セラレ内科學ヲ擔任シ部長ヲ命セラル

明治三十三年

五月 製藥士町田伸本校教諭ニ任セラレ化學ヲ擔任ス
 五月 校長加門桂太郎京都醫科大學へ轉任ニ付教諭島村俊一本校々長ニ任セラル
 六月 藥學士教諭兼藥局長平山松次辭職シ町田伸藥局長ヲ命セラル
 六月 第二十三回卒業生七十六名へ卒業證書ヲ授與ス
 九月 醫學士工藤外三郎本校教諭ニ任セラレ内科學ヲ擔任シ同時ニ内科部長ヲ命セラル
 同月 教諭兼婦人科產科部長高山尙平療病院長兼務ヲ命セラル
 十二月 海軍省告示ヲ以テ本校卒業生ハ海軍武官補充條例ニ據リ海軍少軍醫候補生ニ採用スルコトヲ得ル旨指定セラル

明治三十四年

一月 赤座壽惠吉本校教諭ニ任セラレ解剖學ヲ擔任ス
 三月 教諭淺木直之助休職トナル
 四月 助教諭角田隆本校教諭ニ任セラレ病理學ヲ擔任ス
 四月 助教諭朝井元章同ク教諭ニ任セラレ神經病學ヲ擔任ス
 四月 診察料及ヒ徴収規則ヲ定ム
 五月 醫學士永井德壽本校教諭ニ任セラレ生理學ヲ擔任ス
 六月 第二十四回卒業生七十二名へ卒業證書ヲ授與ス
 十月 北一等病室ノ新築落成ス

明治三十五年

三月 本校々則テ改正シ生徒ノ學術優等ニシテ品行方正ナルモノヲ選拔シ特待スルノ制ヲ設ケ且ツ本校ヲ卒業シタルモノハ自今京都醫學得業士ノ稱號ヲ許サル
 四月 醫學士望月惇一本本校教諭ニ任セラレ内科學ヲ擔任シ内科第一部長ヲ命セラル、内科部長工藤外三郎ハ内科第二部長ヲ任セラル
 四月 教諭融禮次郎辭職ニ付キ同月更ニ醫學士伊藤元春本校教諭ニ任セラレ眼科學ヲ擔任シ部長

ヲ命セラル

五月 教諭松山爲雄辭職ニ付同年七月更ニ醫學士池田廉一郎本校教諭ニ任セラレ外科學ヲ擔任シ部長ヲ命セラル

六月 第二十五回卒業生四十八名へ卒業證書ヲ授與ス

十月 本校秋期陸上運動會ニ際シ日本赤十字社京都支部總會ニ御臨場アラセラレシ小松宮彰仁親王同妃賴子兩殿下御親臨ヲ恭フシ運動數番御賞觀アラセラル

明治三十六年

一月 校内空地ニ病理學衛生學教室ヲ新築シ又内科婦人科產科及ヒ精神病學研究室ヲ増築ス

四月 附屬產婆看護婦教習所規則ヲ改正ス

五月 教諭醫學士高山尙平福岡醫科大學へ轉任ニ付同月醫學士秋元隆次郎本校教諭ニ任セラレ婦人科產科部長ヲ命セラル又校長島村俊一院長兼務ヲ命セラル

六月 第二十六回卒業生四十九名へ卒業證書ヲ授與ス

六月 專門學校令ニ據リ本校ヲ自今京都府立醫學專門學校ト改稱シ同時ニ學則ヲ改正ス

六月 學用患者規程ヲ改正ス

七月 常岡良三本校助教諭ニ任セラレ衛生學及ヒ細菌學擔任ヲ命セラル

十月 本派本願寺ニ於テ第四回解剖肺大法會ヲ施行ス

十月 療病院幹事大野政忠辭職ス

十二月 柿沼鉉太郎療病院幹事ヲ命セラル

明治三十七年

四月 本校職制、療病院職務規定、職員ノ海外留學規程及ヒ看病人規定ヲ制定セラレ及柿沼鉉太郎本校幹事兼療病院庶務部長ヲ命セラル

六月 第二十七回卒業生四十八名へ卒業證書ヲ授與ス

七月 職員留學規程ニ據リ教諭醫學士池田廉一郎二ヶ年間外科學研究ノ爲メ獨逸國へ留學ヲ命セラル、同月谷靜也ニ講師ヲ囑託シ外科部長心得ヲ命セラル

七月 助教諭田村克之本校教諭ニ任セラル

十月 本派本願寺ニ於テ第五回解剖肺大法會ヲ施行ス

明治三十八年

三月 本校學則ヲ改正シ同時ニ級長規定服制規程ヲ改正シ同月外國人入學規程及研究生規程ヲ制

定ス

六月 第二十八回卒業生五十七名へ卒業證書ヲ授與ス

七月 本校學生控所及ヒ圖書室ノ新築落成ス

十月 日露戰役ニ際シ本校教諭醫學士島村俊一、望月惇一、工藤外三郎等大阪陸軍豫備病院へ凡ソ一ケ年間毎日曜ニ出張シ陸軍衛生部補助員トシテ患者ノ診療ニ從事セシカ平和克復後解除セラレ

十月 校内運動場ニ解剖學教室新築ノ爲鴨川西堤ニ沿ヒ新ニ運動場ヲ設ク

十月 本派本願寺ニ於テ第六回解剖體大法會ヲ施行ス

明治三十九年

三月 校内ニ解剖學教室、實習室、組織學實習室、病理學實習室ヲ新築ス、同年四月療病院內空地ニ發電所ヲ新設ス

三月 看病人採用規程ヲ制定ス

四月 助教諭常岡良三本校教諭ニ任セラレ

六月 第二十九回卒業生六十二名へ卒業證書ヲ授與ス

七月 助教諭伏原寅男內科第二部長心得ヲ命セラレ

八月 校長兼教諭醫學士島村俊一論文ヲ提出シ學位令第二條ニ依リ醫學博士ノ學位ヲ授ケラル

八月 教諭醫學士工藤外三郎內科學研究ノ爲メ滿二ケ年間獨逸國へ留學ヲ命セラレ

九月 外科部長心得谷靜也辭職ス

十月 校内ニ生理學醫化學教室ヲ新築ス

十月 本派本願寺ニ於テ第七回解剖體大法會ヲ施行ス

十二月 學用患者慰藉ノ爲メ京都市會議事堂ニ於テ慈善音樂會ヲ開ク

明治四十年

一月 明治三十七年獨逸國へ留學ヲ命セラレタル教諭醫學士池田廉一郎歸朝ス

一月 本校學生定數ヲ五百五十名ニ増加ス

二月 校内ニ衛生學及ヒ細菌學教室ノ新築竣工ス

三月 教室一棟ヲ新築シ第五教室トナス

三月 洛東大日山京都市所有共同墓地二百六十坪ヲ借入レ學用患者ノ墓標ヲ建設ス

三月 本校學則及ヒ細則ヲ改正ス

六月 第三十回卒業生七十六名へ卒業証書授與ス
 七月 教諭醫學士池田廉一郎論文ヲ提出シ學位令第二條ニ依リ醫學博士ノ學位ヲ授ケラル
 十月 本派本願寺ニ於テ第八回解剖體大法會ヲ施行ス

明治四十一年

二月 教諭田村克之辭職ス
 四月 前島長裕本校教諭ニ任セラレ解剖學ヲ擔任ス、同月醫學士本庄謙三郎本校教諭ニ任セラレ小兒科部長ヲ命セラレ同時小兒科診察室ヲ開設ス
 五月 助教諭伏原寅男本校教諭ニ任セラレ内科第二部長ヲ命セラル
 五月 校友會々則ヲ改正ス
 六月 病院内ニ臨床講義室觀察室ノ新築落成ス
 六月 第三十一回卒業生九十九名へ卒業証書ヲ授與ス
 七月 職員海外留學規程ヲ改正シ自費留學者ニ對シテモ學資ヲ補助スルヲ得ルユト、ナレリ
 七月 教諭角田隆病理學及病理解剖學研究ノ爲メ滿二ケ年間獨逸國へ留學ヲ命セラル
 七月 三等病室ノ新築竣工ス

八月 乙二等病室ヲ改築シテ普通二等病室トナシ更ニ看護婦寄宿舎ヲ新築ス
 十月 本校講堂及ヒ事務室ノ新築竣工ス
 十月 助教諭中村登耳鼻咽喉科部長心得ヲ命セラレ同時ニ同部ノ診察室ヲ開設ス
 十月 本派本願寺ニ於テ第九回解剖體大法會ヲ施行ス
 十月 本校講堂落成ニ付キ 兩陛下御眞影拜戴式ヲ行フ
 十二月 六日ヲトシ新築ノ大講堂ニ於テ本校開校三十年紀念式典ヲ舉行ス當日ハ朝野ノ貴顯紳士并ニ卒業生等來會スル者四百有餘名翌七日ハ一般市民ノ來觀ヲ許ス
 十二月 明治三十九年獨逸國へ留學ヲ命セラレタル教諭醫學士工藤外三郎歸朝ス

明治四十二年

二月 本校學則ヲ改正シ本年度卒業生ヨリ京都醫學專門學校醫學士ト稱スルコトヲ得ルコト、ナレリ
 三月 教諭伏原寅男辭職ス
 五月 助教諭中村登本校教諭ニ任セラレ耳鼻咽喉科學ヲ擔任シ同時ニ同部長ヲ命セラル
 五月 京都帝國大學京都醫科大學助手藤谷功彦教諭ニ任セラレ藥物學醫化學ヲ擔任ス

五月 附屬療病院内ニ特等病室及特別一等病室ノ新築落成ス
 六月 第三十二回卒業生九十八名へ卒業証書ヲ授與ス
 九月 本派本願寺ニ於テ第十回解剖體大法會ヲ施行ス
 同月 附屬療病院内へ看護婦賄所ヲ新築シ本院自營トス
 十月 文學士廣木多三本校教諭ニ任セラレ獨逸語學ヲ擔任シ藥學士立入保太郎本校教諭ニ任セラレ調劑實習及獨逸語學ヲ擔任シ同時ニ調劑部長ヲ命セラル
 十月 附屬療病院ノ一部(玄關)新築落成ス
 三月 醫化學實習室増築落成ス

明治四十三年

三月 校長醫學博士島村俊一辭職ニ付教諭望月惇一校長兼教諭ニ任セラル
 四月 學則ノ一部ヲ改正シ明治四十二年以前ノ卒業生ニ對シ論文提出學士ノ稱號ヲ請求スルコトヲ得ルコト、ナレリ
 同月 校長望月惇一教諭工藤外三郎論文ヲ提出シ學位令第二條ニ依リ醫學博士ノ學位ヲ授ケラル
 同月 教諭伊藤元春眼科學研究ノ爲メ滿二ケ年間獨逸國へ留學ヲ命セラル

六月 第三十三回卒業生百八名へ卒業証書ヲ授與ス
 九月 京都帝國大學京都醫科大學助手佐武安太郎本校教諭ニ任セラレ生理學ヲ擔任ス
 十月 明治四十一年獨逸國留學ヲ命セラタル教諭角田隆歸朝ス
 十月 教諭佐武安太郎生理學研究ノ爲メ滿二ケ年間獨逸國へ留學ヲ命セラル
 同月 皇太子殿下本校へ行啓親シク授業ノ狀況其他器械標本等御觀覽被遊御還啓ノ際御眞影下賜セラル

明治四十四年

一月 教諭永井德壽辭職ス
 二月 教諭谷功彦論文ヲ提出シ學位令第二條ニ依リ醫學博士ノ學位ヲ授ケラル
 五月 教諭醫學博士池田廉一郎辭職ス
 同月 京都帝國大學醫科大學助教授副島豫四郎本校教諭ニ任セラレ外科學ヲ擔任シ同時ニ外科部長ヲ命セラル
 同月 助教諭佐々木恒一本校教諭ニ任セラレ神經病學、精神病學ヲ擔任ス
 六月 第三十四回卒業生百九名へ卒業証書ヲ清國留學生一名へ修學證書ヲ授與ス

二月 本派本願寺ニ於テ第十一回解剖體大法會ヲ施行ス
三月 教諭角田隆論文ヲ提出シ學位令第二條ニ依リ醫學博士ノ學位ヲ授ケラル

明治四十五年

五月 助教諭野田浦弼本校教諭ニ任セラレ神經病學、精神病學ヲ擔任ス
同月 教諭佐々木恒一辭職ス
同月 教諭本庄謙三郎小兒科學研究ノ爲メ滿二ケ年間獨逸國へ留學ヲ命セラレ
六月 第三十五回卒業生百五名へ卒業證書ヲ支那留學生二名へ修業證書ヲ授與ス
十月 明治四十三年獨逸國へ留學ヲ命セラレタル教諭伊藤元春歸朝ス
同月 本派本願寺ニ於テ第十二回解剖體大法會ヲ施行ス
同月 教諭秋元隆次郎休職ヲ被命私費獨逸國ニ留學ス
同月 教諭常岡良三細菌學研究ノ爲メ滿二ケ年間獨逸國留學ヲ命セラレ

大正二年

二月 助教諭犬塚一郎本校教諭ニ任セラレ獨乙語學ヲ擔任ス
四月 校長醫學博士望月惇一歐洲各國へ出張仰付ラレ不在中教諭工藤外三郎校長代理ヲ命セラレ

同月 學則ノ一部及研究生規定中改正セラレ

同月 講師梅原和助教諭ニ任セラレ病理學ヲ擔任ス

大正二年

六月 第三十六回卒業生百二名へ卒業證書ヲ授與ス
九月 附屬產婆教習所ハ產婆規則第一條ニ依リ指定セラレ(內務省告示第五十二號)
十月 本派本願寺ニ於テ第十三回解剖體大法會ヲ執行ス
十一月 本校學生ハ海軍々醫學生ニ採用ノ指定アリ
十二月 私費留學中ナリシ休職教諭秋元隆次郎歸朝復職ス

大正三年

二月 歐洲ニ出張中ノ校長醫學博士望月惇一歸朝ス
二月 教諭醫學博士藤谷功彦死亡ス
三月 明治四十三年獨逸留學ヲ命セラレタル教諭佐武安太郎歸朝ス
六月 第三十七回卒業生百五名へ卒業證書ヲ授與ス
七月 教諭伊藤元春、同江馬章太郎、幹事柿沼鉉太郎辭職ス

七月 教諭秋元隆次郎、同前島長裕休職ヲ命セラレ
 七月 中道貫一幹事并ニ庶務部長ヲ命セラレ
 八月 教諭副島豫四郎京都帝國大學醫科大學助教諭ニ轉任ス
 八月 醫學博士河村叶一教諭ニ任セラレ外科學ヲ擔任シ同時ニ外科部長ヲ命セラレ
 八月 醫學博士岡嶋敬治教諭ニ任セラレ解剖學ヲ擔任ス
 八月 醫學士小柳美三教諭ニ任セラレ眼科學ヲ擔任シ同時ニ眼科部長ヲ命セラレ
 八月 醫學士佐谷有吉教諭ニ任セラレ皮膚梅毒學ヲ擔任シ同時ニ皮膚梅毒科部長ヲ命セラレ
 八月 學則ノ一部ヲ改正セラレ
 九月 醫學士加治安信教諭ニ任セラレ産科婦人科學ヲ擔任シ同時ニ産科婦人科部長ヲ命セラレ
 九月 産婆看護婦教習所規則ノ一部ヲ改正ス
 十月 本派本願寺ニ於テ第十四回解剖体大法會ヲ執行ス
 十月 校長醫學博士望月惇一休職ヲ命セラレ
 十月 教諭醫學博士工藤外三郎校長兼教諭ニ任セラレ同時ニ附屬療病院長兼内科第一部長ヲ命セラレ

十月 醫學博士小川瑳五郎教諭ニ任セラレ内學科ヲ擔任シ内科第二部長ヲ命セラレ
 十月 助教諭端野令三教諭ニ任セラレ
 十月 本校職制ノ一部ヲ改正セラレ
 十二月 明治四十五年獨逸留學ヲ命セラレタル教諭本庄謙三郎歸朝ス
 十二月 本校處務細則ノ一部ヲ改正ス
 十二月 教諭醫學博士角田隆學生監ヲ命セラレ
 十二月 二十三、二十四日兩日ヲトシ八ヶ年間繼續事業タリシ本校及附屬療病院改築落成式典ヲ舉行ス來會スル者朝野貴顯紳士并ニ卒業生七百有餘名校院共一般市民ノ參觀ヲ許シ種々ノ餘興ヲ催セリ
 同月廿九日 新築落成紀念陸上大運動會ニ際シ久邇宮多嘉王殿下賀彦王殿下發子女王殿下御親臨ヲ忝フシ運動數番御賞觀アラセラレ金壹万疋ヲ下賜セラレ
 十二月 教諭佐武安太郎醫學博士ノ學位ヲ授ケラル

大正四年

一月 大正元年獨逸留學ヲ命セラレタル教諭常岡良三歸朝ス

- 三月 本校職員海外留學規程ノ一部ヲ改正ス
- 三月 教諭端野令三辭職ス
- 三月 校友會規則ノ一部ヲ改正ス
- 四月 教諭中村登京都醫科大學ニ於テ大正五年六月迄耳鼻咽喉科學ノ研究ヲ命セラレ
- 四月 助教諭吉田政次耳鼻咽喉科部長代理ヲ命セラレ
- 五月 醫學博士吉川順治教諭ニ任セラレ醫化學ヲ擔任ス
- 五月 教諭犬塚一郎辭職ス
- 六月 第三十八回卒業生八十一名へ卒業證書ヲ支那留學生三名へ修業證書ヲ授與ス
- 七月 教諭秋元隆次郎、同前嶋長裕休職滿期トナレリ
- 七月 教諭小柳美三醫學博士ノ學位ヲ授與セラレ
- 九月 校長醫學博士望月惇一休職滿期トナレリ
- 十月 本派本願寺ニ於テ十五回解剖體大法會ヲ執行ス
- 十月 二十一日 天皇陛下ノ御眞影ヲ下賜セラレ同日奉戴式ヲ行フ
- 十二月 教諭佐武安太郎東北帝國大學醫科大學教授ニ轉任ス

- 十二月 御大典ヲ行ハセラル、ニ付當月中校門前ニ大綠門ヲ建設シ祝意ヲ表セリ
- 十二月 十日即位禮當日職員學生一同講堂ニ於テ奉祝式ヲ舉行シ終テ職員學生聯合大祝賀會ヲ舉行ス
- 十二月 十七日大典奉祝ノ爲メ職員學生聯合大提灯行列ヲ舉行セリ
- 十二月 醫學士越智眞逸教諭ニ任セラレ生理學ヲ擔任ス
- 十二月 教諭小柳美三辭職ス

大正五年

- 一月 醫學士増田隆教諭ニ任セラレ眼科學ヲ擔任シ同時ニ眼科部長ヲ命セラレ
- 二月 學則ノ一部ヲ改正ス
- 二月 看護婦教習所ハ大正四年內務省令第九號看護婦規則第二條ニ依リ指定セラレ
- 三月 教諭本庄謙三郎醫學博士ノ學位ヲ授ケラル
- 四月 醫學士本永七三郎教諭ニ任セラレ齒科學ヲ擔任ス
- 六月 教諭本永七三郎齒科部長ヲ命セラレ
- 六月 第三十九回卒業生八十五名へ卒業證書支那留學生二名へ修業證書ヲ授與ス

十月 本派本願寺ニ於テ第十六回解剖体大法會ヲ執行ス
十一月 醫學博士島村俊一神經精神部科部長ヲ免セラレ教諭野田浦弼同部長ヲ命セラル

大正六年

二月 本年一月勅令第五號公立學校職員制發布セラレ本校教諭、助教諭ハ教授、助教授ト改稱セラル

二月 校友會規則ノ一部ヲ改正ス

三月 本校學則ノ一部ヲ改正ス

三月 教授吉川順治向ニケ年間京都帝國大學醫學科大學へ留學ヲ命セラル

四月 教授常岡良三、同中村登醫學博士ノ學位ヲ授ケラル

五月 第四十四回卒業生七十名へ卒業証書支那留學生一名へ修業証書ヲ授與ス

六月 教授本庄謙三郎辭職ス

七月 校長兼教授工藤外三郎辭職ス

七月 教授小川瑳五郎校長兼教授ニ任セラレ同時ニ附屬療病院長ヲ命セラル

七月 醫學博士三浦操一郎教授ニ任セラレ小兒科部長ヲ命セラル

本校ハ明治三十六年三月專門學校令ノ發布セラレ、其年ノ六月京都府立醫學專門學校ト改稱シ療病院ヲ其附屬トセリ以來專ラ諸般ノ擴張完成ヲ期シ學科ノ増設ヨリ標本器械ノ整備ニ伴ヒ校舍改築ノ必要ヲ來シ先ツ明治三十八年度ニ於テ解剖教室生徒控所及發電所等ヲ建築シ併セラ電燈自營ノ計ヲ立テリ翌三十九年度ニハ解剖組織實習室生理衛生學教室等ヲ建築セシモ尙校舍ノ増築及本校經濟上ニ至大ノ關係ヲ有スル附屬療病院ノ改築並ニ各種ノ設備ヲ充實セシメテ計リ四十年度ヨリ四十二年度ニ至ル三ヶ年繼續事業トシテ講堂教室手術室各等病室等ノ建築ヲ爲セシモ其間既定工事中實施ノ都合ニ依リ繰延施行ヲ要スルト且ツハ患者増加ノ趨勢ニ徴シ益々擴張ヲ要スルモノアルト從來ノ狹隘ナル内科婦人科神經科ノ診察場及治療室其他改築ノ必要ニ迫ラレ更ニ六ヶ年繼續事業トシテ之カ建築ヲ遂行セリ然ルニ當時尙ホ入院患者増加ニ伴ヒ病室其他ノ増築及改築ヲ要スル爲メニ更ニ大正二年度ヨリ三年度ニ至ル二ヶ年間繼續工事ヲ起シ之ヲ完成スルニ至レリ其建築或ハ改築シタル重ナル建物ヲ舉グレバ

教室、解剖組織實習室、生理實驗室、衛生實驗室、生徒控所、圖書室、書庫講堂各科診察室各等病室藥局、事務室、各部長室、醫員室、患者靜養室、產室、看護婦寄宿舍、瀉罐室、消毒室干燥室、賄所、倉庫、動物飼養室、洗濯所等ニシテ其棟數一百餘ニ達シ其工費總額金參拾九萬

九千貳百參拾壹圓餘ニシテ内金四萬六千百餘圓ハ基本財産ヲ支出シ其餘ハ年々歳入剩餘金ヲ充當スルコトシテ借入金九萬貳千七百圓ヲ以テ一時ヲ補充シ大正五年度ニ於テ之カ償還ヲ了スル事トナレリ

現狀ノ概畧ヲ掲クレハ左ノ如シ

校長(教授兼務)一名教授ハ十九名ニシテ解剖學二名病理學二名醫化學一名生理學一名衛生細菌學一名內科學二名外科學一名眼科學一名產科婦人科學一名神經精神科學一名小兒科學一名皮膚微毒科學一名耳鼻咽喉科學一名獨乙語學一名藥物學一名齒科學一名ナリ
助教授ハ七名ニシテ醫化學一名內科學二名外科學一名神經精神科學一名小兒科學一名獨乙語學一名体操一名ナリ
囑託講師ハ三名ニシテ神經精神科學一名法醫學一名藥物學一名ナリ
幹事一名書記ハ十一名(兼務一)助手十一名ナリ
現在ノ學生數ハ温習生八名一年生百三十九名二年生百五十名三年生九十七名四年生九十五名計四百五十四名其外支那留學生七名朝鮮留學生三名ナリ
又療病院ハ院長ノ外、部長及副部長十二名(兼務十二名)醫員四十一名(兼務六名)調劑員十

名書記十二名(兼務十一名)雇員其他諸備人校院ヲ通シテ九十二名看病人百五十二名ナリ
其他產婆生徒二十八名看護婦生徒百十三名ナリ

明治十七年三月本校第一回卒業生ヨリ以來本年五月ニ至ル總數ハ二千〇九十六名ニシテ卒業生ノ狀況ヲ掲クレハ開業セル者壹千百二十三名教育ニ從事スル者二十四名各病院ニ就職スル者三百八十九名陸軍ニ奉職ノ者八十五名海軍ニ奉職ノ者七名外國ニ開業スル者三十二名一年志願兵三十四名未詳者六十二名本年卒業者七十名死亡者百七十名支那人七名ナリ

又療病院ノ隆昌ハ經濟上本校ノ盛衰ニ至大ノ關係アルヲ以テ各種ノ設備ヲ完成シ將來益々盛大ナル發展ヲ期スヘク計畫シツヽアリ
尙各教室ニハ標本器械ヲ整頓シテ學生ノ研究ニ遺憾ナカラシメ日進ノ醫學ニ伴フ設備ヲ完成シ又一方學生ノ品性修養ニ注意シテ他日國家有用ノ人材ヲ舉クルニ努メントス

專門學校令

〔明治三十六年三月二十七日〕
勅令第六十一號

第一條 高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ專門學校トス專門學校ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ規定ニ依ルヘシ

第二條 北海道府縣又ハ市ハ土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ限り専門學校ヲ設置スルコトヲ得
但シ沖繩縣ハ此限ニアラス

第三條 私人ハ専門學校ヲ設置スルコトヲ得

第四條 公立又ハ私立ノ専門學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第五條 専門學校ノ入學資格ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ
之ト同等ノ學力ヲ有スル者ト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ美術、音樂
ニ關スル學術技藝ヲ教授スル専門學校ニ就テハ文部大臣ハ別ニ其ノ入學資格ヲ定ムルコトヲ得
前項檢定ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 専門學校ノ修業年限ハ三箇年以上トス

第七條 専門學校ニ於テハ豫科研究科及別科ヲ置クコトヲ得

第八條 官立専門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規程
ハ文部大臣之ヲ定ム

公立又ハ私立ノ専門學校ノ修業年限、學科目及其ノ程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規定ハ
公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第九條 公立又ハ私立ノ専門學校ノ教員ノ資格ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 公立専門學校ノ職員ノ旅費及給與ニ關スル規程ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定
ム

第十一條 公立ノ専門學校ニ於テハ授業料ヲ徴収スヘシ但シ特別ノ場合ニハ之ヲ減免シ又ハ徴収
セサルコトヲ得

第十二條 第一條ニ該當セサル學校ハ専門學校ト稱スルコトヲ得ス

附 則

第十三條 本令ハ明治三十六年四月ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 明治二十年勅令第四十八號ハ之ヲ廢止ス

第十五條 既設ノ公立又ハ私立ノ學校ニシテ本令ニ依ルヘキモノハ本令施行ノ日ヨリ一箇年以内
ニ第四條ニ準シ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ手續ヲ爲ササルモノハ前項ノ期間ノ満了ト共ニ廢校シタルモノト看做ス

第一項ノ手續ヲ爲スモ不認可ノ命令ヲ受ケタル者ハ其命令ヲ受ケタル日ニ於テ廢校シタル者ト
見做ス

第十六條 千葉醫學專門學校、仙臺醫學專門學校、岡山醫學專門學校、金澤醫學專門學校、長崎醫學專門學校、東京外國語學校、東京美術學校、東京音樂學校ハ本令執行ノ日ヨリ專門學校トス

公立學校職員制

〔大正六年一月二十七日勅令第五號〕

第一條 公立ノ專門學校及實業專門學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學 校 長

教 授

助 教 授

書 記

前項職員ノ外寄宿舎ノ設アル學校ニ舍監ヲ置ク

第二條 師範學校、公立ノ中學校、高等女學校及實業學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學 校 長

教 諭

助 教 諭

書 記

前項職員ノ外寄宿舎ノ設アル學校ニ舍監、師範學校ニ訓導、附屬幼稚園ヲ置キタル師範學校ニ保母ヲ置ク

第三條 專門學校及實業專門學校ノ學校長ハ奏任官ノ待遇トス

・專門學校及實業專門學校ノ學校ニシテ高等官三等ノ待遇ヲ受ケ在職七年以上ニ至リ功績顯著ナル者ハ二人ヲ限り特ニ勅任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

學校長ハ地方長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條 師範學校長ハ奏任トス、中學校、高等女學校及實業學校ノ學校長ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇トス

學校長ハ地方長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

師範學校ハ兼テ其道府縣内ニ於ケル小學教育ニ屬スル學事ヲ視察ス

第五條 專門學校及實業專門學校ノ教授ハ奏任官ノ待遇、助教授ハ判任官ノ待遇トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第六條 師範學校、中學校、高等女學校及實業學校ノ校長ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇、助教諭ハ

判任官ノ待遇トス生徒ノ教育ヲ掌ル

地方長官ハ師範學校ノ中ヨリ附屬小學校主事ヲ命シ校務ヲ掌ラシム

師範學校ニ附屬幼稚園ヲ置キタル場合ニ於テハ附屬小學主事ヲ兼テ園務ヲ掌ラシム

第七條 師範學校、中學校、高等女學校及實業學校ノ教諭ニシテ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得ル者ノ員數ハ當該學校ニ於ケル學級數八學級以下ノ師範學校、中學校及高等女學校又ハ六學級以下ノ實業學校ニ在リテハ三人以内トシ以上三學級ヲ増ス毎ニ一人ヲ加フルコトヲ得
學校長ヨリ兼任スル教諭ハ前項ノ定員外トス

第八條 專門學校、實業專門學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校ノ舍監ハ教授若ハ助教授又ハ教諭若ハ助教諭ノ中ヨリ之ニ兼任ス但シ特別ノ事情アルトキハ專任ノ舍監ヲ置クコトヲ得

專任舍監ハ判任官ノ待遇トス

舍監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舎ノ事ヲ掌ル

第九條 師範學校ノ訓導ハ判任官ノ待遇トス附屬小學校兒童ノ教育ヲ掌リ兼テ師範學校生徒ノ實地授業ヲ監督ス

第十條 師範學校ノ保姆ハ判任官ノ待遇トス附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十一條 專門學校、實業專門學校、師範學校、中學校、高等女學校及實業學校ノ書記ハ判任官ノ待遇トス學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十二條 本令ニ於テ實業學校ト稱スルハ實業專門學校及實業補習學校以外ノ實業學校ヲ謂フ

附 則

本令ハ大正六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十四年勅令第二百十四号師範學校官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ公立ノ專門學校及實業專門學校ノ教諭又ハ助教諭ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各當該學校ノ教授又ハ助教授ニ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際公立ノ專門學校及實業專門學校ノ教諭又ハ助教諭ニシテ休職中ノ者ニ關シテハ其休職期間中仍其ノ職ヲ存シ置從前ノ例ニ依ル

公立學校職員待遇官等等級令

〔大正六年一月二十七日勅令第七號〕

第一條 公立學校職員ニシテ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ノ官等ハ別表第一表ニ依ル

第二條 公立ノ中學校、高等女學校及實業專門學校ノ學校長ニシテ高等官四等ノ待遇ヲ受ケ在職七年以上ニ至リ功績アル者ハ中學校、高等女學校及實業學校ヲ通シ道府縣各三人ヲ限り特ニ高等官三等ノ待遇ト爲スコトヲ得

第三條 高等官等俸給令第二條第三條第二項及第五條第一項ノ規定ハ奏任ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ノ任免及叙等ニ之ヲ準用ス

公立學校ノ學校長ニシテ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ノ叙等ニハ前項ノ外高等官等俸給令第四條ノ規定ヲ準用ス

第四條 公立學校職員ニシテ判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ等級ハ別表第二表ニ依ル職員制上他ノ職ニ在ル者ヲ以テ兼シムル職ノ等級ハ本職ノ等級ニ依ル

第五條 公立學校職員ニシテ判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ進退ハ地方長官之ヲ專行ス

第六條 公立學校職員ニシテ勅任官奏任官等又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ席次ハ同官等又ハ同等級内ニ於テ文武官吏ノ次席トス

第七條 公式令第十四條第三項第四項及第十五條第三項第四項ノ規定ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ノ官記及免官ノ辞令書ニ之ヲ準用ス

第八條 本令ニ於テ實業專門學校ト稱スルハ實業專門學校及實業補習學校以外ノ學校ヲ謂フ

附 則

本令ハ大正六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十五年勅令第三十九号及明治二十六年勅令第二十二号ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ニシテ別ニ辞令書ヲ交付セラレタル者ハ現ニ配當セラレタル官等々級ノ待遇ヲ受クルモノトス

第一 表

高等女學校	中學校	實業專門學校	實業專門學校	師範學校	高等官三等待遇	高等官四等待遇	高等官五等待遇	高等官六等待遇	高等官七等待遇	高等官八等待遇
學校長	學校長	教授	教授	教授	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

第二表

一判等任待官	二判等任待學	三判等任待官	四判等任待官
月俸五拾圓以上	月俸四拾圓以上 五拾圓未滿	月俸參拾圓以上 四拾圓未滿	月俸參拾圓未滿

公立學校職員俸給令

〔大正六年一月勅令〕
〔第八號ニテ改正〕

明治三十六年勅令第六十六号

- 第一條 本令ニ於テ職員ト稱スルハ公立ノ專門學校、師範學校、中學校、高等女學校及實業學校ノ職員ニシテ勅任官奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ヲ謂フ
- 第二條 勅任官奏任官ノ待遇ヲ受クル專門學校及實業專門學校ノ職員ノ年俸ハ第一號表ニ依ル
- 第三條 奏任官ノ待遇ヲ受クル師範學校、中學校、高等女學校及實業學校〔實業專門學校ノ職員ノ年俸ハ第二號表ニ依ル〕
- 第四條 判任官ノ待遇ヲ受クル職員ノ月俸ハ第三號表ニ依ル
- 第五條 官吏ニシテ在官ノ儘職員ニ任セラレタル者ノ俸給ハ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第六條 一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ特ニ功勞アル職員ニハ本俸ノ三分ノ一以下ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第七條 教員ニシテ舎監、主事ヲ兼ムル者ニハ相當ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第八條 教員ノ俸給ハ其教授時數ニ應シ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第九條 二校以上職員ヲ兼ムル者ノニハ其ノ俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得

第十條 陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル職員ニハ其ノ間俸給ヲ支給セス但シ其俸給額職員ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其不足額ヲ給スルコトヲ得

第十一條 俸給ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増給スルコトヲ得ス但シ奏任官ノ待遇ヲ受クル員ニシテ年俸五百圓以下ノ者及判任官ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ月俸參拾五圓以下ノ者ハ此ノ限リニ在ラス

第十二條 名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若クハ種類ノ異リタル學校ノ職員ニ轉任スル場合ニ於テ支給スル俸給ハ前職ノ俸給額ニ相當スル俸給以下トス若シ相當額ナキトキハ其最モ近キ上級ノ俸給以下トス但シ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ニ在リテハ一級ヲ進ムルコトヲ得

前項ノ規定ハ年俸六百圓以下又ハ月俸四拾圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス

第十三條 退職後一年以内ニ再任セラレ、場合ニ於テハ其俸給ハ前職ノ俸給以下トス

前項ノ場合ニ於テ其前職等級在職一年ヲ踰エタル者ハ前職ノ等級ニ一級ヲ進ムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ年俸六百圓以下又ハ月俸四拾圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス

退職後一年以内ニ名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ任セラレ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十四條 前三條ノ俸給額ニハ加俸ヲ算入セス

第十五條 休職者ニハ其休職中俸給二分ノ一ヲ給ス但シ教員養成ヲ目的トスル官立府縣立學校ニ入學スル場合ニ於テ休職ヲ命セラレタル者ニ付テハ之ヲ給セス又ハ三分一以下ヲ給スルコトヲ得

第十六條 特別ノ事情ニ依リ第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テ地方長官ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條 高等官々等俸給令第三十一條乃至第三十六條ノ規定ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ判任官俸給令第十三條及第十四條ノ規定ハ判任官ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ之ヲ準用ス

第十八條 俸給支給ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定ム

附 則

本令ハ大正六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

公立學校職員制附則第三項ノ規定ニ依リ任セラレタル者本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交附セラレサルトキハ現ニ受タル俸給額ヲ受クルモノトス

第一號表

學 校 長	一級	二級	二級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
教 授	11500	11000	10000	12000	13000	14000	15000	16000	17000	18000	19000	20000

第二號表

學 校 長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級
教 諭	12000	13000	14000	15000	16000	17000	18000	19000	20000	21000	22000	23000	24000	25000

教諭ニシテ十二給俸又ハ十四給俸ヲ給スル者ハ女子ニシテ教諭タル者ニ限ル

第三號表

專門學校 助教授 實業專門 學校	書記	一級	二級	二級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級
		五	七	六	六	五	五	五	四	四	三	三	二	二
		五	七	六	六	五	五	五	四	四	三	三	二	二
		五	七	六	六	五	五	五	四	四	三	三	二	二
		五	七	六	六	五	五	五	四	四	三	三	二	二
		五	七	六	六	五	五	五	四	四	三	三	二	二
		五	七	六	六	五	五	五	四	四	三	三	二	二
		五	七	六	六	五	五	五	四	四	三	三	二	二
		五	七	六	六	五	五	五	四	四	三	三	二	二
		五	七	六	六	五	五	五	四	四	三	三	二	二
		五	七	六	六	五	五	五	四	四	三	三	二	二
		五	七	六	六	五	五	五	四	四	三	三	二	二
		五	七	六	六	五	五	五	四	四	三	三	二	二

公立私立專門學校規程

〔明治三十六年三月三十一日〕
〔文部省令第十三號〕

第一條 專門學校令第四條ニ依リ專門學校ノ設置ノ認可ヲ受ケントスルモノハ公立學校ニ在リテハ管理者私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 位置
- 四 學則
- 五 生徒定員
- 六 敷地建物ノ圖面及其ノ所有ノ區別

- 七 開校年月
- 八 經費及維持ノ方法
- 九 設立者ノ履歷

醫學專門學校ニ就キテハ臨床實習用病院ノ位置、敷地建物ノ圖面、臨床實習用患者ノ定員及解剖用屍體ノ豫定數ヲ具スヘシ

第一項第二項ノ敷地ニ關スル圖面ニハ面積、地質及附近ノ狀況ヲ記シ且飲水料質ノ調査書ヲ添付スヘシ

第一項第一號乃至第七號及第二項ニ掲ケタル事項ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第一項第八號ニ掲ケタル事項ノ變更ハ遲滞ナク文部大臣ニ届出スヘシ

第二條 專門學校ハ校地校舍校具其ノ他ノ必要ノ設備ヲ爲スヘシ

第三條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルヘシ

- 第四條 校舍ニハ左ノ諸室ヲ備フヘシ
- 一 教室
- 二 事務室

- 三 其他必要ナル實驗室、實習室、研究室、圖書室、器械室、標本室、藥品室、製煉室等諸室
校舎ハ教授上管理上并衛生上ニ適當ニテ堅牢ナルコトヲ要ス
- 第五條 校具ハ教授上必要ナル圖書、器械、器具、標本、模型等トス
- 第六條 專門學校ニ於テハ左ノ表簿ヲ備フヘシ
- 一 學則、日課、教科圖書配當表
 - 二 職員ノ名簿及履歷書、出勤簿、擔任學科目及時間表
 - 三 生徒學籍簿、出勤簿、徵兵猶豫ニ關スル書類
 - 四 試驗問題答案及成績表
 - 五 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿
- 生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名族籍居所生年月日入學前ノ學歷、入學退學轉學ノ年月日及學年、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無轉學退學ノ事由、徵兵事故保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ
- 第七條 專門學校ノ教員タルコトヲ得ヘキ者左ノ如シ
- 一 學位ヲ有スル者
 - 二 帝國大學文科大學卒業者又ハ官立學校ノ卒業者ニシテ學士ト稱スルコトヲ得ル者

- 三 文部大臣ノ指定シタル者
 - 四 文部大臣ノ認可シタル者
- 前項第一號乃至第四號ニ該當スル者ヲ得難キ場合ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ一時他ノ者ヲ以テ教員ニ代用スルコトヲ得
- 前二項ニ依リ認可ヲ受ケントスル場合ニハ公立學校ニ在リテハ管理者私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ本人ノ履歷書ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ但シ奏薦ニ依リ任命セラルヘキ者ニ就テハ別ニ認可ノ手續ヲ經ルコトヲ要セス
- 文部大臣ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ場合ニ於テ學術ノ檢定ヲ行フコトアルヘシ
- 本條ニ依ル文部大臣ノ認可ハ當該學校在職中ニ限り有効トス
- 第八條 專門學校ニ於テ本科生徒ヲ入學セシムルハ毎年一回トス其期間ハ三十日以内トス但シ學科課程相同シキ專門學校間ニ於ケル生徒ノ轉學ニハ本文ヲ適用セス專門學校ノ本科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ本科第一學年ニ入學スルコトヲ得ル資格ヲ有シ且前各學年ノ學科課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ學年級ヲ設ケサル專門學校ニ就キテモ亦之ニ準ス
- 前項入學者ノ學力ハ總テ試驗ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第九條 美術學校音樂學校ノ入學資格ハ中學校若クハ高等女學校第三學年修了ノ程度以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

- 一 性行不良ニシテ改後ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一箇年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

第十一條 學校長ハ教育必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第十二條 專門學校學則中ニ規定スヘキ事項凡ソ左ノ如シ

- 一 入學資格、修業年限、學科、學科目、學科程度ニ關スル事項
- 二 學年、學期、休業日ニ關スル事項
- 三 入學、退學、進級、卒業等ニ關スル事項
- 四 懲戒ニ關スル事項
- 五 入學料、授業料等ニ關スル事項

六 豫科、研究科、別科ニ關スル事項

七 寄宿舎ニ關スル事項

第十三條 專門學校令第四條ニ依リ專門學校ノ廢止ノ認可ヲ受ケントスルモノハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請ス可シ

第十四條 專門學校令第十五條ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケントスルモノニ付テハ本令第一條ヲ準用ス

第十五條 實業專門學校ニ關シテハ特別ノ規定アル場合ニハ本令ヲ適用セス

附 則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

明治十五年文部省達第四號同第五號及第六號中甲種藥學校ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

專門學校入學者檢定規程

〔明治三十六年三月三十一日〕
〔文部省令第十四號〕

第一條 專門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校若クハ修業年限四箇年以上ノ高等女學

校ヲ卒業セサル者ハ此規程ニ依リ檢定ヲ受クヘキモノトス

第二條 檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

一 年齡男子ハ滿十七年以上女子ハ滿十六年以上ナルコト

二 身體健全ナルコト

三 品行方正ナルコト

四 現ニ中學校若クハ高等女學校ニ在學セサルコト

第三條 檢定ヲ分テ試験檢定無試験檢定ノ二トシ試験檢定ハ官公立ノ中學校若クハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ニ於テ便宜之ヲ行ヒ無試験檢定ハ當該專門學校ニ於テ生徒入學ノ際之ヲ行フ

第四條 試験檢定ノ學科目及其程度ハ中學校若クハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ各學科目及其ノ卒業ノ程度トス但シ中學校若クハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セサルコトヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第五條 官立公立ノ中學校若クハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ニ合格シタル者ニハ試験檢定合格證書ヲ交附スヘシ

第六條 官立公立ノ中學校若クハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ノ問題答案及成績表ハ五箇年以上保存スヘシ

第七條 官立公立ノ中學校若クハ高等女學校ニ於テハ試験檢定手数料ヲ徴収スルコトヲ得

第八條 左ニ掲クル者ハ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

一 文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校若クハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者

二 明治三十五年文部省告示第八十二號ニ依リ高等女學校入學ノ豫備試験ニ合格シタル者

附 則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

京都府立醫學專門學校職員留學規程

〔大正四年三月十六日
京都府訓令第七號〕

第一條 學術技能研究ノ爲京都府立醫學專門學校職員ヲ外國又ハ内地ニ留學セシムル必要アルトキハ知事之ヲ命ス

第二條 留學者ノ研究學科留學地及留學ノ期間等ハ學校長之ヲ定メ知事ニ上申スヘシ

第三條 外國留學者ノ年俸支給額ノ三分ノ二カ千八百圓ヨリ少キトキハ千八百圓ニ滿ツルマテノ額ヲ一年分ノ學資トシテ支給ス但其支給方法ハ留學地ニ到着ノ日ヨリ起算シ歸朝ノ爲メ該地發ノ日マテ日割計算ニ依ルモノトス外國留學中歸朝ヲ命シ又ハ死亡シタルトキハ學資ヲ月割トシ其ノ當月分マテヲ支給ス

一箇年以内ノ外國留學者ニハ學資ヲ支給セス

内地留學者ニハ學資ヲ支給セス但特別ノ事情アル者ニハ之ヲ支給スルコトアルヘシ

第四條 外國留學者ニハ明治二十年閣令第十二號外國旅費規則ニ依リ判任官ノ等級ニ相當スル往復旅費ヲ支給ス但内地通過ノ場合ハ其ノ身分ニ應シ相應ノ内國旅費ヲ支給ス

外國留學中死亡シタルトキハ歸朝旅費ニ代ヘ五百圓以内ヲ其ノ相續人ニ支給ス

内地留學者ニハ其ノ身分ニ應シ相當ノ往復旅費ヲ支給ス

第五條 留學ヲ命セラレタル者ハ歸朝又ハ歸校ノ日ヨリ其ノ留學期間ノ二倍ニ當ル期間知事ノ指定スル職務ニ從事スルノ義務ヲ有ス

但シ外國留學期間滿了後引續キ私費留學ヲ許可シタルトキハ其私費留學期間ニ付亦同シ

第六條 外國留學者ニシテ知事ノ命令ニ違背シ又ハ不都合ノ行爲アリタルトキハ其支給シタル學

資及往復旅費ニ相當シタル金額ヲ償還セシム

前條ノ義務ヲ盡サザルトキ亦前項ニ同シ但特別ノ事情アリト認ムルトキハ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第七條 留學者ハ自己ノ都合ニ依リ留學中半途ニシテ歸朝又ハ歸校スルコトヲ得ス但シ疾病ニ依リ留學ニ堪ヘ難キトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ知事ノ許可ヲ受クヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ特ニ急症ニシテ診斷書ヲ以テ許可ヲ受クルノ暇ナキトキハ電信ヲ以テ許可ヲ受クヘシ

第八條 留學者ハ滿半ケ年毎ニ其研究事項ニ關スル申報書ヲ學校ヲ經テ知事ニ差出スヘシ

第九條 留學者歸朝又ハ歸校シタルトキハ留學中學校等ニ於テ受領シタル學業證書類ヲ添ヘ留學顛末書ヲ學校長ヲ經テ知事ニ差出スヘシ

第十條 外國留學ヲ命セラレタルトキハ保證人連署ヲ以テ誓書ヲ作り學校長ヲ經テ知事ニ差出スヘシ

保證人二人以上トシ戸主ニシテ相當ノ身分又ハ資産ヲ有シ適當ト認メタル者ニ限ル

第十一條 職員中私費ヲ以テ外國又ハ内地ニ留學スルコトヲ出願スル者アルトキハ知事ハ之ヲ許

可スルコトアルヘシ

前項留學者ニハ第八條第九條及第十條ヲ適用ス

第十二條 前條ノ留學者ハ歸朝又ハ歸校ノ日ヨリ知事ノ指定スル職務ニ従事スル義務ヲ有ス其義務年限ハ留學期間ノ二倍ヲ起エザル範圍ニ於テ知事之ヲ定ム

附 則

第十三條 明治三十七年四月京都府訓令第三十六號京都府立醫學專門學校職員海外留學規程ハ之ヲ廢止ス

京都府立醫學專門學校職制

〔大正三年十月
訓令第一五六號〕

第一條 京都府立醫學專門學校ニ左ノ職員ヲ置キ其定員ハ別ニ之ヲ定ム

- 學 校 長
- 教 授
- 助 教 授
- 幹 事

書 記

助 手

第二條 學校長ハ知事ノ命ヲ受ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

學校長事故アルトキハ主席教授其事務ヲ代理ス

第三條 教授ハ學校長ノ命ヲ受ケ學生ノ教育ヲ掌ル

第四條 教授中學生監一名ヲ置キ校長ノ命ヲ受ケ專ラ學生ノ取締ニ關スル事ヲ掌ラシム

第五條 助教授ハ教授ヲ助ク

第六條 幹事ハ學校長ノ命ヲ受ケ庶務、會計ヲ掌ル

第七條 書記ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務、會計ニ従事ス

第八條 助手ハ教授ノ指揮ヲ承ケ實習實驗ニ従事ス

第九條 必要ノ時間ヲ限リ教授ヲ分擔セシムルカ爲メ代用教員ヲ置キ教務ヲ囑託スルコトヲ得

第十條 學校長ハ處務細則ヲ定メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

京都府立醫學專門學校處務細則

〔大正三年十一月十日改訂〕

第一條 校務ハ回議ニ依リ學校長ノ裁決ヲ經テ執行スヘシ
但恒例又ハ簡單ノモノハ口頭ニ依ルコトヲ得

第二條 各教授、助教授及囑託教員ハ學校長ノ定ムル時間割ニ依リ學術又ハ實習ノ教授ヲ掌ルヘシ

第三條 職員出校ノ節ハ勤怠簿ニ捺印シ而シテ教授又ハ主務ニ就クヘシ

但定時マテニ出校シ得サルモノハ其時間二十分前マテニ其事由ヲ届出ツヘシ

第四條 當病缺勤ノトキハ出校定時前ニ其ノ届書ヲ差出スヘシ

但缺勤一週間以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ引籠届ヲ差出スヘシ

第五條 教務及庶務ノ二課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

教務課ニ於テ分掌スル事務左ノ如シ

- 一 學生訓育ニ關スルコト
- 二 教室整理ニ關スルコト
- 三 學生賞罰ニ關スルコト

四 授業時間ニ關スルコト

五 教科用圖書ニ關スルコト

六 學生入學、休學、退學ニ關スルコト

七 試業試問及成績ニ關スルコト(學士稱號)

八 學生ノ衛生ニ關スルコト

九 學生ノ體格検査ニ關スルコト

十 學生ノ勤惰ニ關スルコト

十一 學生ノ諸集會ニ關スルコト

十二 學生ノ學籍整理ニ關スルコト

十三 學用患者及解剖ニ關スルコト

十四 產婆看護婦講習ニ關スルコト

庶務課ニ於テ分掌スル事務左ノ如シ

- 一 職員ノ進退及服務ニ關ルコト
- 二 印章管守及諸規則ニ關スルコト

- 三 祝日祭日等ノ儀式ニ關スルコト
- 四 文書ノ起案及送受ニスルコト
- 五 記録、年報、統計、報告ニ關スルコト
- 六 學生ノ諸證明ニ關スルコト
- 七 學生ノ兵事ニスルコト
- 八 學生ノ募集ニ關スルコト
- 九 圖書閱覽室ニ關スルコト
- 十 校内衛生及取締ニ關スルコト
- 十一 學生ノ授業料其他料金徴収ニ關スルコト
- 十二 豫算決算及諸給與ニ關スルコト
- 十三 參觀人取扱ニ關スルコト
- 十四 器具器械及用度品供給保管ニ關スルコト
- 十五 前各項ノ外雜務ニ關スルコト
- 第六條 實驗室、實習室及研究室ハ其主席職員之ヲ管理シ左ノ事項分掌シ其責ニ任スルモノトス

- 一 室内ノ器具器械及圖書保管ノコト
 - 二 實驗材料供給ノコト
 - 三 室内取締ニ關スルコト
 - 第七條 學生監ハ學生ノ勤惰ヲ監視シ風紀ノ保持ヲ努ムヘシ
 - 第八條 學生監ハ學生中怠惰ニシテ風紀ヲ紊ルモノアリト認ムルトキハ之ヲ戒諭シ其情狀重キモノハ學校長ニ意見ヲ開申スヘシ
 - 第九條 各課及各室ニ分屬スル職員ハ主席職員ノ指揮ニ依リ其職務ヲ分掌スヘシ
- 立府立學校長職務規程**
- 〔大正三年六月
府訓令第一一六號〕
- 第一條 學校長ハ別段ノ規程アルモノヲ除クノ外本規程ニ依リ校務ヲ處理スヘシ
 - 第二條 左ノ事項ハ知事ニ具申スヘシ
 - 一 職員ノ任免進退及賞罰ニ關スル事
 - 但教員任用申書ニハ擔任學科目ヲ記入スヘシ
 - 二 學則ノ改定ニ關スル事

- 三 歲入出豫算ノ調製ニ關スルコト(毎年六月十日限り)
- 四 學校長ノ出張ニ關スルコト
 - 但宿泊ヲ要セサル場合ハ第四條第一項第四號ニ依ル
- 第三條 左ノ事項ハ知事ノ認可ヲ受ケテ施行スヘシ
 - 一 月手當貳拾圓以上年手當貳百圓以上ノ囑託員ノ囑託及解囑ニ關スルコト
 - 但シ施行後直ニ其年月日ヲ報告スヘシ
 - 二 臨時休業ニ關スルコト
 - 但認可ヲ受ケル暇ナキトキハ施行後直ニ事由ヲ具シテ報告スヘシ
- 第四條 第一項第三號規定以外ノ生徒修學旅行ヲナサントスルトキ
 - 一 生徒募集ニ關スルコト
 - 二 俸給及雜給豫算定額内ニ於テ月手當貳拾圓未滿年手當貳百圓未滿ノ囑託員ノ囑託及解囑并ニ備員ノ進退ニ關スルコト
 - 三 最高二箇學年ノ男生徒五泊以内ノ修學旅行及宿泊ヲ要セサル生徒修學旅行ニ關スルコト

- 四 豫算定額内ニ於ケル學校長ノ宿泊ヲ要セサル出張ニ關スルコト
 - 五 豫算定額内ニ於ケル職員ノ内地出張ニ關スルコト
 - 六 職員ノ暇賜旅行及缺勤ニ關スルコト
 - 七 職員ノ忌引及除服ニ關スルコト
 - 八 生徒兒童ノ入退學許否ニ關スルコト
- 前項第一號及第三號前段ノ事項ハ豫メ知事ニ申報スヘシ第二號ノ囑託員ニ就テハ施行後直ニ其年月日手當額擔任科目ヲ開申スヘシ
- 第五條 左ノ事項ハ直ニ知事ニ報告スヘシ
- 一 教授管理並ニ處務ニ關スル諸規定ノ制定又ハ改廢シタルトキ
 - 二 職員出張調査シタル事項ノ詳細
 - 三 生徒ノ入學ヲ許可シタルトキハ(他ノ學校ヨリ轉學ノモノヲ除ク)其許否、ノ數學年別並ニ郡市府縣別
 - 但師範學校ニ在リテハ公費私費ヲ區別スヘシ
 - 四 卒業證書ヲ授與シタルマキハ成績順ニ依リ卒業生ノ學科族籍氏名生年月日及將來ノ志望別

人員

- 五 生徒ノ停學又ハ退學處分ヲナシタルトキハ其事實ノ詳細
- 六 傳染病患者ヲ發生シタルトキハ其生徒學年氏名發病ノ原由消毒施行ノ狀況等
- 第六條 本規程ニ規程セサル事項ニシテ重要ナルモノハ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

京都府醫學專門學校學則

〔大正六年三月改正〕

第一章 總 則

- 第一條 本校ハ醫學ヲ教授スル所トス
 - 第二條 學業年限ハ四ヶ年トス
 - 第三條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
 - 第四條 學年ヲ分チテ左ノ二學期トス
 - 前學期 四月一日ヨリ十月三十一日ニ至ル
 - 後學期 十一月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル
- 第二章 學科課程及授業時數

第五條 學科目ハ倫理、獨逸語、醫化學、解剖學、生理學、病理學、藥物學、細菌學、衛生學、內科學、小兒科學、外科學、皮膚病微毒學、耳鼻咽喉科學、眼科學、產科學、婦人科學、精神醫學、法醫學、齒科學、體操トス

第六條 學科課程及授業時數ハ左表ノ如シ

學科課程表

學科目	倫理	獨逸語	醫化學	學 程		第一學年		第二學年		第三學年		第四學年	
				度	象	前學期	後學期	前學期	後學期	前學期	後學期	前學期	後學期
解剖學講義			四										
解剖學實習					一〇	八							
醫化學講義								五					
醫化學實習									(六)				
解剖學實習										(一八)	(一八)		

第三章 休業

第七條 休業日ハ左ノ如シ

大祭日

祝日

本校紀念日 四月十六日

夏季 七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル

冬季 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

日曜日

春季 四月一日ヨリ四月十日ニ至ル

第四章 入學

第八條 入學期ハ每學年ノ始トス

第九條 本校ノ學生タルコトヲ得ヘキ者ハ身體健康品行方正ノ男子ニシテ中學校卒業者若クハ專門學校入學者檢定規程第五條及第八條ニ該當スル者タルヘシ

第十條 入學セント欲スルモノハ毎年三月一日ヨリ同月三十一日迄ニ第一號書式ノ入學願書ニ第

二號書式ノ履歷書及學校長ノ卒業證明書又ハ檢定試驗合格證書寫ヲ添ヘ本校ニ差出スヘシ

但入學試驗期日ハ其都度之ヲ定ム

第十一條 入學志願者ノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ選抜試驗ヲ行ヒ入學者ヲ選定ス

但外國語ハ獨逸語英語ノ内各自ノ望ニ任ス

第十二條 入學志願者中官公立醫學專門學校生徒トシテ其學校長ノ證明書ヲ有シ第九條ノ資格ア

ル者ニ限リ入學期ニ於テ學年相當ノ學業試驗ヲ行ヒ之ヲ編入スルコトアルヘシ

但退學後滿二箇年ヲ經過セル者ハ第十三條ニ準ス

第十三條 第二學年以上ニ入學セント欲スル者ハ缺員アルトキニ限リ入學期ニ於テ之ヲ許スコト

アルヘシ此場合ニ於テハ第九條ノ資格ヲ有スル者ニ限リ順次學年ニ相當スル試驗ヲ受クヘキ

モノトス

第十四條 外國人ニシテ入學セントスル者ハ特別入學規程ニ據リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條 退學ヲ許シタル者再入學ヲ出願スルトキハ退學後滿二箇年ヲ經過セサル者ニ限リ入學

期ニ於テ詮議ノ上原級以下ニ入學セシムルコトアルヘシ

第十六條 退學ヲ命セラレタル者次學年後ニ於テ再入學ヲ出願スルトキハ改悛ノ實アル者ニ限リ

詮議ノ上入學期ニ於テ原級以下ニ編入スルコトアルヘシ

第十七條 入學志願者ニハ總テ體格検査ヲ施行ス

第十八條 入學志願者ハ入學檢定料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ但既納ノ檢定料ハ入學願ヲ取消シ又ハ檢定ヲ受ケサルモ之ヲ還付セズ

第五章 在學

第十九條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ第三號書式ニ依リ在學保證書ニ戶籍謄本及入學料金壹圓ヲ添ヘ指定期日迄ニ差出スヘシ但再入學ノ許可ヲ得タル者モ亦同シ

第二十條 保證人ハ父兄若ハ親戚ノ者一名トシ學生ノ身分一切ヲ引受クルニ足タルヘキ者トス

第二十一條 保證人死去若ハ他ノ事故ニヨリ其義務ヲ盡スコト能ハサルニ至リタルトキハ速ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ保證書ヲ差出スヘシ但シ轉住其他身分ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ届出ヘツシ

第二十二條 正當ノ事由ナク指定期日迄ニ在學保證書并ニ入學料ヲ納メサルモノハ入學ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第六章 休學及退學

第二十三條 兵役ノ爲メ休學ヲ願フモノハ其服役中ニテ許ス

第二十四條 學生疾病其他ノ事故ニヨリ休學又ハ退學セント欲スルトキハ其事由ヲ詳記シ疾病ハ診斷書ヲ添ヘ保證人連署願出ツヘシ

第七章 試驗及進級

第二十五條 試驗ハ學年試驗及卒業試驗ノ二トス

第二十六條 學年試驗ハ學年ノ終ニ於テ其學年中履修シタル學科ニ就キ之ヲ行フ但シ學年ノ中途ニシテ終了シタル學科ハ其際學年試驗ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 削除

第二十八條 削除

第二十九條 試驗ノ成績ハ總テ點數ヲ以テ之ヲ表ハシ一學科百點ヲ以テ滿點トシ各學科五十點以上ニシテ平均點六十點以上得タル者ヲ及第トス但シ試驗科目ノ半數以上六十點未滿ノ點數ヲ得タル者ハ假令平均六十點以上ヲ得タルモ落第トス

第三十條 第四學年試驗ニ及第シタル者ニアラサレハ卒業試驗ヲ受タル事ヲ得ス

第三十一條 卒業試驗ハ四月ヨリ五月ニ亘リ之ヲ行フ

第三十二條 卒業試験ヲ左ノ二試験ニ分ツ

第一試験

解剖學、生理學、醫化學、病理學、藥物學、衛生及細菌學

第二試験

內科學、外科學、眼科學、產科及婦人科學

以上ノ外小兒科學、耳鼻咽喉科學及皮膚微毒科學中ニ就テ抽籤ヲ以テ其一科目ヲ試問ス

第三十三條 第一試験ニ合格シタル者ニアラサレハ第二試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三十四條 卒業試験ニ於ケル各學科ノ成績ハ學年ノ成績ヲ參照シテ之ヲ決定シ六十點以上ヲ合格トス

第三十五條 第一試験及第二試験ニ於テ六十點以下ノ成績ヲ得タル者ハ五日以内ニ該學科ノ再試験ヲ受ケシメ尙六十點以下ノ成績ヲ得タル學科目アルトキハ落第ス但シ次回ノ卒業試験期ニ於テハ不合格ノ學科ノミヲ受験セシメ本條ヲ適用スルモノトス

第二十六條 總テ試験ノ日ニ當リ疾病其他止ムヲ得サル事故ニ依リ缺席スル者ハ事由ヲ詳記シ疾病ハ診斷書ヲ添ヘ當日迄ニ願出タル者ニ限り次學年ノ始ニ於テ追試験ヲ行フ

第三十七條 停學處分又ハ品行不良學業怠慢等ノ爲メ訓戒ヲ受ケタル者ニハ追試験ヲ許サス

第三十八條 一學年ノ授業時數中授業ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及フ者ハ進級ヲ許サス

第三十九條 卒業試験ニ及第シタルキハ第四號書式ノ卒業證書ヲ授與ス

第八章 温習生、特待生、得業士、醫學士、研究生

第四十條 第四學年試験ニ及第シタル後卒業ニ至ル間ヲ温習生ト稱シ志望ノ學科ニ就キ温習セシムル者トス

第四十一條 學力優等品行方正ナル者各級ヲ通シテ十二名以内ヲ撰拔シテ特待生トス

第四十二條 特待生ハ學校長之ヲ定ム

第四十三條 學校長ニ於テ特待生ノ資格ヲ失フ者ト認ムルトキハ之ヲ解除ス

第四十四條 特待生ニハ授業料及實習料ヲ徴収セス

第四十五條 明治四十二年以後ノ卒業生ハ京都醫學專門學校醫學士ト稱スルコトヲ得

明治四十一年以前ノ卒業生ニシテ左ノ一ニ該當シ入學シタル者ニ限り白著ノ論文ヲ提出シ審査

ニ合格シタル者ハ京都醫學專門學校醫學士ト稱スルコトヲ認可ス

一 元尋常中學校及中學校卒業生

二 専門學校入學檢定規程ニ依リ施行シタル檢定試験ニ合格シタル者及同規程第八條第一號ノ指定ヲ受ケタルモノ

三 専門學校改稱以前本校ニ於テ尋常中學校卒業程度以上ノ入學試験ニ合格シタルモノ
明治四十一年以前ノ卒業生ハ京都醫學得業士ト稱スルコトヲ得

第四十六條 論文ヲ提出シ稱號請求ノモノハ檢定手数料トシテ金參拾圓ヲ納付スヘシ但シ已納ノ檢定手数料ハ自己ノ都合ニ依リ取消シ又ハ檢定ヲ受ケサルモ還付セス

第四十七條 本校卒業生ニシテ尙希望ノ學科ヲ専攻セント欲スルモノハ研究生ト稱シ特別ノ規程ニ據リ入學ヲ許ス

第九章 授業料、實習料

第四十八條 授業料ハ一學期金貳拾五圓トス

第四十九條 實習料ハ一學期第一學年及第二學年ハ各金七圓五拾錢第三學年及第四學年ハ各金拾圓トス

第五十條 授業料及實習料ハ左ノ二期ニ納付スヘシ若シ其期限内ニ納付セサル者ハ未納中停學ヲ命シ保証人ニ通知シ其未納二十日ニ及フ者ハ退學セシム

第一期 自四月廿一日 至四月廿四日

第二期 自十一月廿四日 至十一月廿七日

第五十二條 温習生ノ授業料ハ一ヶ月金五圓トシ左ノ四期ニ分チテ三ヶ月分宛前納セシム

第一期 自四月二十日 至四月二十三日

第二期 自七月二十日 至七月二十三日

第三期 自十月二十日 至十月二十三日

第四期 自一月二十日 至一月二十三日

第五十二條 授業料及實習料ハ休學シ又ハ半途退學スルモノト雖之ヲ減免セス但第二十三條ニ依リ休學スルモノハ次納期分ヨリ之ヲ免除シ除隊ノトキハ其學期分ヨリ徴収ス又戰時召集ノ爲メ休學スル場合ハ授業料及實習料ヲ免除スルコトアルヘシ

戰時若クハ事變ニ際シ出征又ハ應召軍人ノ子弟ニシテ特別ノ事情アリト認ムルモノニ對シテハ前條ノ授業料額及實習料額ヲ減シ又ハ免除スルコトアルヘシ

第五十三條 授業料及實習料未納ノ爲メ退學ノ處分ヲ受ケタル者ハ之ヲ追徴セス

第五十四條 既納ノ授業料及實習料ハ何等ノ事故アルモノ之ヲ返附セス

第十章 處分

第五十五條 學生ニシテ校則命令ニ違背シタル者ハ事ノ輕重ニ依リ譴責若クハ停學ニ處ス
第五十六條 左ノ各項ニ該當スルモノアルトキハ退學ヲ命ス

- 一 校規命令ニ背キ其情狀最モ重キモノ
- 二 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタルモノ
- 三 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタルモノ
- 四 引續キ一ケ年以上缺席シタルモノ及出席常ナラサルモノ
- 五 正當ノ理由ナクシテ一ケ月以上缺席シタルモノ

第十一章 附則

第五十七條 本學則ノ外學生黨陶上ニ關シ必要ナル細則ハ校長之ヲ定ム

(第一號書式)

入學願書

(用紙美濃紙)

私儀今般御校何年級へ入學志願ニ付學力御試驗(外國語ハ獨逸語)(英語)ヲ以テ并ニ身體檢査ノ上入學御許可相成度(別紙何々

學校長ノ證明書)(檢定試驗合格證書寫學業履歷書及入學檢定料金五圓相添此段相願候也

原籍身分何某長次男又弟

(片仮名ヲ附スヘシ)

年 月 日

何

某

印

生 年 月 日

宿所(通信上便宜ノ所ヲ記スヘシ)

京都府立醫學專門學校長何某殿

(第二號書式)

學業履歷書

一何年何月ヨリ何年何月迄何地(官、公、私)立何學校ニ入學又ハ何
某ニ從ヒ何學卒業云々

年 月 日

何

某

印

(第三號書式)

在學保證書

(用紙ハ本校ヨリ交付ス)

三錢收
印入印紙
貼附

本籍族籍 現在宿所 戶主

何某長次男又弟

何

某

生年月日

右者今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク遵守致サスヘキハ
勿論在學中ニ係ル一切ノ事件ハ拙者ニ於テ引受申可候仍テ保證候也

本籍 族籍 職業 現在宿所

父兄又親戚ノ關係

大正 年 月 日

保證人 何

某印

生年月日

京都府立醫學專門學校長何某殿

(第四號書式)

卒業證

校印

何府縣族籍

何

某

生年月日

京都府立醫學專門學校規定ノ學術ヲ修了シ正ニ其業ヲ卒ヘタ
リ依テ之ヲ證ス

年 月 日

京都府立醫學專門學校長位勳學位何某

印

第 號

外國人特別入學規程

一 外國人ニシテ本校所定學科ノ一科若クハ數科ノ教授ヲ受ケンコトヲ出願スルモノアルトキ
ハ志願者ノ學力ヲ試驗シ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

- 二 前條ノ志願者ニシテ本邦中學校卒業以上ノ學力アリト認ムルトキハ特ニ無試験入學ヲ許可ス
- 三 入學志願者ハ入學願書ニ外務省在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介狀及履歷書ヲ添附シ學校長ニ出願スヘシ
- 四 本則ニヨリ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケントスルトキハ試験ヲ施シ擔任教授ノ證明ヲ認了シ之ヲ付與ス
- 五 本則ノ外總テ本校規則ヲ適用ス

研究生規程

- 一 研究生ハ本校卒業生ニシテ希望ノ學科ヲ選ヒ之ヲ研究スル者トス
 - 二 研究生タラント欲スル者ハ所選ノ學科ヲ記シ左式ノ願書ヲ差出スヘシ
- 研 究 生 願
- 私儀御校醫學全科ヲ卒業仕候ニ付今回研究生規程ニ依リ何科研究仕度此段相願候也

年 月 日

第何回卒業生何某印

京都府立醫學專門學校長何某殿

- 三 研究生ハ研究料一學科ニ一ヶ月金五圓ヲ毎月指定ノ期日迄ニ納付スヘシ
- 四 研究生ハ本規程ノ外總テ學生ト同シク本校ノ規則ヲ遵守スヘキ者トス
- 五 本校卒業生ニアラサル醫師ニシテ研究ヲ願出ツル者アルトキハ缺員アルトキニ限り許可スルコトアルヘシ

學 生 心 得

- 第一條 本校學生ハ左ノ各項ヲ服膺シ躬行實踐ヲ務ムヘシ
 - 一 徳性ヲ涵養シ學術ヲ研磨シ學生ノ本分ヲ盡スヘシ
 - 二 校規ヲ守リ師長ヲ敬長シ學友ヲ信愛シ苟モ輕浮ノ言動アルヘカラス
 - 三 高潔健全ナル氣風ヲ養成シ以テ純良ナル校風ヲ發揚スヘシ
- 第二條 教室及實習室ニハ授業時間ノ外出入スルヲ許サス
- 第三條 教室ニアリテハ專ラ靜肅ヲ旨トスヘシ其出入ノトキ又同シ

第四條 授業中教室ニ出入シ又ハ妄リニ座位ヲ離ル、コトヲ許サス若シ止ムヲ得サル場合ハ教員又ハ教務課ノ指揮ヲ受クヘシ

第五條 授業中ハ一切質問ヲ禁ス若シ疑義等アラハ講義了ルノ後教員ヘ申告シ許可ヲ得テ質問スルヲ得

第六條 授業中又ハ試験施行中教室近傍ニ於テ高聲雑話等苟モ喧囂ノ舉動ヲナス可ラサルハ勿論其教室内ヲ窺フ可ラス

第七條 教室及實習室内ニ於テ教員ノ許可ナク猥リニ授業用器械圖書或ハ標本等ニ手ヲ觸ルヘカラス縦令教員ノ許可ヲ得ルモ破損汚染等ナキ様注意スヘシ

第八條 病氣其他ノ事故ニテ缺課セント欲スルモノハ豫メ日數ヲ記シ病氣ハ主治醫ノ診断書ヲ添ヘ事故アルモノハ其事由ヲ詳記シ保證人連署ノ上届出ツヘシ

第九條 校内ノ建物其他ノ物件ヲ毀損又ハ汚染スヘカラス若シ之ヲ爲シタルトキハ辨償セシムルコトアルヘシ

第十條 指定ノ場所以外ニ於テ飲食喫煙スヘカラス
第十一條 一般學生ハ勿論臨床實習生ト雖其授業時間ノ外猥リニ附屬療病院内ニ立入ルヘカラス

但臨床實習生ハ實習ノ爲メ學用患者室ニ入ルコトヲ得ルト雖トモ許可ナク他ノ病室ニ入ルコトヲ禁ス

第十二條 學生ハ豫メ宿所ヲ届出テ許可ヲ受クヘシ但一旦認可シタル場所ト雖モ特ニ必要ヲ認めルトキハ更ニ轉宿ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 示達及報告ハ速ニ了得スヘキ者ナレハ時々揭示ニ注意スヘシ但シ揭示ハ一週日ヲ經レハ一般了得シタルモノトシ之ヲ取除クコトアルヘシ

第十四條 學生ハ學校長ノ許可ヲ得ルニ非ラサレハ他ノ學校ノ入學試験ヲ受クルヲ得ス
第十五條 學生ノ集會ハ左ノ規定ニ從フヘシ

- 一 學術會運動會其他ノ會ヲ創立セントスルトキハ願書ニ規則書ヲ添附シ認可ヲ受クヘシ
- 二 集會ヲ爲サントスルトキハ其都度教務課ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ
- 三 集會ハ校内ニ於テスヘシ
- 四 集會ノ爲メ校舍并ニ器具ヲ借用セントスルトキハ其旨教務課ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ
- 五 學術ニ關スル演說討論ヲ爲サントスルトキハ演題及討論題ヲ教務課ニ届出ツヘシ
- 六 許可ヲ得ルニ非ラサレハ校内内外ヲ問ハス多衆集合スヘカラス

第十六條 本細則ニ違背シタルモノハ校則第五十五條及第五十六條ニ據リ處分スヘシ

九十

診察實習心得

第一條 各診察室ハ勿論院内ニ於テハ總テ靜肅ヲ旨トシ高聲ニ談話シ又ハ喫煙スルヲ許サス
但シ場所ヲ指定シ喫煙ヲ許スコトアルヘシ

第二條 診察室又ハ手術室等ニ於テハ教授及醫員ノ許可ナク藥品、器械類、材料品病床日誌、處方録等ヲ使用スヘカラス又看病婦ヲ使用シ或ハ之レト雜談スルヲ許サス

第三條 豫診ノ際ハ言語舉動ヲ肅ミ患者ニ對シ叮嚀ヲ旨トシ且ツ一患者ニ對シ多數ノ學生集合豫診スヘカラス

第四條 各診察室及手術室等ニハ規定ノ學生以外出入スルヲ得ス

第五條 診察室ニ於ケル實習ハ各教授ノ診察時間限リトス以後學生ノ在室ヲ許サス
但シ授業上必要ニ際シ主任教授ノ許可シタル時ハ此限リニアラス

第六條 學用入院室ニハ受持ノ學生ニ限リ出入スルヲ得ルト雖モ午後點燈三十分前以後ハ之ヲ禁ス若シ時限後研究ヲ要スル場合ハ當直ヲ經テ幹事ノ承認ヲ受クヘシ

第七條 學生ハ猥リニ院内ヲ徘徊スヘカラス午後點燈三十分前以後ハ幹事ノ承認シタルモノ、外總テ出入ヲ嚴禁ス

第八條 學生ハ患者ニ對シ病名ヲ告ケ若クハ研究上ノ結果并ニ症狀ニ對スル注意等ヲナスヲ得ス

第九條 學生ハ制服ヲ着用スルニ非ラサレハ院内ニ於テ實習ニ從事スルヲ得ス

第十條 前各項ノ外臨時ニ生シタル事故ハ總テ幹事ノ指揮ヲ受クヘシ本心得ヲ犯スモノハ校則ニ依リ處分ス

級長規程及心得

第一條 各級ニ級長一名副級長二名ヲ置ク

第二條 級長及副級長ノ任期ハ一學年間トス

第三條 級長副級長ハ各級學生互選ノ上三名ツ、候補ヲ定テ首席學生之ヲ届出ツヘシ
但級長副級長一名ハ席次十番以上ノモノヲ選出スヘシ

第四條 級長副級長ハ校長之ヲ命ス

第五條 級長ノ任務ハ校命ノ傳達級情ノ上申等各級一體ニ係ル諸般ノ件ニ干與ス副級長ハ級長ヲ

九十一

佐ケ又級長事故アルトキハ副級長之レニ代ル

第六條 級長及副級長ハ其級ヲ代表スルモノナルカ故ニ總テノ事ニ就キ其模範トナルヲ期スヘシ

第七條 校則ニ悖戻シ及素行脩マラサル輩ニ對シ級長ハ其級ヲ代表シテ懇切ニ善導ノ友誼ヲ盡ス

ヘシ若シ尙反省ノ實ナキトキハ校長ニ上申シ指揮ヲ俟ツヘシ

學生服制規程

第一條 本校學生ハ制服ヲ着用スルノ外昇校スルヲ得ス

但シ病氣ノ爲メ和服用ノ必要アルトキハ附屬療病院ノ診斷書ヲ添ヘ願出テ許可書ヲ受ク

ヘシ

第二條 學生ノ制服左ノ如シ

制帽

品質

濃紺絨

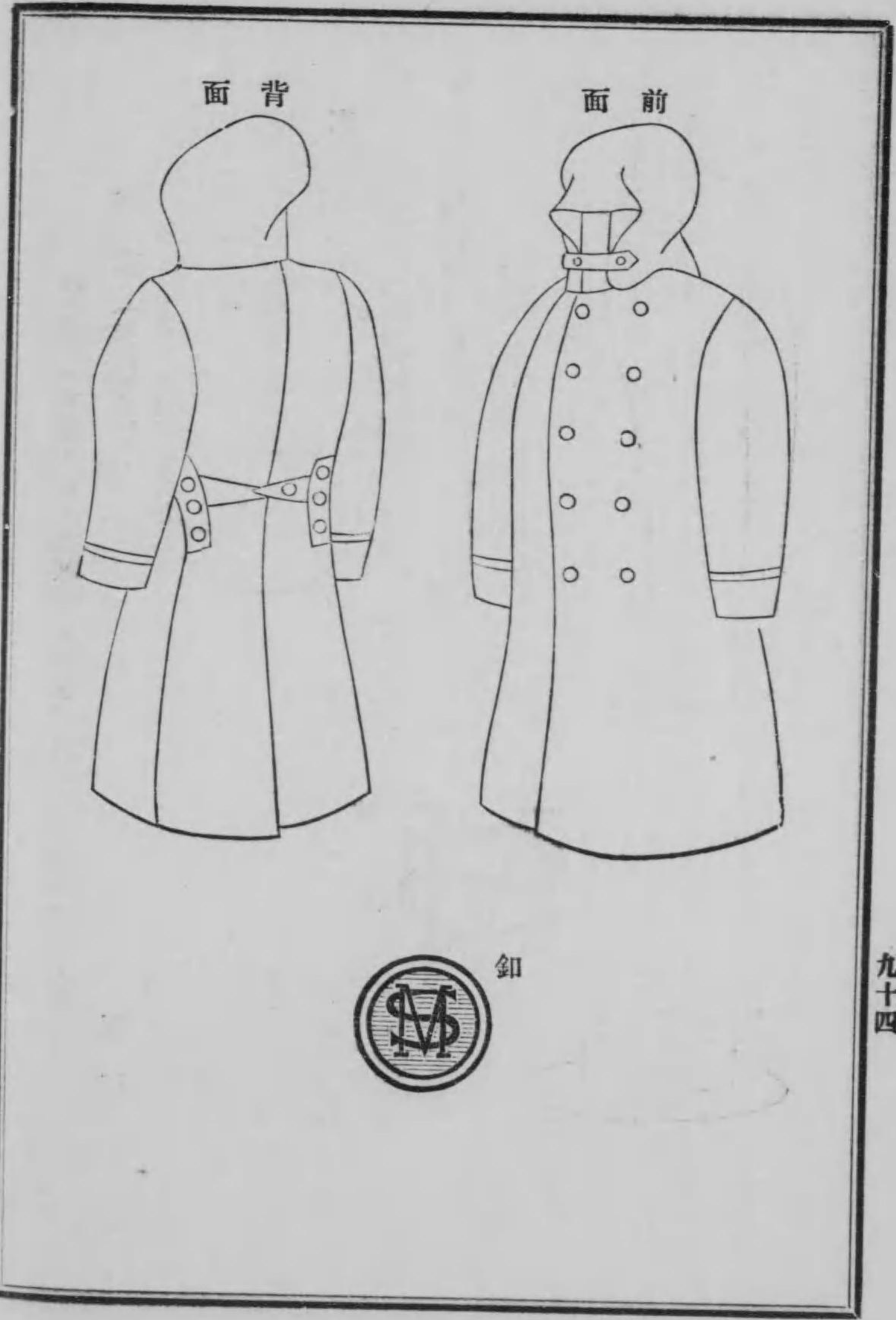
徽章

如圖

制式

如圖





地質 濃紺絨

鈕式 金屬ニシテ制式如圖

制式 脊廣詰襟

靴地質 黒革又ハ「ズツク」

第三條 私用ノ爲ノ校内ニ入ルトキト雖モ必ラス制服若クハ袴ヲ着ケ制帽ヲ用フヘシ

第四條 新入學生ニハ一定ノ時日ヲ限リ制服外ニテ昇校スルヲ許ス然レトモ制帽及袴ハ必ラス着用スヘシ

第五條 更衣ノ期日ハ其都度之ヲ定ム

附 則

第六條 校長ニ於テ必要ト認ムル時期ニ限リ制服ノ地質ハ黒小倉地トシ又外套ハ省畧スルコトヲ得

學用患者規程

第一條 本校ハ學術講習ニ適當ナル患者ニシテ診療ヲ志望スル者ヨリ員數ヲ限リ第二條ノ區別ニ從ヒ之ニ應ス

第二條 學用患者區別

- 一 通院學用患者
- 二 入院學用患者

第三條 學用患者ハ凡テ附屬療病院ニ於テ診療スル者トス

但員數ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 學用患者ニシテ入院認可ノ上ハ左ノ保證書ヲ差出スヘシ

但本人精神錯乱人事不省又ハ丁年未滿ナルトキハ親族一名ヲ増シ本人ニ代テ署名捺印スヘシ

保證書

參錢
印紙

原籍地
現住地

職業

姓名

年月日生

右ハ學用患者トシテ入院治療相受候ニ付テハ御校院ノ規定及職員ノ命示ヲ遵守可致ハ勿論萬一不幸ニシテ入院中死去候節ハ遺體解剖御執行學術研究ノ一端ニ供シ尙必要ノ局部ハ御保存相成候テモ異存無之又其遺體ハ火葬ヲ志望ニ有之候若シ本人ニ於テ御校院ノ規程及命示ニ背キ或ハ本人ノ負擔ヘキ事故ノ生セントキハ親族及保證人ニ於テ一切引受速ニ處辨可致依テ運署ヲ以テ保證書差出候也

年 月 日

右本人	姓名	名	印
親族	姓名	名	印
保證人	姓名	名	印

京都府立醫學專門學校長殿

第五條 學用入院患者妊婦ニシテ産科ニ屬スル者ハ左ノ承諾書ヲ差出スヘシ

承諾書

私儀妊娠ノ胎兒不幸ニシテ死産或ハ生兒病死候節ハ學術研究上屍體御保存又ハ解剖相成

候テモ決シテ苦情申間敷依テ保證人連署ヲ以テ承諾書如斯候也

右本人	姓	名
保證人	姓	名
		名
		名

京都府立醫學專門學校長殿

第六條 學用入院患者ノ遺體解剖ノ上ハ本校ニ於テ納棺火葬トナス

但本文ノ場合ニ於テハ遺族保證人等ヨリ些モ故障ヲ述フルコトヲ許サス

第七條 前條解剖ヲ執行シタルモノハ祭祀料トシテ金拾五圓以内ヲ遺族ニ下附スル者トス

第八條 學用外來患者ニシテ解剖出願スルトキハ總テ本規程ヲ適用ス

第九條 本校及附屬療病院ノ諸規則ニ背戾シ又ハ指命ニ遵ハサルモノ其他何等ノ事故ヲ問ハズ不

都合ノ儀アリト認ムル時ハ凡テ學用トシテ入院ヲ中止シ其費用ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十條 學用患者ニアラスシテ篤志解剖出願者ニハ本規程第六條第七條ヲ適用スルコトアルヘシ

附篤志解剖出願者注意

一 死體解剖出願者ハ所定用紙相當欄ヘ事項記入ノ上醫師ノ死亡診斷書ヲ添ヘ本校教務課ヘ申出テラルヘシ

二 火葬認許證ハ願書ト共ニ差出サルヘキモノトス

三 葬式ハ遺族ヘ其時日ヲ通知スルヲ以テ會葬ノ上遺骨ヲ持チ歸ラルヘシ

但シ本校墓地ニ埋葬ヲ希望セラル、方ハ之ヲ認可スヘシ

四 解剖出願認可ノ上ハ死體ヲ本校ヘ送附シ若クハ本校ヨリ受領者ヲ差向ケスヘシ

但シ遺族ヨリ本校ヘ送附セラル、場合ニハ相當ノ運搬費用ヲ支給スルコトアルヘシ

五 解剖ヲ出願セラレタル者ニハ解剖後祭祀料トシテ金拾圓以内ヲ遺族ニ下附スル者トス

六 毎年春季ハ大日山本校墓地ニ於テ墓前祭ヲ秋季ハ本派本願寺ニ於テ解剖體大法會ヲ施行ス

其節ハ遺族ハ可成參拜セラルヘシ

七 遺骨ヲ本校墓地ニ埋葬希望ノ方ハ死體解剖願書ニ左ノ追書ヲ記入セラルヘシ

(追テ遺骨ハ貴校墓地ニ埋葬セラレ度此段併セテ相願候也)

京都府立醫學專門學校附屬產婆教習所規則

第一條 本所ハ產婆看護婦ヲ養成スル所トス

第二條 產婆看護婦生徒ノ修業年限ハ二ケ年トシ之ヲ二學年ニ分テ每學年ヲ二學期ニ分ツ

第三條 產婆生徒ニ教授スル學科及授業時間ハ左ノ如シ

第一學年前學期

修身

解剖學大意

生理學大意

正規妊娠、分娩、產褥及其取扱法

一週 八時

第一學年後學期

修身

異常妊娠、分娩、產褥及其取扱法

初生兒取扱法

初生兒疾病ノ大意及其看護法

消毒法

救急療法

摸型演習

一週 十時

第二學年前學期

修身

摸型演習

一般看護法大意

產婆學臨床講義

婦人科疾病一般取扱法

臨床實習

一週 十二時以上

第二學年後學期

修身

摸型演習

產婆學臨床講義

臨床實習

一週 十二時以上

第四條 看護婦生徒ニ教授スル學科及授業時間左ノ如シ

第一學年前學期

修身

看護婦心得

解剖學大意

生理學大意

細菌學大意

防腐及制腐法(消毒法)

病室整理法

藥餌用法

重病患者看護法

附瀕死及死後ノ處置

一週 十三時

第一學年後學期

- 修身
- 衛生學大意
- 傳染病學大意及患者看護法
- 精神病患者看護法
- 產婦看護法
- 小兒病患者看護法
- 救急療法
- 消毒學及手術介補
- 醫療器械學大意
- 患者運搬法
- 各種看護法
- 按摩法

一週十三時

第二學年前學期及後學期

- 修身
- 按摩法實習
- 看護法實習

第五條 總テ實習ハ附屬療病院ニ於テ行フ其間期別ニハ之ヲ定ム

第六條 休業日ヲ定ムル事左ノ如シ

一日曜日

— 大祭祝日

— 本校記念日 四月十六日

— 夏期 八月一日ヨリ同月三十一日迄

— 冬期 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日迄

但シ看護婦實習中ノ休日ハ別ニ之ヲ定ム

第七條 入學期ハ產婆生徒ハ毎年十月ノ一回トシ看護婦生徒ハ毎年四月十月ノ二回トス

第八條 入學シ得ヘキモノハ左ノ資格ヲ具備スルモノトス

— 品行端正身體健全ナルモノ

— 一年齡ハ產婆生徒ハ滿十八年以上、看護婦生徒ハ滿十六年以上ノモノ

— 一ニケ年課程ノ高等小學校ヲ卒業シタル者從前ノ規程ニ依ル四箇年課程ノ高等小學校ヲ卒業シ

タル者及ヒ本校ニ於テ高等女學校第二學年修了ノ學力ヲ程度トシ入學試験ヲ行ヒ之ニ合格シ

タルモノ

第九條 入學志願者ニハ總テ身體検査ヲ施行ス

第十條 入學セントスル者ハ第一號書式ノ入學願書ニ第二號書式ノ履歷書及戶籍謄本ヲ添ヘ左ノ

期日迄ニ願書ヲ差出スヘシ

四月入學期毎年二月一日ヨリ三月二十五日迄

十月入學期毎年八月一日ヨリ九月二十五日迄

第十一條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ五日以内ニ第三號書式ノ在學保證書ヲ差出スヘシ（保證書用紙ハ入學ノ際交附ス）

第十二條 保證人ハ戶主若ハ親族ニシテ生徒ノ身分一切ヲ引受クルニ足タルヘキ者ニ限ル

第十三條 正當ノ事由ナク規程ノ期日迄ニ在學保證書ヲ差出ササルモノハ入學ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十四條 保證人住所ヲ轉シ若クハ改氏名シタルトキハ速ニ届出ツヘク又死去及轉居等ノタメ第

十二條ノ義務ヲ盡スコト能ハサル場合ハ其旨届出更ニ保證人ヲ定メ保證書ヲ差出スヘシ

第十五條 疾病其他ノ事故ニヨリ缺席スルモノハ其都度届出ツヘシ

但缺席七日以上ニ及フトキハ保證人連署ヲ要ス

第十六條 退學セントスルモノハ其事由ヲ詳記シ保證人連署願出ツヘシ

第十七條 授業料ハ産婆生徒一ヶ月金貳圓トシ看護婦生徒ハ一ヶ月金壹圓トス

第十八條 授業料ハ左ノ納期ニ三ヶ月分前納スヘシ

但七月ノ納期ニ限リ二ヶ月分納入スヘシ

四月〔自一日至七日〕 七月〔自一日至七日〕 十月〔自一日至七日〕 一月〔自八日至十四日〕

第十九條 夏期休業中ハ授業料ヲ徴収セズ

第二十條 授業料ハ缺席シ又ハ半途退學スルモノト雖モ減免セサルモノトス

第二十一條 一學期ノ授業時數中授業ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及ブモノハ該學期ノ試験ヲ受クルヲ得ス

第二十二條 試験ヲ分テテ四種トス

臨時試験、學期試験、學年試験、卒業試験

第二十三條 臨時及學期試験ハ筆答又ハ口答トシ學年及卒業試験ハ之ニ實地又ハ模型實習ヲ加フ

第二十四條 試験評點ハ百點ヲ以テ最高點トシ一科目四十點以上各科目平均六十點以上ヲ合格トス

第二十五條 學期試験成績ハ學期試験點ニ各臨時試験平均點ヲ合算シテ之ヲ二除シ又學年試験成績ハ學年試験點ニ學期試験平均點ヲ合算シテ之ヲ二除シ卒業試験成績ハ卒業試験點ニ學年試験

平均點ヲ合算シテ之ヲ二除シタルモノトス

第二十六條 卒業試験ニ合格シタルモノハ第四號書式ノ卒業證書ヲ授與ス

第二十七條 試験當日病氣又ハ事故ノ爲メ試験ヲ受クルコト能ハサルトキハ病氣ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ事故ハ保證人ノ連署ヲ以テ直ニ届出ツヘシ此場合ニハ特ニ追試験ヲ行フコトアルヘシ

第二十八條 看護婦生徒實習中ハ人員ヲ限リ附屬療病院内ニ寄宿ヲ許スコトアルヘシ

第二十九條 看護婦生徒實習中ハ附屬療病院看護人服務規程ヲ遵守スヘシ

第三十條 看護婦生徒實習中ハ規程ノ制服ヲ着用スヘシ
但シ制服ハ自辨トス

第三十一條 生徒ニシテ校則命令ニ違背シ又ハ職員ノ訓戒ニ遵ハサルトキハ事ノ輕重ニ依リ譴責停學若クハ退學ヲ命ス

第三十二條 授業料ノ納期ヲ怠ルトキハ前條ニ依リ停學若クハ退學ヲ命ス

第三十三條 授業料未納ノ爲メ退學ノ處分ヲ受ケタルモノハ之ヲ追徴セス

第三十四條 學術劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者ハ退學ヲ命ス

第一號書式 (用紙半紙野紙)

產婆(看護婦)生徒入學願

本籍何府縣郡市町村何番地
現住所同上

華士族又ハ平民職業
戸主又ハ何某長二女若クハ姉妹
何 某

私儀御校附屬產婆(看護婦)教習所へ入學志願ニ付御許可被成下度履歷書及戸籍謄本相
添此段相願候也

年 月 日

右本人 何 某 ⑩

何府縣市町村何番地 族 籍

戸主又ハ親族 何 某

保證人 何 某

京都市立醫學專門學校長何某殿

第二號書式 (用紙第一號ニ同シ)

履 歷 書

一何年何月何學校卒業又ハ何學年修了
一何年何月ヨリ何年何月マデ何學修業
一何々從事又ハ從業
一賞罰ノ有無

年 月 日

何

某 印

卒業證書アルモノハ總テ其寫ヲ添フヘシ

第三號書式

在 學 保 證 書

本籍何府縣郡市町村何番地
現住所同上
身分職業
戸主又ハ何某長女二女若クハ姉妹
何 某

第四號書式

右ハ今般御校附屬產婆(看護婦)教習所へ入學御許可相成候ニ就テハ御規則堅ク遵守致
カスヘキハ勿論在學中ニ係ル一切ノ事件ハ拙者ニ於テ引受申候依テ保證書如斯候也

生 年 月 日

本籍何府縣郡市町村何番地
現住所同上

身分職業

父兄又ハ親族

保證人

何

生 年 月 日 某

京都府立醫學專門學校長何某殿

卒 業 證 書

族 籍

何

某

生 年 月 日

右ハ本校附屬產婆(看護婦)教習所規程ノ學術ヲ修メ其業ヲ卒ヘタリ仍ラ之ヲ證ス

年月日

京都府立醫學專門學校校長位勳學位 何 某印

番號

職員

學校長 正五位醫學博士醫學士 小川 瑳五郎 大阪

教授

內科 正六位醫學博士醫學士 河村 叶一 岐阜
小兒科 從五位勳六等醫學博士醫學士 三浦 操一郎 埼玉
(校長兼) 小川 瑳五郎 大阪

解剖學 正六位 赤座 壽惠吉 岡山

醫化學 正六位醫學博士醫學士 吉川 順治 大阪

病理學 正六位醫學博士京都醫學得業士 角田 隆 京都

外科 正六位醫學博士醫學士 尾中 守三 山口

內科 從六位勳六等醫學博士醫學士 岡嶋 敬治 富山

解剖學 陸軍三等軍醫從六位勳五等功五級醫學博士醫學得業士 加治 安信 三重

產科學婦人科學 醫學士 佐谷 有吉 京都

皮膚病學微毒學 醫學士 越智 眞逸 愛媛

生理學 從六位醫學士 增田 隆 東京

眼科 醫學士 常岡 良三 三重

衛生學、細菌學 陸軍二等軍醫從六位勳五等功五級醫學博士京都醫學得業士 廣木 多三 東京

獨逸語學、倫理學 正七位文學士 本永 七三郎 山口

齒科學 醫學士 立入 保太郎 京都

調劑實習 正七位藥學士

耳鼻咽喉科學

病理學

神經病學、精神病學

助教授

外科學

獨逸語學

內科診斷學

神經病診斷學

小兒科學

體操

內科診斷學

耳鼻咽喉實習

解剖學

助教授心得

陸軍二等軍醫正七位勳六等醫學博士京都醫學得業士

中村 登 京都

從七位京都醫學得業士

梅原和助 京都

從七位京都醫學得業士

野田浦弼 和歌山

京都醫學得業士

藤森舜吉 三重

穗積 茂 大分

京都醫學專門學校醫學士

松永周三郎 京都

京都醫學專門學校醫學士

久保昱二郎 奈良

京都醫學專門學校醫學士

齋藤二郎 鳥根

陸軍步兵少尉正八位勳六等

津里竹葉 滋賀

京都醫學專門學校醫學士

伊藤金四郎 靜岡

京都醫學專門學校醫學士

富岡末吉 岡山

平田隆三 兵庫

講師

法醫學

藥物學

助手

京都帝國大學醫科大學助教授

小南又一郎 岐阜

京都帝國大學醫科大學助教授

正六位醫學士

京都帝國大學醫科大學助手醫學士

革島廉三郎 京都

病理解

病理解

衛生、細菌

圖書

醫化學

齒科

按摩法

調劑

藤原均喜 兵庫

小串秀治 福岡

四ノ宮定吉 千葉

下河邊光行 京都

中尾幸夫 大阪

中村喜久雄 大阪

谷田亭造 兵庫

吉田卯之助 京都

京都醫學專門學校醫學士

(兼) 陸軍三等藥劑官正八位 長崎醫學專門學校藥學士

衛生細菌
生理
醫 化
衛生細菌
解剖

京都醫學專門學校醫學士 高橋義行 福井
渡邊雄輔 山口
京都醫學專門學校醫學士 川井銀之助 京都
京都醫學專門學校醫學士 尾崎清次 愛知
京都醫學專門學校醫學士 貞方瑛五郎 長崎

學生監

教授 角田隆 京都

幹事

正七位 中道貫一 大分

書記

陸軍歩兵中尉從七位勳六等功五級 中村清三郎 京都
陸軍歩兵中尉從七位勳五等功五級 松原禎造 京都
香川得三郎 京都
津里竹葉齋 滋賀
(助教授兼)

雇員

從七位勳七等

伊東友泰 大分
林俊一 京都
奥平剛一 京都
岡部文藏 京都
入江頼之助 京都
長島清一 京都
勤七等 木本彌吉 滋賀
中島愛三郎 佐賀

産婆看護婦教習所職員

産婆學教員

教授 加治安信 三重

同 看護婦教員

京都醫學專門學校醫學士 瀧山耐愛媛

同

京都醫學專門學校醫學士 重本龜次郎 神奈川
京都醫學專門學校醫學士 木村辰三 福井

同 京都醫學專門學校醫學士 山脇秀吉 廣島
 同 京都醫學專門學校醫學士 木村直義 兵庫
 同 谷田久 京都

卒業生

×印ハ死亡者ヲ示ス

明治十七年三月第一回卒業生十二名

河北御三郎 石川 大里 憲治 愛知 高田 晁安 京都 ×兒玉 良吉 愛知
 平井 平吉 京都 香山晋次郎 京都 増田善次郎 京都 ×岡本家次郎 京都
 本田國太郎 京都 服部 忠直 京都 太田岩太郎 京都 星野 元彦 京都

明治十八年三月第二回卒業生七名

藤木 保昌 京都 ×石田 律三 京都 河野 通興 兵庫 六人部是慶 京都
 ×永井繁太郎 京都 ×松田 操 京都 ×川島 重信 滋賀

明治十九年二月第三回卒業生九名

谷口甲子郎 京都 中田彦三郎 京都 田中 秀三 滋賀 ×桐村 義堯 京都

×中村 佐吉 京都 渡邊愛之助 京都 藤林 泰山 京都 井尻啓次郎 京都
 松本 砂 京都

明治十九年六月第四回卒業生十四名

×武山半之丞 京都 津田 時次 京都 石田嘉三郎 京都 和邇 秀博 滋賀
 三宅 宗淳 京都 伊藤謙次郎 滋賀 平岡熊五郎 京都 稻田 左膳 京都
 石井 秀丸 京都 大井 乙彌 京都 松田 泰治 三重 神森 若三 京都
 新宮熊一郎 鹿兒島 大木元次郎 京都

明治十九年十月第五回卒業生六名

西村 千吉 京都 山田政五郎 京都 山本 應亮 山口 福田牧太郎 京都
 ×河田蘭太郎 高知 岡島 英一 京都

明治二十年二月第六回卒業生十二名

西村豊三郎 山口 安野郁太郎 京都 河邊富太郎 京都 足立慶三郎 京都
 河原林孝太郎 京都 ×南部 達造 京都 若月 義男 山口 ×杖野 郁市 京都
 小森芳次郎 京都 田中 定一 京都 ×中村 保治 京都 中村 正勁 京都

明治二十年九月第七回卒業生九名

中辻 丹治 滋賀 ×右田力太郎 大分 河方八十郎 岡山 ×内海 絢堂 福井
 長村 郁 京都 俣野 環 京都 吉田初次郎 滋賀 野上潤三郎 滋賀
 井上 武也 京都

明治二十一年四月第八回卒業生十二名

木村 得善 京都 ×木下 亮吉 京都 喜多幅武三郎和歌山 徳岡新之祐 京都
 ×春日元太郎 大分 渡邊郁之助 秋田 ×山中 武正 三重 佐藤 彬夫 和歌山
 ×白井亦太郎 三重 佐竹 勝壽 京都 梶原光次郎 三重 服部 慶吉 京都

明治二十一年九月第九回卒業生二十八名

坂野 泰淳 和歌山 隅山 玄察 京都 二川 佳豊 三重 ×岩橋 守一 和歌山
 ×池田 恒 和歌山 ×岡村 末治 和歌山 中 啓二郎 大阪 ×内藤實太郎 京都
 ×入澤 義太 岡山 ×高橋 平吾 愛媛 番野周太郎 和歌山 佐谷 省一 京都
 野坂賢之丞 島根 中川恒次郎 和歌山 吉田 格 和歌山 梅木 直衛 愛媛
 遠山末一郎 京都 ×白井震太郎 大阪 ×長村 駒吉 京都 ×大主 重彌 三重

石倉 英碩 和歌山 榎本 俊造 和歌山 岩井興之助 和歌山 花岡 芳郎 和歌山
 杠 惠太郎 島根 田里 保幸 京都 井上 半次 山口 岡田孝太郎 京都

明治二十一年十一月第十回卒業生六名

長束英之助 和歌山 ×小川宣一郎 和歌山 河村 一郎 山口 今井 清 和歌山
 井出 光司 京都 酒井 種吉 和歌山

明治二十二年六月第十一回卒業生二十九名

松本 敏 和歌山 宮下莊太郎 京都 吉益雄太郎 鳥取 ×益井 信 京都
 丸山浦次郎 長野 山田 五郎 京都 向畑鐵次郎 和歌山 谷本 光二 愛知
 柏木鼎三郎 兵庫 館 格之助 大阪 田島 學而 福岡 小林久太郎 京都
 原田兼太郎 京都 奥野兵之助 和歌山 木村 得齊 和歌山 小川 黎 和歌山
 津田 哲丸 京都 川上 倭香 岐阜 黒田 潤三 京都 岡本久三郎 滋賀
 野瀬 圓治 京都 佐々木惟朝 島根 ×小林 實磨 鳥取 ×穂谷 貫一 和歌山
 ×辻 順道 滋賀 榎本 幾吉 和歌山 島 龍雄 京都 村田藤太郎 京都
 今井 順吉 京都

明治二十二年第十二回卒業生三十八名

佐久間 徹	滋賀	榎	彌藏	和歌山	廣田	禮吉	新潟	舊姓黒田	松見	之純	和歌山
堀内賢次郎	和歌山	黒田義太郎	愛媛	吉田菊次郎	新潟	渡邊	正郎	三重			
吉見明治郎	兵庫	馬田政太郎	和歌山	林	岸造	京都	黒神	環	和歌山		
池田 順平	新潟	小串 豊治	京都	工藤 久吉	新潟	松本 全吉	和歌山				
岡本 繁	和歌山	堤 豊治	京都	西川 廉吉	滋賀	渡邊昌三郎	岡山				
長井 友平	新潟	辻村郁太郎	京都	和田久次郎	和歌山	洲崎 勇橘	富山				
廣岡 永助	和歌山	阿波竹之助	和歌山	湯川 玄洋	和歌山	河内啓一郎	京都				
河村 淳	廣島	内藤堯二郎	京都	大平末太郎	廣島	北川源治郎	京都				
江口雷二郎	新潟	田村 末吉	京都	中山 堅吉	新潟	森田 義則	岐阜				
村田 稔	大阪	片岡 正士	廣島								

明治二十三年第十三回卒業生二十八名

松宮采治郎	滋賀	浦野 榮治	福岡	木村 常治	兵庫	長澤禮太郎	兵庫	
福田逸太郎	京都	一場 二郎	京都	杉本郷次郎	三重	舊田中	中居 捨吉	滋賀

明治二十四年第十四回卒業生三十四名

小野喜久三	福井	千綿	常三	長崎	橋本 軍藏	大阪	春井 彰	兵庫
小島 元碩	新潟	谷口 穰	廣島	仲間 惇	廣島	仁志川浦吉	愛媛	
中村 準二	廣島	谷口 琢美	福岡	足立時五郎	兵庫	小池 胖	島根	
片山 正相	福岡	神村 晋	廣島	向井源九郎	愛媛	鎌田 滿作	愛媛	
西岡 道純	和歌山	島岡 涉	奈良	山本小太郎	滋賀	井上 方策	廣島	

舊水田

中川 喜水	京都	竹田忠三郎	新潟	宮崎謹一郎	島根	巖本品二郎	岡山
親康 頼順	京都	平山順一郎	和歌山	小林英太郎	新潟	澤田龜太郎	京都
松尾 齊	福岡	本村 庸齋	新潟	高崎音三郎	茨城	松本宗太郎	京都
黒澤 勝彌	和歌山	常久 庫吉	京都	三浦 廣	山口	角 和吉	山口
河本 柏人	廣島	橋本 彌吉	滋賀	神原 武平	岡山	一藤 久	兵庫
桑原 信吉	山口	竹内頼二郎	岐阜	塚田本太郎	廣島	入澤 記一	廣島
瓜原 繁太	廣島	阪田新太郎	大阪	岡田 豊吉	廣島	河邊 昌三	新潟
岡田 祥美	三重	村上 周松	愛媛	吉川 秀造	京都	辻谷 幾藏	大阪

三浦 亮一 廣島 河野 敏馬 島根

明治二十五年第十五回卒業生四十四名

桑原 悅造 廣島	中村兼治郎 滋賀	中西真之助 三重	中村 良淳 京都
高木 玄了 新潟	岡 戊次郎 福岡	高木 千幹 福岡	渡邊 隆逸 福岡
寺田信太郎 岐阜	戸川 雅造 福岡	阪部 秀夫 兵庫	高橋千太郎 廣島
山根 亮助 山口	駒井 晴雄 滋賀	長田 元治 兵庫	的場楠之助 和歌山
齋木 亮熊 山口	<small>舊山谷道平</small> 岩崎 正哉 岡山	宇野 半吉 滋賀	永井岩太郎 京都
武田 國太 廣島	長沼 寛一 山口	木村 文生 大分	神服奎之助 京都
川崎久次郎 三重	手塚 柳助 山口	三浦榮二郎 大分	白木 治市 大分
古市馬三郎 滋賀	野間孝太郎 奈良	石井 勳 兵庫	徳尾野太郎 京都
湯淺 權 島根	神原高一郎 廣島	<small>江原三千治</small> 岡山	淺木直之助 岡山
木村千太郎 大阪	後藤英三郎 廣島	河合 純一 京都	鈴木 三造 滋賀
石原武一郎 京都	大前 二作 岐阜	<small>田原 良平</small> 山口	妹尾吉五郎 岡山

明治二十六年第十六回卒業生三十五名

明治二十七年第十七回卒業生三十九名

松岡 堅吉 兵庫	<small>竹中 謙章</small> 岐阜	山崎 友市 長崎	青地 正祥 京都
稻垣廣三郎 兵庫	青木 龍一 静岡	<small>片山 潤吾</small> 大分	齋藤幾太郎 京都
山下 圭樹 山口	岸井健治郎 岐阜	河島與一郎 三重	小山 鴻 和歌山
長岡 保 京都	<small>朝井 元章</small> 廣島	相原 包三 京都	國里 延次 兵庫
森岡象太郎 兵庫	伊藤 士藏 愛知	林 源吉 新潟	大槻 淺吉 兵庫
井島 謙藏 京都	高橋本太郎 高知	大角 與平 静岡	<small>田中 貞吉</small> 滋賀
馬杉 篤彦 滋賀	川田 齡藏 岡山	内山勝之助 三重	大塚 長禮 滋賀
中江新次郎 滋賀	有本 春生 京都	加賀 朗 島根	小室 兼吉 京都
田中 富藏 京都	岸田榮三郎 京都	中江 玄亮 滋賀	

奥澤禮次郎 京都 岩砂元一郎 岐阜 生野 彦三 愛媛 神原 隆郷 岡山
 岡本李三郎 京都 中川圭一郎 京都 岩本 劣 福岡 山尾才治郎 三重
 三方熊之助 兵庫 谷村 久吉 京都 長阪 貞造 和歌山 城戸 藏雄 熊本
 ×小串精一郎 京都 多田熊之助 三重 ×大平 周一 香川 伊原瀧三郎 岡山
 吉田秀治郎 島根 三戸 勇 廣島 柴田壽太郎 岐阜 中根重治郎 愛知
 野井 清廉 京都 山本元太郎 三重 ×土居鹿太郎 香川
 明治二十八年第十八回卒業生四十四名
 田村 克之 京都 大石榮次郎 京都 田伏 禮儀 和歌山 藤田龜之進 和歌山
 元田 罷 東京 森川 信吉 京都 若山 春齋 岐阜 小幡 代吉 福岡
 ×有田 貞實 京都 眞垣岸之助 兵庫 山下 和七 三重 福井 逸起 京都
 ×細野今太郎 新潟 植田清三郎 山口 山本 平理 兵庫 賀川 玄吾 京都
 喜多 幸親 三重 ×本間 要人 福井 小西 奎造 京都 絲井素太郎 京都
 ×小野 義純 滋賀 鹽津徳之助 兵庫 原 鎌助 青森 岡田 盛任 京都
 加藤武一郎 廣島 長田 茂吉 三重 岡田謙二郎 京都 武内 勳夫 岡山

明治二十九年第十九回卒業生四十七名

内田 蒼洋 岡山 福田 薫 大分 小林敬次郎 京都 紀野 好學 京都
 清末 武勇 大分 ×白水市村郎 滋賀 高松 策治 兵庫 山北千太郎 三重
 中山 虎丸 大分 ×木津惣十郎 岡山 恒川禎一郎 京都 山根 慶治 島根
 今田 知博 廣島 松山 戒三 廣島 中野 岩藏 滋賀 山崎 一郎 兵庫
 物部 常樹 愛媛 宮島 柳吉 大分 佐藤 總吉 京都 上野 齊 福岡
 佐治 敏夫 兵庫 ×井田斗女六 福井 宮尾 靜雄 新潟 曾根 高豊 愛媛
 山田 與惠 長野 角田 隆 京都 土居 徳治 高知 岡本 昇 高知
 大島 達吉 滋賀 大野 清直 京都 池田 茂 京都 山崎 十郎 廣島
 革島 彦一 京都 遠藤 正陽 鳥取 ×道上 修己 石川 柏木 義雄 香川
 小篠篤三郎 京都 駒井 房吉 三重 中村 宗悟 大阪 高橋 隆三 京都
 ×横川 鍬吾 京都 杉本 蝶平 三重 舊吉川 波多野 輔 山口 土井 正泰 京都
 菅田 豊實 奈良 河端 貞次 大阪 杉本益太郎 京都 橋本精治郎 滋賀
 竹岡 友信 京都 星野湖一郎 京都 小篠誠次郎 京都 篠田 三郎 京都

寺島 悦三 京都 島 勇次郎 和歌山 伴 政季 熊本
 上野 齊 大分 雨森 良意 京都 高島 盛夫 廣島 田中 繁三 京都
 ×羽山 良三 和歌山 會田道之助 福島 山本 忠孝 京都

明治三十年第二十回卒業生六十七名

野間 治郎 京都 ×金田 長治 京都 千田 峰吉 岐阜 谷 靜也 福井
 落合 源内 三重 ×長谷川昌治 新潟 ×堀田 信藏 三重 姫野 覺彌 愛媛
 ×姫野 道俊 愛媛 鈴木 武 福岡 ×松尾岩太郎 島根 佐藤 有太 熊本
 ×大友 金一 宮城 越野 次丸 新潟 ×安江敬一郎 岐阜 町井 博 三重
 百溪 收 宮崎 倉垣 貢 滋賀 藤井 善一 山口 上田 光好 和歌山
 平野 敏雄 三重 柏崎 勇藏 栃木 尾見 薫 京都 小笠原孟敬 京都
 三好 慶輔 山口 久城 起一 千葉 新宮 涼男 京都 吉益 良藏 鳥取
 藤村 信義 京都 明田 行精 山口 江崎 房吉 岐阜 益田 廣 京都
 木原善太郎 廣島 鹽路 藤雄 和歌山 吉田 政雄 京都 野口 松雄 山口
 加藤壽太郎 愛知 ×吉田 高七 栃木 塚本瓶子郎 島根 ×中村 武藏 兵庫

安原保之助 京都 淺野 敬吉 大分 大槻滿次郎 京都 武田 重成 石川
 前田 仁 山口 高木 信敬 京都 伊藤 盛義 高知 井村 蜂郎 愛媛
 萩野長太郎 京都 秋葉 熊藏 栃木 楠瀬 象作 高知 三村 常信 京都
 溝上 定男 兵庫 ×大須賀 要 愛知 宮本千代吉 大阪 馬淵 博 和歌山
 三浦謙三郎 京都 吉田 素兄 岐阜 萩原 末彦 鹿兒島 栗栖角次郎 島根
 均 賢太郎 和歌山 本多 傳 愛媛 ×島澤君三郎 京都 ×岡本 勇男 京都
 松永 雅三 山口 ×川中利太郎 廣島 川上 求 廣島

明治三十一年第二十一回卒業生五十八名

吉川泰一郎 廣島 竹田 梅一 島根 太田 爲治 京都 中村 弘治 滋賀
 加藤 賢 北海道 日下 清方 大阪 常岡 良三 三重 服部 俊二 京都
 ×飯塚唯一郎 京都 繁定 壯平 岡山 田中進次郎 岐阜 武内 定義 京都
 岡田 甚藏 鳥取 ×水口 三郎 京都 西川式四郎 滋賀 柏木 繁雄 東京
 伊藤 潔 山口 富永秀三郎 三重 今給黍慶之助 鹿兒島 中井 將家 京都
 松下積太郎 三重 久保 健 奈良 太多 隆夫 廣島 間島 信胤 京都

三宅俊之助 京都 大原 四郎 京都 岡田 正 兵庫 齋藤敬次郎 埼玉
 武田 修二 島根 林 甚吉 滋賀 河村良之助 愛知 大野 直之 高知
 野々村良吉 京都 濱田 宇吉 奈良 雀部 郁太 滋賀 山口 礒一 佐賀
 岩間 復市 岐阜 富澤 岩生 愛媛 高木悅太郎 山形 真岡孝治郎 滋賀
 大谷 範治 京都 羽根 直彦 静岡 藤野 喜一 廣島 中枝新之助 和歌山
 橘 顯 三重 ×島 成治 京都 ×矢野 信一 愛媛 ×中島 壬生 熊本
 神尾 英雄 廣島 大橋菊次郎 愛知 北起龍之助 三重 淺山協太郎 京都
 羽根 保吉 京都 ×近藤 傳吉 東京 阿部 寅吉 京都 小田 安次 福岡
 磯谷泰次郎 三重 吉田 政朝 岐阜

明治三十二年第二十二回卒業生五十九名

×宇都宮理作 愛媛 篠田 清芳 岐阜 村上元三郎 愛媛 長谷川壽三 兵庫
 伊良子暉造 三重 武田 秀夫 愛媛 ×長村政次郎 京都 後藤 輝己 香川
 若宮 舍三 京都 宮路 郁哉 鹿兒島 八木倉三郎 岐阜 若山 昇三 京都
 藤上 熊藏 奈良 龜山 唯吉 山口 中村 權 三重 土屋 榮吉 滋賀

明治三十三年第二十三回卒業生七十六名

板谷 丈夫 兵庫 三浦 久治 島根 ×渡邊 保治 新潟 中村 亭 廣島
 佐々木玉吉 福井 田代伊豫治 熊本 福喜多守道 三重 久野愛之助 京都
 新畑 六郎 京都 ×下村健治郎 奈良 竹中 重三 岐阜 乾 恭三 和歌山
 新宮 新 京都 ×松田 良貴 京都 ×安田富太郎 大阪 廣藤群三郎 廣島
 笠岡玄九郎 廣島 ×岡田重一郎 廣島 井島 涼三 京都 伏原 寅男 奈良
 佐伯 元吉 愛媛 ×安福精一郎 兵庫 川越直三郎 京都 渡邊 豊 大分
 松下正千代 鹿兒島 平田 福吉 和歌山 脇屋 次郎 京都 黒澤 繁彌 京都
 藤田善三郎 滋賀 坂寄 義雄 京都 楠原勝太郎 福岡 ×眩川 正雄 愛媛
 島崎 幸吉 京都 西島榮次郎 福岡 梶谷精一郎 島根 齋藤信二郎 山口
 野村 純文 岐阜 樋口 丹藏 福岡 鈴木 重次 京都 高濱 松壽 熊本
 濱保 秀良 廣島 西野 泰眠 富山 山羽種次郎 和歌山

伊達敬次郎 島根 今川 鼎 京都 加藤喜十郎 和歌山 町田 貞造 大分
 笠松喜一郎 和歌山 榎本 四郎 京都 ×藤谷 功彦 京都 伊藤 親吉 岐阜

市田 登	京都	中西 克己	三重	前田 節	滋賀	田中 種	三重
戸田 徐作	京都	×稻光 卷一	山口	×市岡 達洲	廣島	×木村舊之助	京都
大橋 覺三	京都	×濱田 万吉	愛媛	×津田 芳樹	和歌山	村上 宏	和歌山
柳沼信太郎	愛知	高木 平治	山口	海老澤義四郎	新潟	田中 知司	鳥根
池田 篤次	滋賀	宮池柳之助	愛知	森川 貞吉	京都	吉田 龍藏	鳥取
後藤三郎助	滋賀	知識 涉	鹿兒島	佐々木 博	廣島	田阪 貫一	山口
久山 吉夫	岡山	石井 兵一	廣島	瀧川 英登	廣島	森原 一惠	廣嶋
貴島 皎	大阪	油谷安次郎	大阪	岡本 環	廣島	高橋要太郎	京都
木下碩次郎	京都	池田 定吉	奈良	仲 鶴次郎	三重	河野 通造	京都
×林 貞一	鳥取	西 敬三	京都	内富 亮	山口	齋藤 實記	熊本
石神善右衛門岐阜		藤井亭太郎	富山	林 主	福岡	諏訪 順三	長野
松永 百藏	山口	奥村 轍	徳嶋	平林 末雄	長野	井上 繁治	京都
林 淳吉	滋賀	後藤 亮	廣嶋	戸崎 定藏	鳥取	岸本 芳市	嶋根
菊山嘯一郎	愛媛	坂井 龜定	和歌山	古島 慶	岐阜	伊達富士雄	岡山

明治三十四年六月第二十四回卒業生七十二名

杉谷幸之助	三重	池部 義雄	大分	河野俊之助	兵庫	×稻川隣之助	京都
×高田 貞巳	鳥取	森寛 一	愛媛	赤松 馨	兵庫	伊藤 久雄	廣島
川口政次郎	茨城	×渡邊 亮	千葉	×久賀 榮	福岡	正司東次郎	佐賀
中村 登	京都	奥野平三郎	和歌山	和氣 順治	愛媛	大澤 宏	和歌山
桐村 義英	京都	千葉 馨三	三重	横田 亮雄	新潟	中道 吉亮	山口
田中 勝次	新潟	小野豊三郎	京都	黒田 凉造	和歌山	中村關太郎	京都
×有田 卓爾	大分	巽 達次	京都	佐々木恒一	岡山	大慈彌 胖	大分
内田 詮藏	京都	小田左武良	愛知	佐野晴太郎	愛媛	岡本 重格	鳥根
福山 文有	鹿兒島	佐合 玄齡	岐阜	竹内正之助	京都	松井幸次郎	京都
中本 誠三	鳥取	×皆木 始平	岡山	菊池 實暉	福岡	岸本 仙次	京都
×岡村 良吉	長野	佐藤補佐次郎	新潟	片山 舜治	滋賀	稻垣 静二	和歌山
星野卯太郎	京都	上田 耕作	大分	小林 震吉	京都	武田恒三郎	和歌山
牧浦 忠次	奈良	小野 寅市	廣島	加藤 清繼	福岡	石原明之助	京都

森 康三 奈良 金澤 三郎 滋賀 田中 政光 岡山 原 運市 島根
 中野 才智 廣島 齋藤 俊造 神奈川 大條 顯直 滋賀 古市廣之助 福島
 長雄 諒太郎 和歌山 熊谷 稠 島根 淺尾 勇喜 京都 ×河内慶三郎 京都
 湯川 清 和歌山 小川敬太郎 和歌山 ×堀内 高市 愛媛 三輪 光治 鳥取
 兼井 治郎 兵庫 大江 有三 和歌山 酒井 幹 愛知 七種純一郎 長崎
 菅野 要 福岡 山川 好治 奈良 山崎泰治郎 三重 青山 芳 福井
 本多富士齋 兵庫 木村榮太郎 京都 增田桂次郎 奈良 江本時太郎 山口
 ×朝日 康熙 滋賀 持木 辰雄 熊本 曾篠 柳太 栃木 降屋 秀治 京都
 明治三十五年六月第二十五回卒業生四十八名
 ×井上喜久治 兵庫 弓削 誓一 廣島 神岡 一亨 廣嶋 森 一夫 廣島
 習田勤五郎 京都 福田 龍吉 山口 西川 了三 福井 半田 義祐 島根
 廣田 直英 兵庫 津田 祝二 廣島 井上 九藏 滋賀 加藤傳次郎 京都
 ×古海 春敏 福岡 倉内 貞次 大阪 舊堀川 山本 秀暉 京都 出野 協 京都
 崎谷 主計 兵庫 大和 正忠 高知 星野 義寛 山梨 戸田馬喜藏 鳥取

松家 誠一 徳嶋 中野 正 廣嶋 谷川 常藏 鳥取 岩崎 虎雄 愛媛
 後藤 貞吉 三重 津田 浩 山口 平田貞太郎 徳嶋 川邊 清助 岡山
 今永 茂 大分 末國 雅彦 廣嶋 高松 石雄 東京 ×葛尾 三郎 兵庫
 小西 明 京都 福山 潜藏 兵庫 澤田 鉄夫 京都 眞武 敬三 福岡
 有山 金治 奈良 森 正司 京都 西川 英吉 和歌山 野阪 鶴人 廣嶋
 一瀬兼太郎 長崎 ×大森陸之助 嶋根 江座 正二 奈良 時政 省三 山口
 朝井 寔 廣島 ×河島 半藏 京都 中村常三郎 廣島 田中 忠次 和歌山
 明治三十六年六月第二十六回卒業生四十九名
 古谷 茂一 山口 田村 燿郎 宮崎 家原 毅男 京都 長尾 祐一 愛知
 唐澤 準吉 京都 隱岐 泰造 滋賀 小篠 純吉 京都 梅原 和助 京都
 宅間 侃 京都 富井 眞垂 兵庫 杉本 近造 兵庫 野田 浦弼 和歌山
 大野 正孝 京都 長村 郁文 京都 田中猪太郎 愛媛 喜多村敬次郎 京都
 岡部 理吉 大分 渡邊 忠重 愛媛 木村 義質 京都 岩本 龍彦 鳥取
 菅居 正治 京都 山本 慶三 石川 島原 孫市 廣島 松岡節次郎 兵庫

曾根 昌平 香川 山島 唯一 京都 池田 義一 京都 ×高橋厚太郎 京都
 松井笹次郎 富山 椿田萬次郎 廣島 ×矢野 順平 大阪 光武 貞經 佐賀
 前田 滿治 和歌山 藤森 春彰 三重 細川 要 廣島 ×齋藤 清次 奈良
 猪飼 寅雄 三重 森 信之 大分 ×江口時次郎 福岡 福島 良伸 佐賀
 星野 貞直 京都 村瀬 壯夫 兵庫 益崎 次郎 德島 村田 貞伯 熊本
 吉田學次郎 奈良 志賀伸之助 兵庫 辻本 界雲 大阪 木村淺次郎 佐賀
 中野 達資 佐賀

明治三十七年六月第二十七回卒業生四十八名

尼子 順久 兵庫 ×岡田 啓倫 兵庫 夜久義市郎 兵庫 深井 忠敏 三重
 ×後藤 與一 山口 杉下 純平 岐阜 平岡 照二 廣島 奧村 觀良 京都
 岡島 格 京都 仲 賢治 兵庫 木戸 柳二 石川 上野 治郎 廣島
 瀧上 純頌 滋賀 飛田禎二郎 京都 東 諫 三重 佐藤 橫吉 大分
 垂水 茂樹 京都 ×矢守余五郎 京都 井澤千代松 京都 奧知 久藏 三重
 今村 忠 福井 野間清三郎 愛媛 山根 八藏 島根 榎本 貞道 和歌山

增田 順吉 奈良 猪飼勸三郎 滋賀 本多準二郎 愛媛 藤井 貞齊 兵庫
 中井 一郎 大阪 清水 朝吉 兵庫 中村 頼胤 滋賀 的場 庄吉 京都
 深尾 正度 長野 深田 實 大阪 ×岩田 廣孝 三重 田北不遜人 福岡
 久保 光三 奈良 ×中谷源三郎 和歌山 鈴木 嘉助 岐阜 河野 政吉 山口
 ×宇田 貞吉 京都 松尾 正 廣島 ×吉田 循逸 大阪 荒堀兼太郎 滋賀
 ×吉岡 倍二 京都 淺井 良藏 鳥取 今西 登男 奈良 小澤 房時 千葉

明治三十八年六月第二十八回卒業生五十七名

×中村 與一 岡山 河本 鐵五 京都 中山 末雄 東京 杉山鐵之助 三重
 田井 深 京都 藤井 博士 岡山 江崎 久世 京都 中神 源作 滋賀
 瀨尾常太郎 香川 坂戸 篤吉 廣島 倉垣 源一 鳥取 大林玄太郎 兵庫
 陶山 吉喬 鳥取 ×立川 順三 京都 平馬 左橋 島根 柏木 常七 大阪
 後藤 良三 鳥取 金子 源壽 山口 高木 萬吉 香川 稻本 光幸 愛媛
 原志免太郎 福岡 加來 得英 和歌山 澤田 稅 石川 村上 悅十 山口
 福永 謙三 滋賀 齋藤 信甫 島根 石谷 昌 山口 久保俊次郎 和歌山

山崎梅之助 鳥根 池田 昌克 和歌山 兒島 勝郎 北海道 松原國太郎 熊本
 松島 隨敬 鳥取 黒田 彌繼 秋田 武田元一郎 宮崎 高尾 嘉一 京都
 谷 光一 京都 ×松崎 五六 鹿兒島 ×三浦信一郎 大阪 森 玉次郎 鳥根
 赤井 直 京都 ×村田 潔 福岡 江口德三郎 京都 安城 智眼 大阪
 大草 文衛 鳥根 加來 倉大 大分 稻川 榮介 岐阜 久保田信藏 奈良
 須床 譽 廣島 村山佐太郎 長崎 川口 熊太 新潟 前島 政男 長野
 木塚 照 栃木 谷口伊之助 京都 廣瀬 孝之 京都 ×竹脇捨次郎 富山
 今給黎可正鹿兒島

明治三十九年六月第二十九回卒業生六十二名

山本 詰 鳥取 齋藤 齋 山形 井坂 明德 德島 竹岡 友三 京都
 井谷 孝一 愛媛 島津 秀治 兵庫 木下 勝治 岐阜 伊達 大學 和歌山
 小豆澤止雄 岡山 粟根 久 廣島 端野 令三 京都 國友 茂 滋賀
 大村 達夫 京都 岩崎 元次 茨城 松本 貞彦 愛知 榎谷 元碩 奈良
 伊藤 金逸 愛知 中村 三二 奈良 今川 貞吉 京都 山田 良平 愛知

舊出田

命谷 三男 長崎 神部 季俊 京都 三根 辰一 佐賀 多田 英治 兵庫
 蘆原 謙造 京都 牧野 賢二 岐阜 佐倉 了八 滋賀 錢廣 謙一 山口
 ×高本 恒男 静岡 明日山秀夫 鹿兒島 甲斐 昇 廣島 山口要次郎 佐賀
 豊岡 孝雄 京都 橋本 秀治 熊本 横山 齋 兵庫 服部 滿 京都
 川崎源十部 和歌山 藤本 胖 香川 澤田 正吉 京都 里村 平 和歌山
 ×森田定右衛門三重 杉村 剛 京都 安部 幸藏 鳥取 細井 三郎 京都
 赤木 友七 宮崎 瀬尾繁次郎 香川 ×中村昇三郎 滋賀 大西常三郎 兵庫
 田野榮太郎 奈良 ×久保山 猛 熊本 梅本 好文 北海道 吉田六三郎 岐阜
 豊島二三雄 香川 江崎 勇作 岐阜 齋藤 嘉市 鳥根 山田郁太郎 京都
 谷田 勤治 岡山 原田 以作 山形 野村 碩胤 三重 立石 重人 長崎
 喜多川六三郎兵庫 杉山 正甫 山口

明治四十年六月第三十回卒業生七十六名

西田 文治 京都 梶田 敏三 廣嶋 古城 貞 大分 永富 一也 山口
 岡田 國藏 鳥取 桐瀬 正 神奈川 山岡 弘光 京都 三輪 鼎治 岐阜

加藤 成美	德島	堀江源太郎	廣島	和田 太郎	大阪	名迫 行從	和歌山
曾我部秀一	香川	熊澤保左衛門	岡山	勝部 廣說	大阪	谷川 廣三	京都
下村 將玄	高知	片山恭一郎	岡山	中島 省一	滋賀	乾 慈夫	京都
永井 勇	廣島	三好 益太	香川	鴨居 一義	香川	友光伊勢太	岡山
桑原 靜雄	兵庫	松阪善之丞	鹿兒島	今村啓太郎	京都	佐藤 真吉	島根
日野 武男	廣島	梅本英太郎	山口	甲田 研一	廣島	新藤 信一	山口
村山 寧	三重	大迫 純太	山口	田中 昌男	兵庫	井上 七郎	京都
輕尾 寛治	京都	高田 驍	鳥取	戸野德太郎	京都	榎本 陽	和歌山
片山 齋治	岡山	濱田 要三	大阪	桂 金三	京都	南部 友也	山口
×和才 弘	大分	×大石 荒鬼	大分	毛利 孝	長崎	三好 純一	香川
山口 榮二	鹿兒島	福井剛之助	滋賀	藤井 鼎	滋賀	森本 誠	岡山
岡島順一郎	京都	櫻尾 浩二	福井	×豐田 吉成	京都	田村 實男	兵庫
安部 幹夫	大分	江口 龍夫	長崎	片山 愛而	福岡	上妻 丈夫	鹿兒島
松岡 胖治	岐阜	石澤 盛	鹿兒島	小笠原武男	德島	林 榮三郎	京都

明治四十一年六月第三十一回卒業生九十九名

正平 實	廣島	宮部 末男	熊本	岸野 文一	三重	山根 愆	廣嶋
小山 清潔	岡山	後藤 專次	群馬	酒井 兼作	秋田	福井 正良	滋賀
蒲生 藏六	山口	尾上清太郎	三重	×大崎 耕造	京都	竹嶋 春三	三重
長澤 四郎	兵庫	内海 了二	廣島	松浦 保	大分	武内三千春	岐阜
清水 保太	島根	北野松三郎	滋賀	十市 重道	高知	×真下鶴之助	京都
舊中島 矢部 邦輔	東京	武田 壽夫	岡山	岡本梅間呂	滋賀	吉田政次郎	滋賀
松本 浩	滋賀	×中島貞治郎	京都	中井利一郎	滋賀	磯部 源一	山口
赤松 温文	愛媛	松田 貞實	宮崎	水原 廣	滋賀	加藤 泰治	京都
佐藤 歳光	栃木	平賀 春次	山口	熊谷 準一	静岡	和田彌三郎	島根
×上村 永篤	京都	山下 一次	京都	織田 精穂	愛知	金谷 謙一	滋賀
山本 邦郎	三重	川村 友吉	和歌山	藤澤 謙次	香川	土屋 十六	静岡
加藤 寛	廣島	石川平三郎	京都	藤森 舜吉	三重	奥村喜一郎	京都
川島 信吉	滋賀	奥田 廣海	奈良	池田 遇吾	三重	春山 運吉	福島

佐藤直八郎	滋賀	前原	亮一	廣島	浦田	長元	三重	淺野	肅治	岡山	
笹木	猛	岡山	芝	正之助	愛媛	城戸	良一	佐賀	齋藤	龍似	千葉
原田	元作	山形	×河野	浩達	德島	×山川	伊十郎	三重	土肥	一郎	兵庫
波多野	晴藏	京都	沖田	定一	廣島	田中	九信	愛媛	清水	進	島根
村上	利通	愛媛	山野	制	千葉	佐谷	熊次郎	和歌山	山田	實三郎	岐阜
堀江	喜市	岐阜	平野	繁太郎	愛知	菅井	秀行	滋賀	大塚	發三郎	京都
江阪	敏雄	滋賀	一井	碩	京都	岩動	康次	巖手	×大宅	貞太郎	奈良
由利	理久	兵庫	布施	博	山形	木俣	隆平	愛知	×藤野	丈右衛門	山口
佐々木	雄四郎	廣島	吉里	惣助	滋賀	大館	小三郎	石川	増田	勘治	兵庫
山中	幹規	高知	田口	憲一	京都	長野	靜雄	岡山	横田	善明	埼玉
種田	正一	鳥取	篠原	惠	鹿兒島	小崎	緩攝	德島	野村	義人	廣島
齋藤	達枝	愛知	矢出	操一	大分	井上	健藏	兵庫	中西	正道	大分
島三	郎	京都	石崎	正二	島根	橋本	正博	京都	稻垣	長壽	和歌山
小倉	八郎	兵庫	若松	信彦	京都	中根	喜代之助	京都	瀨尾	哲男	廣島

明治四十二年六月第三十二回卒業生九十八名

守谷石二郎	岡山	佐藤	幹次	東京	本田	平五郎	熊本				
乾	義雄	和歌山	森	家五郎	京都	×山田	了性	岐阜	松原	篤	福井
×中村	原祐	滋賀	寺田	鶴松	和歌山	×村川	政一	山口	×林	貢	大阪
×姬田	廉三	岐阜	豊田	順爾	群馬	山本	龜治郎	三重	佐々木	秀吉	和歌山
片岡	照夫	廣島	×齋藤	盛則	奈良	高城	正治	嶋根	×黒住	剛三	岡山
大島	轄良	埼玉	大野	友治	秋田	森田	聰賢	埼玉	仲村	仁平	愛媛
石浦	敬次郎	京都	辰己	喜一	奈良	直	好美	大阪	武田	隆造	秋田
有本	哲雄	京都	赤尾	良治	滋賀	諏訪	寛	千葉	横田	諒介	山口
喜多	亮一	京都	渡邊	吉三	滋賀	齋藤	俊三	奈良	武藤	友太郎	京都
×木村	喬	群馬	桑原	元城	熊本	高倉	信久	福岡	中村	喜一郎	福井
中村	茂	福岡	山廣	信泰	廣島	酒井	新太郎	兵庫	河口	兼太郎	愛知
三井	修策	山梨	岡野	亮圓	兵庫	佐々木	留市	島根	土屋	速雄	滋賀
平田	雄一	兵庫	宮本	耕	和歌山	加村	知幸	廣島	×奥野	巽	愛媛

吉村 三朗	山口	×石毛 元誠	千葉	藤井 正	新瀉	×宮崎 肇	熊本
太田 豊	大阪	加賀美守人	廣島	岩立勇之進	千葉	玉城 實雄	沖繩
松山勇太郎	奈良	木島 經之	島根	佐藤 秀吉	大分	佐野 孚吉	愛媛
永島 孝澄	山口	田中 雅男	島根	松永周三郎	京都	大木良太郎	京都
小野木計三	福島	村田 利市	山口	戸島要二郎	島根	佐藤 毅一	岡山
伊藤梅次郎	滋賀	香西 慶一	香川	黒澤 輝彌	京都	生田晴次郎	徳嶋
平井 改造	岡山	和田 定一	廣島	角 恭	岡山	粥川 清	岐阜
佐藤 清	群馬	加藤 清一	千葉	×菊池 純三	愛媛	佐藤 一夫	福岡
吉松貫四郎	愛知	嘉村 峯三	佐賀	桑原 一	和歌山	安東 匡夫	岡山
平山 廣	福嶋	山崎 玄泰	愛媛	西龜 春男	廣島	長谷川又右衛門	兵庫
宮田 清一	和歌山	丸山作治郎	奈良	山村平之進	鹿兒島	鈴木 恒平	愛知
北村恒三郎	香川	眞喜屋實祥	沖繩	星子 貫次	熊本	大原 銚治	滋賀
溝上 豫	兵庫	賀川 福夫	徳島				

明治四十三年六月第三十三回卒業生百八名

×岸本 英逸	兵庫	森杉 延吉	山口	寺田 圓成	兵庫	四方 辰馬	京都
根来 俊兒	和歌山	高田 昇	廣島	稻垣 壽一	愛知	×得原 寅司	奈良
大島 敬三	滋賀	倉内 研治	福井	庵原 良謙	香川	木村虎次郎	京都
高橋 靜	廣嶋	奥田幸次郎	岐阜	竹山 道治	新瀉	渡邊 完	兵庫
喜多川正二	京都	林 文	福井	長谷川益雄	北海道	中島勝次郎	和歌山
横山 勳	廣嶋	八家 周治	兵庫	杉浦 英一	静岡	若林 貞雄	廣島
市川 清	岐阜	山内 重利	徳島	平出 幹雄	新瀉	柴田 幸一	京都
小林文治郎	三重	松本仁一郎	兵庫	松本 賢造	滋賀	山縣 直吉	山口
山口 平七	京都	山本 達	島根	林 盛兼	愛媛	森田 晁一	徳島
重田 達夫	廣島	藤井 周二	愛媛	谷川良太郎	徳島	前田水喜智	兵庫
齋木 壽藏	愛知	×重富 信多	山口	沖 良男	高知	佐野 基行	兵庫
大門 侃也	愛知	栗栖 糾	島根	佐野 専三	佐賀	上田 寛一	京都
倉田 省三	長野	鐸木信三郎	愛知	小泉 秀博	山口	池田 孝貞	滋賀
菅 久三郎	徳島	黒田 義雄	富山	岡本 常造	和歌山	浅田 明	京都

高橋八十一	靜岡	齋藤誠一	京都	白井潔	廣島	木村喜治郎	滋賀
倉岡義郎	三重	三島豐市	嶋根	×大前朗	和歌山	萩原佐造	山梨
簡野國三郎	愛媛	新井朋之輔	埼玉	中野清次郎	滋賀	青島貞安	福井
×山根章	兵庫	秋鹿四郎	靜岡	大石數馬	三重	反田靜一	廣嶋
吉田太次一	廣島	弘瀬原亮	高知	甲原貢	廣嶋	森川熊雄	岐阜
柴本安衛	長野	志賀清明	兵庫	兒玉琢磨	廣島	田嶋豐次郎	群馬
野田傳造	岡山	×菅齋	德島	鈴木順彬	埼玉	金津朗	島根
武智正	愛媛	赤松良太郎	廣島	百々信太郎	滋賀	野田次郎	和歌山
今橋重俊	高知	小倉泰造	栃木	徳田久一郎	滋賀	山藤重	島根
山西一慶	和歌山	武田團治	三重	多代謙次郎	京都	河原魁一郎	京都
戸次正巳	福岡	依光秋水	高知	桐田季二	島根	×松本繁造	京都
西輝海	和歌山	高宮精	東京	岩月新作	愛知	津村秀夫	滋賀
喜島共輔	島根	舊小田中島	安藏佐賀	堀保源吾	大分	三原水志郎	島根

明治四十四年六月第三十四回卒業生百十名

福井庄平	大阪	齋藤一郎	島根	×摺谷大三	靜岡	高井高重郎	奈良
舊柴田小田成一	廣島	大西吉太郎	大阪	渡邊恭禮	山梨	山本敬三	愛知
山田正雄	福島	木村嘉四郎	和歌山	寺井秀信	和歌山	須藤晋	京都
久保昱二郎	奈良	岩崎熊次郎	和歌山	平山勝也	兵庫	毛利晃	岐阜
小泉透	京都	安田忠男	廣島	小西匡	京都	杉本逸平	岐阜
堀澤治吉	新潟	坂口正次	奈良	鹿野敬次	京都	建田四郎	京都
政田徳太郎	香川	國澤孫兵衛	島根	高島正旭	高知	宇治良雄	和歌山
西條宇之助	滋賀	柳澤小松	長野	原重夫	福井	西岡巖	兵庫
伊藤要一	巖手	信定利一	和歌山	齋藤圭介	長野	吉永幾太郎	廣島
中田勤也	三重	鎌田喜壽郎	大阪	鈴木宗平	栃木	高松真節	高知
伊藤良藏	廣島	原正雄	岡山	長尾一雄	廣島	×河村英一	岐阜
吉本亮一	島根	渡利深水	島根	野田猛虎	長崎	宇野秀	石川
杉下郁造	岐阜	神崎良甫	岡山	丸山梅雄	長野	真木魁	岡山
久山虎一	京都	山本義道	長崎	折戸淑郎	岐阜	田口清	愛知

兼松	三郎	高知	北川	音松	奈良	岩崎	耕一	京都	春日	惟精	大阪
幅	芳之助	和歌山	藤多	渡	兵庫	芝	行孝	愛媛	山田	雄次郎	香川
坂本	通善	宮崎	齋藤	敏明	廣島	若松	新一	秋田	下田	憲一	廣島
竹村	百一	山口	遠藤	龜二郎	新潟	鎌野	鹿爾	香川	竹越	隆治	新潟
吾郷	信薰	島根	高木	正樹	岐阜	勝俣	勝	山梨	西澤	繁次郎	滋賀
須崎	正夫	香川	×松田	順雄	山形	橋田	彌太郎	高知	鈴村	太一郎	岐阜
山川	晋	福井	西澤	均	長野	日置	芳彦	宮崎	谷川	權三	福井
稅所	進	宮崎	平松	普	千葉	宮城	福次郎	沖繩	渡邊	菊圃	青森
杉村	民藏	鳥取	岡貞	夫	愛媛	清都	正雄	富山	山下	節夫	兵庫
南條	俊夫	鳥取	木下	計雄	長野	大橋	清邦	愛知	加藤	浩	長野
河野	伊三雄	愛媛	森家	徳太郎	奈良	×深尾	和男	長野	三重	野賢	大分
市川	音助	和歌山	市川	賢徳	京都	梅岡	誠一	兵庫	×土肥	三郎	兵庫
林	務	岐阜	市岡	俊雄	廣島	木下	流之助	大阪	長島	四郎	群馬
泉	眞	島根	陳	魏	支那						

明治四十五年六月第三十五回卒業生百七名

田中	醇	京都	菅谷	幹太郎	和歌山	山根	孝行	島根	麥谷	良作	石川	
岡野	友藏	三重	西澤	八洲	磨	三重	田村	嘉彦	長野	高濱	隆二	島根
戸渡	庸二	福岡	田部	田	宮崎	×寺井	英一	埼玉	和田	博	山形	
神田	理平	兵庫	江波	戸良夫	千葉	松岡	嘉津治	兵庫	鶴飼	信成	京都	
正岡	徳三郎	愛媛	坂本	重二	和歌山	北澤	義松	滋賀	岩瀬	元治郎	滋賀	
河野	廉乎	廣島	串田	光造	廣島	岸田	輝雄	鳥取	福城	寛	茨城	
飯田	花次	東京	古井	憲一	岐阜	舊田中	對馬	完治	東京	猿田	三郎	高知
舊四部 伊藤	實二	岐阜	權守	央	山梨	×長尾	景太郎	新潟	橋本	顯一郎	島根	
大和田	盛雄	茨城	安達	簾藏	兵庫	大塚	斌	岡山	小畑	義次	鳥取	
林	正一	高知	中村	久治郎	三重	山崎	熊彦	和歌山	小橋	隆治	廣島	
井上	靄雄	愛媛	木村	直義	兵庫	土屋	國太	長野	石田	忠	香川	
内藤	永二	徳島	白木	兵吉	三重	石上	薫	静岡	浪方	静一郎	三重	
山本	厚	茨城	竹田	亥一郎	奈良	龜谷	鐵心	大阪	大森	胤臣	三重	

玉置 貞一	和歌山	藤田傳一郎	愛知	木下 茂次	靜岡	相良 直也	鹿兒嶋
三船 竹藏	巖手	牧野 秀壽	鳥取	村松 博	靜岡	竹内 政衛	長野
前田 良三	東京	内田 賢助	埼玉	柴田定一郎	愛媛	島崎榮次郎	京都
柳瀬 寛	高知	森永長太郎	廣島	小西 榮二	兵庫	松本 喜繁	島根
×岩本 榮盛	兵庫	藤林政五郎	廣島	高木 順慶	滋賀	守田 舍	大分
湯屋庄太郎	大分	伊藤 賢三	三重	五十嵐文次郎	富山	垂水 熊郎	三重
八木 新作	大阪	芥川 節	京都	楠川 淳	愛知	鈴木進一郎	東京
大井田正行	高知	清末 四郎	大分	福永 篁	鹿兒嶋	大村 叙順	京都
山田 香	東京	二宮 素平	愛媛	平田 範秀	山形	岡部 一郎	愛媛
木庭順次郎	兵庫	嶋田 長止	新瀉	黒川 誠	千葉	重里卯之治郎	大阪
木下 義堅	宮崎	石原 牧太	京都	中村新一郎	愛媛	萩須 文平	愛知
藤井 陸一	徳島	横山 隆一	東京	滋野哲太郎	富山	蓮浦 一人	廣島
大森 亘	福島	佐々井春一	廣島	小山 泰雄	和歌山	佐伯 丈助	兵庫
筒井 貞常	高知	吳 濟時	支那	蔡 文森	支那		

大正二年六月第三十六回卒業生百二名

老川 正治	富山	白石 梅吉	愛媛	佐藤 直保	島根	諏訪 與吉	大阪
脇田 政孝	鳥取	楠部敬一郎	和歌山	豊岡 剛齊	福井	廣島與惣松	滋賀
伊東 收平	東京	伊東金四郎	靜岡	神谷 眞	愛知	中西 進	三重
宗野 誠	兵庫	皆川 弘一	岩手	岩佐 丹雄	滋賀	川島 貞造	滋賀
中西 重富	京都	松岡儀三郎	奈良	卷野 止男	和歌山	原田 永年	鳥取
高川 秀夫	千葉	加藤 哲宏	大分	一柳憲之助	大阪	伊藤 利市	廣島
田中 稻城	長崎	井上 門司	岐阜	黒田 義秀	富山	福田耕一郎	愛知
林 禎二	廣嶋	×中川 永治	新潟	×伊藤 憲	兵庫	藤田 秋彦	岡山
細江 隆正	岐阜	藤本 五郎	山口	三輪 正英	岐阜	青景其二郎	廣島
小野木貞一	岐阜	井原 俊達	愛媛	行武 則正	廣島	熊谷 直孝	島根
三坂 重則	福岡	萩 章	滋賀	山本 彌吉	徳島	財前 博總	大分
森久 義	高知	日山 秀之	廣島	岡 岩雄	福岡	福山 正明	鹿兒嶋
栗原 慈長	埼玉	佐川 顯	長野	堀内 昇次	神奈川	大庭 榮	島根

志村梅太郎 香川 天野 龍郎 山梨 宮崎喜太郎 大阪 木村増太郎 滋賀
 神谷 重雄 山形 三宅 有年 岡山 片岸久次郎 奈良 林 脩平 愛知
 重本龜次郎 神奈川 信藤 準藏 三重 宇都宮 汪 大分 内田助三郎 和歌山
 花房 保 岡山 渡邊 親正 廣島 近藤 彰 愛媛 東儀 乾三 廣島
 山崎 保 鹿兒島 細田忠四郎 長野 田崎 勝助 茨城 若林 貞作 新潟
 中村 立夫 愛知 大岡佐三郎 大阪 在原 了悅 富山 山田勇次郎 石川
 梅谷 享 兵庫 松本 好篤 愛媛 鍵山 肇 高知 飯田 文男 山口
 西川 包 和歌山 清水 潔 山梨 五十嵐 元 東京 安部 鼎 島根
 小川福五郎 新潟 谷口彌三郎 京都 三原 良之 神奈川 瀨川 信一 秋田
 唐川 武夫 廣嶋 佐部田三朗 福井 吉弘 昇 静岡 芳山 龍 和歌山
 和多田龍心 島根 寺邑 政德 秋田 湯橋 貞造 和歌山 有井 終藏 兵庫
 細川 環 廣島 ×古谷野三郎 茨城 鈴鹿 純三 京都 片岡 義雄 廣島
 下村 官造 滋賀 野口半兵衛 長野

大正三年六月第三十七回卒業生百五名

笠原 功 東京 藤井猪十郎 福井 中武 謙介 兵庫 階堂 嘉市 滋賀
 安倍 季六 滋賀 今村 義孝 京都 大羽鹿次郎 愛知 松永 舜次 岐阜
 竹廣 茂雄 廣島 奥 成壽 奈良 松本 傳治 山口 堀 省三 岐阜
 火伏 郁造 和歌山 蘆田 義雄 京都 三吉 房三 群馬 藤木 冬吉 京都
 瀧山 耐 愛媛 西堀新次郎 滋賀 細川 景巖 岐阜 増田 久勳 嶋根
 小島井 讓 長崎 中島 操 奈良 三林 茂一 石川 松本 隆吉 京都
 藤井 丈夫 熊本 平野 憲正 千葉 朝山 敏 島根 武田 信三 京都
 小田 克平 岡山 南條 進 滋賀 増田 富保 大阪 柳澤 信賢 東京
 乾 保 奈良 櫛田 國藏 京都 ×西田 時政 宮崎 清家史二郎 愛媛
 兼松順次郎 石川 青木 寛義 滋賀 林 力 三重 山田吉二郎 京都
 菊岡 虎一 京都 清水 清 島根 ×中川 真澄 京都 山田 太郎 兵庫
 片山 吉人 島根 本康 滋 静岡 迫田 武造 鹿兒島 弘瀬 良廣 高知
 秋山 好文 徳島 戸根 勇 岡山 ×齋藤金一郎 静岡 横山 賢良 愛知
 玉井 四朗 愛媛 須古 助興 佐賀 大石 翠 三重 前原 尙 岡山

北山	清	石川	松野	綠次	靜岡	山脇	秀吉	廣島	奧藤	新次	兵庫
大塚	歎治郎	兵庫	小谷	正	兵庫	岡田	虎雄	京都	村井	定吉	福島
×古林	武夫	兵庫	佐藤	保雄	和歌山	太田	弘二	愛知	井貫	耕平	兵庫
坂根	智治	島根	須山	朋治	島根	松村	龍夫	愛媛	水越	傳一	三重
大橋	慎	岐阜	富岡	末吉	岡山	×島	旭	廣嶋	岡田	定治郎	滋賀
掛井	逸郎	山口	山脇	義一	和歌山	緒方	清躬	大分	森谷	弘幹	岡山
近藤	藤平	岐阜	太田	秀夫	和歌山	直江	一良	富山	小塚	三郎治	愛知
稻村	靜二	埼玉	松井	嵩美	廣島	齋藤	定一	山口	足立	朝利	兵庫
山田	與八郎	奈良	藤本	幸衛	岡山	太池	太真治	岡山	山野	矜三	千葉
秋月	懇	宮崎	井上	俊夫	兵庫	中澤	一雄	群馬	宇治田	幸次	和歌山
武岳	博	新潟	井野	重遠	和歌山	池田	善藏	奈良	南野	輝藏	大阪
緒方	長夫	大分	佐藤	信太郎	栃木	三原	達磨	福岡	武内	高止	福井
宮村	一二	新潟									

大正四年六月第三十八回卒業生八十四名

芳賀	英雄	愛知	上原	純之助	京都	高橋	章一	島根	木村	長三	福井
田代	常三郎	島根	齋木	賢一	廣島	鹿島	德治	京都	竹下	一三	京都
大石	一朗	京都	山野	清定	岡山	栗市	春治	兵庫	片山	正一	京都
村井	勝	山口	岡本	工馬雄	福井	石田	猛	岡山	家原	素男	京都
橋本	纈	岡山	多賀	重治	岐阜	武田	俊藏	愛知	山村	直美	鹿兒島
大坂	利	島根	大原	純吉	京都	竹林	武雄	北海道	本田	範治	熊本
大川	内政次郎	佐賀	太田	長治郎	滋賀	郷司	義人	大分	藤原	春治郎	大阪
鈴木	彌平	愛知	佐々木	啓介	福井	小川	正男	岐阜	石橋	虎介	福岡
白方	定翁	愛媛	阿部	要四郎	島根	山縣	佐十郎	長崎	永井	利義	京都
大谷	悟	山口	崎谷	啓太郎	兵庫	中内	千秋	高知	辻	全周	京都
坂良	彦	三重	鳥居	脩一	京都	上羽	齊	京都	喜多	豪	京都
阿部	四郎	北海道	宮本	儀作	山口	佐山	光章	京都	×菅屋	正幹	兵庫
松山	武夫	和歌山	谷後	徳治郎	兵庫	淺田	孝一	京都	舟木	猶造	奈良
金子	元春	埼玉	今井	文夫	山形	戸田	篤一	愛媛	小林	龜造	奈良

石原 巖	岡山	伊藤 啓司	千葉	岩田 一雄	東京	小河 宗進	兵庫
田村 準一	廣島	輕部 清	山形	北村 信治	大阪	鷹取 常保	京都
成定 敏術	廣島	×北平 宇平	岐阜	森 三郎	京都	日下部 昇	千葉
西村 郡三	大阪	河崎 健治	京都	藤田 芳雄	岡山	玉川 和	千葉
稗田良之助	長崎	中松 恒	石川	長谷川康三	新潟	住吉彌太郎	大阪
安波 吉雄	茨城	中瀬 誠一	徳島	×加藤 熙	熊本	田島 良平	群馬
×赤鳥 常次	石川	張 玕	支那	池 龍珠	支那	廖 汝直	支那
吉田 健亮	大阪	福江 成一	山口	吉田 徹	大阪	松尾喜代太	長崎
井尻又五郎	山口	太田 貞	香川	三宅 末久	京都	末田 祗	廣島
永野 真平	愛媛	松本 温	廣嶋	安部 筆孝	嶋根	村瀬 正雄	兵庫
椋木 史郎	山口	兒玉 正實	宮崎	細井 親甫	京都	平野 寛	高知
林 弼次	京都	中山 正己	鳥取	楊 秀五	山口	岡本 萬次	兵庫
足立 強	兵庫	帖佐 廣徳	鹿兒島	坂部 茂	京都	濱宇津靜治	高知

大正五年六月第三十九回卒業生八十七名

舊片岡福島

田村 八束	北海道	杉本 政雄	大阪	松浦 直美	嶋根	平松 正己	和歌山
岩尾 一雄	大分	原田 隆	京都	小松誠太郎	秋田	村上 徳治	山形
服部 周二	京都	太田 隆滋	静岡	鈴木徳之助	和歌山	生塩 元	廣島
岡村仙太郎	京都	中尾 幸夫	大阪	平芳與之助	大阪	戸田 良一	奈良
橋本 十平	佐賀	笹山多果志	静岡	高橋 通	福岡	柴沼 薫	茨城
藤本 郡時	愛媛	中嶋 秀隆	新潟	橋本 巍	廣島	山本 泰	山口
中川 終	京都	伊木 孝	兵庫	吉田伊市郎	奈良	幹 洵	石川
大久保 蒔	大分	三澤万壽雄	長野	玉置 春雄	和歌山	川口 遜	和歌山
岸本 熊吾	岡山	佐々木正規	大分	霜野 良平	大阪	加藤 正雄	廣島
玉置 繁三	和歌山	井出 武	廣島	佐野 多郎	愛媛	飯野 豊	京都
吉川 芳助	徳島	山本 寛	兵庫	高橋 木吉	高知	可兒 和夫	岐阜
安茂 國次	兵庫	水田 集三	岡山	齋藤 榮治	福井	西尾 進	愛知
吉川 正吾	愛知	中村 豊	岡山	上野 誠	島根	西田 憲義	富山
榊田 明義	京都	高垣 辨吉	和歌山	岩永 計七	佐賀	飯田幸太郎	滋賀

松原 高助 廣島 岸田 稷 京都 杉本 榮助 福井 島本 富藏 和歌山
藤井 道 滋賀 向仙 良 支那 楊椿 生 支那

大正六年五月第四十回卒業生七十一名

藤島又三郎 新潟 高橋 義行 福井 坂 久 三重 中島 明 埼玉
田中 三郎 兵庫 中野 秀孝 福井 津崎 孝道 大分 昌子 理務 京都
坂本善四郎 兵庫 瓜生 克巳 福岡 中村 復三 山口 宇野鬼一郎 愛媛
鈴木 正雄 宮城 井上 次郎 京都 土屋 庸 兵庫 尾上 信雄 鹿兒島
大井 久夫 奈良 幸崎彌之助 福岡 山崎 敏夫 兵庫 勝田 正之 京都
景山米治郎 滋賀 安藤 克己 岡山 溝淵清三郎 高知 正木 清 兵庫
垂水 省三 京都 田代 榮 島根 山田 信雄 和歌山 平塚 次男 福岡
津森 彬晴 島根 齋藤 暉吉 島根 脇坂常治郎 滋賀 濱口 豊逸 兵庫
伊藤 真二 三重 三谷 景夫 岡山 土居 米治 兵庫 石原 俊士 岡山
齋藤 博 徳島 藤原 謹二 廣島 田村 眞男 京都 木戸 禎爾 京都
川井銀之助 京都 中村復一郎 愛知 柏井 忠安 奈良 佐々木豊三 京都

民上 俊平 三重 田邊 磊吉 廣島 伊藤玄市郎 山梨 雨宮 修象 山梨
河内 義治 大分 原田 雄吉 山口 伊達 久彦 岡山 濱野勇太郎 和歌山
香川哲二郎 廣島 佐野川 進 山梨 洲崎 正俊 富山 石田 喜榮 三重
伊藤 實 廣島 水谷 重雄 兵庫 西村 榮一 兵庫 稻富 稔 鳥取
服部 順直 京都 野村 男也 新潟 勝馬 龍藏 滋賀 田村規矩夫 香川
奥田 清一 大阪 尾崎 清次 愛知 前田 英一 兵庫 關 勉 京都
永井 福吉 高知 徳永 民雄 新潟 劉發 英 支那

在學生

●特待生

○陸軍衛生部依託生徒
△海軍軍醫學生

温習生 八名

岡野 益三 埼玉 中瀬 治三 和歌山 兒玉 壽賀 山口 陶山 彝二 岡山
鴨井 清重 岡山 福岡 卓也 廣島 上野 岩市 大阪 吉村 信正 大阪

第四學年

九十五名

●古玉 太郎 廣島 牛窪 成恒 京都 横田 次郎 滋賀 木村 一郎 島根

溝部 正忠	大分	吉川 舜二	岡山	大塚 俊雄	德島	宮本 正博	京都
○竹内利一郎	京都	近松 忠雄	滋賀	齋藤 彌	兵庫	秋山 碓	新瀉
濱野賀一郎	兵庫	倉橋 幸夫	岡山	加藤 敏	長野	中田 春男	兵庫
水野 忠	福井	福本 運義	京都	南井 末吉	滋賀	廣戸 節二	鳥取
乾 震太郎	奈良	今野 信藏	秋田	田中 春熙	三重	塩見 宗一	京都
山内 素夫	静岡	伊藤 秀一	京都	小笠原 清	京都	伊藤 挺	京都
藤原 太郎	廣島	古賀 三郎	福岡	西蔭 隆男	愛媛	宮崎 周三	大分
大島 弘一	京都	溝口 四郎	大分	奥 勤一	兵庫	矢野 尙之	大分
土居 正美	高知	伊藤 則明	廣島	平岡謙二郎	京都	篠田 保	大阪
藤本 源太	京都	永田 隆	兵庫	山縣 誠夫	愛媛	○野村 健三	大阪
山中 政次	兵庫	志賀 庸三	愛知	米井 太郎	京都	岩目地 克	高知
北島 勇	德島	小牧廉太郎	京都	木村 嘉一	滋賀	奥村 重雄	京都
板並 實雄	鳥取	小室 喜一	茨城	井上 辰貴	奈良	三谷 勇	德島
村上 脩一	滋賀	加藤 憲治	静岡	石井 弘治	奈良	武田 朗	鳥根

第三學年

九十七名

鈴木 俊	大阪	水落 善雄	和歌山	大方 哲也	福島	石原 磊三	京都
安藤竹三郎	香川	川上市太郎	愛知	立松 初逸	大阪	石井 靜夫	山口
福田 忠作	栃木	古味 信房	高知	上平 喜晴	奈良	保田 芳助	三重
山田 素	兵庫	今井 廉平	岐阜	野島 國臣	廣島	神吉 敏雄	新潟
長谷川信男	京都	七種 哲二	長崎	平野 肇	愛知	上田 稻實	熊本
谷口 二雄	福岡	新海 鉄義	愛知	河合 信三	愛知	小山 景司	新潟
原田 看吾	廣島	生田 庚寅	岡山	吉崎欽次郎	富山	富井五百井	京都
坂元 良勝	宮崎	横山 啓之	兵庫	丹羽 孝一	京都	細田 孟	兵庫
吉原 昇平	福井	江口 哲一	佐賀	宋 健	支那		
○勝 義孝	京都	井尻萬太郎	京都	青木 敏一	兵庫	○井上壽之助	奈良
○馬場 武	福井	森杉 要	山口	末川 悍	山口	杉山 金吾	京都
○津九右衛門	三重	津田 隆正	兵庫	池崎 三郎	熊本	來須 正男	鳥根
○中山 友藏	茨城	松本 逸格	大阪	伊藤 喜内	三重	松田 實	山梨

城谷 博	兵庫	横山 武夫	岐阜	赤木四郎藏	和歌山	服部富三郎	京都
山中 覺	熊本	青地 政徳	京都	植野 高藏	兵庫	松本格二郎	鳥取
難波 浩之	岡山	後藤 亮一	三重	加藤 俊治	奈良	山根 義夫	山口
香山 青治	兵庫	森 義一	京都	中西國太郎	京都	中村 俊雄	岡山
永野 秀譽	高知	清水 久雄	鳥取	合田 眞澄	岡山	小川 貞雄	和歌山
國澤爲之祐	島根	小合 雅美	岡山	平野 利助	三重	田村 實	岡山
立川 元造	京都	赤 堀昇	静岡	箭野 憲道	高知	宮下 義威	京都
安丸 明正	高知	△船浴 秀一	和歌山	福永 昇	廣島	松井 敏雄	富山
奥村 繁松	京都	原田 嘉武	東京	玉井文三郎	和歌山	西村 利雄	京都
水野 忠一	愛媛	佐多 根城	鹿兒島	水山 謹一	廣島	小林孝太郎	岐阜
山中 重義	滋賀	土井 政治	奈良	野瀬 善三	京都	荒瀬 庄吉	高知
土橋 通洋	徳島	貝塚 準司	廣島	本島 千之	長崎	多上 益藏	三重
松島 實	東京	兒玉 彰	島根	今西 榮二	京都	財滿 敏衛	山口
杉本 大周	新潟	福山 好直	兵庫	山縣 寛	山口	西村 莊三	京都

上谷秀之助	富山	鹿井 正則	熊本	本康 武	静岡	山口清次郎	京都
黒川 稔	廣島	西田 茂	石川	和田 次朗	大阪	村上 剛平	和歌山
岡野 喜六	茨城	松原東一郎	岡山	黒石 邁	兵庫	津司市太郎	京都
岡田 才一	滋賀	山崎 諦策	佐賀	藤吉 喬	福岡	堀内 啓一	三重
笹尾 優	島根	小笠原陸介	島根	服部 勇	東京	常岡 詮二	兵庫
薄田 康彦	岡山	岡本 克己	山口	杉本 駁一	奈良	白井 智良	岡山
王 奕 震	支那						

第二學年

百二十名

泰 雅夫	徳島	白取 龜吉	青森	中堀俊一郎	三重	稻富 三郎	鳥取
老川 密信	富山	水原 治	滋賀	淺田 操	京都	木村佐太雄	埼玉
國廣 雄逸	廣島	戸倉 賤夫	千葉	二村基二郎	岐阜	木村 登	京都
帶谷榮太郎	山形	大野 千鐵	愛媛	千代延敬典	島根	増田 利雄	千葉
前野貫一郎	兵庫	岡田 逸三	奈良	松田 耕耘	大阪	河根義之一	岡山
長村 亨	京都	鎌田 愛治	東京	稻葉 通明	愛媛	西島 重民	愛媛

田島 生	埼玉	山田 義雄	大阪	新海 英吉	愛知	都田 正男	靜岡
土井仁良市	廣島	中野 節造	宮崎	高垣 秀	和歌山	柚木 貞次	岡山
安達 薰	島根	安藤 貫一	香川	石田嘉四郎	京都	西田 秀雄	富山
布施 俊雄	千葉	北村邦太郎	滋賀	木村 忠男	新潟	佐藤 源六	秋田
森 直秀	京都	横尾 定之	新潟	岡本 茂樹	和歌山	西村 治雄	山口
中野 一良	奈良	三谷 桃蹊	德島	只木 長信	東京	田桑 眞男	廣島
國賀 欣一	兵庫	幡步 博	山口	伊藤 秀夫	京都	上野 正雄	長野
田中 敏雄	京都	梶浦 恕	三重	小野 董之	香川	橋本省三郎	岐阜
酒井 義夫	兵庫	尾張信太郎	廣島	高山 富三	和歌山	鈴木 齋	愛知
河野 敏之	廣島	山本 卓	東京	坂野 松男	山梨	小峯喜一郎	京都
島田十八一	廣島	古田 恒二	岐阜	石賀 五郎	岡山	三上 達吉	京都
瀨木 義憲	京都	阿部 洪	山口	濱田 稻積	高知	有本 廉	大阪
數藤 國士	北海道	岡田菖浦之助	兵庫	國崎 忠眞	福岡	松村 勉	三重
楠 正平	京都	山本伊之助	三重	寺島松之助	大阪	野並 敏延	高知

第一學年

百三十五名

今井 米喜	高知	大内證太郎	岡山	石田壽美夫	大分	小上 文吾	和歌山
石田善一郎	奈良	岩崎 謙介	香川	寺田 鐵三	兵庫	奧 泰三郎	奈良
新垣 常祥	沖繩	貴志 美彦	和歌山	野村 恒一	島根	佐藤 誠治	新潟
榎村 龍助	大阪	楠山 勇	福井	小野 守郎	廣島	鈴木 保德	福岡
中西 豊參	愛知	小林 武	山梨	井上欽三郎	石川	杠 龍	島根
重地 義雄	大阪	柏原復三郎	香川	杉原 昇	廣島	兼松 長	福岡
小矢崎直次郎	石川	小林 誠	福井	國栖 教量	奈良	松崎友之祐	山口
柏村 周二	島根	鬼束 誠二	宮崎	平野 亥治	富山	端山 經道	大阪
山崎徳治郎	京都	篠田 有一	大分	竹下 加吉	京都	朴 璋	朝鮮
明 増 瀨	支那	朱 虞 琪	支那	沈 熙 澤	朝鮮	翁 耆	支那
加門 英夫	岡山	船越八太郎	京都	青木 隆禮	香川	横山 棣荂	島根
山中 次郎	兵庫	菅 楠太	廣島	沖原 春樹	廣島	堀江 道毅	島根
玉木 榮	岐阜	窪 峯一	和歌山	太田恒三郎	和歌山	平山 厚	京都

福岡	斌	奈良	草野	茂樹	大阪	多米	時彦	愛知	岡田不藏太郎	東京	
原	唯一	廣島	安藤	軍三	長野	阿原	道雄	滋賀	檜脇	康一	廣島
藤本	卓越	島根	菅野	正雄	福岡	舟山	恒德	山形	堀江	正夫	和歌山
片山	俊一	和歌山	大谷	茂	京都	岸本	傳	滋賀	速水	保彦	東京
久保	德彌	京都	佐野松之進		京都	中ノ内恒男	高知	藤垣喜重郎			岐阜
宮内	司	鹿兒島	仁科	亨	東京	宮川	莞爾	新潟	三木	董	兵庫
松井	董作	廣島	住田	昇	廣島	丹羽	義男	大阪	小田	豐	京都
井上	秀雄	京都	梅谷	清明	兵庫	外山哲二郎	新潟	長野壽賀夫			熊本
縣	芳次郎	靜岡	中野	岩吉	和歌山	河野啓一郎	廣島	里見	健治		京都
小川	俊毅	廣島	津田	元德	兵庫	椿居	五郎	滋賀	山元	豐吉	京都
佐古	博愛	鳥取	木津	一葉	東京	三宅川	廉平	東京	濱野	英一	東京
百束	七郎	山形	俣野	一郎	京都	山田彦次郎	東京	小澤	仙	靜岡	
宮崎	滋	高知	田中	房雄	京都	早田賢一郎	長野	伊達	宗温	京都	
妹尾	一惠	岡山	島	寛一	京都	越川	正巳	兵庫	山口	要道	和歌山

大場	久夫	神奈川	塩見	憲夫	京都	伊地知季俊	鹿兒島	竹中	重隆	東京	
植木	純一	兵庫	後藤	享	廣島	並河小次郎	京都	穂積	鑑一	愛知	
柿坂	狷介	鳥取	横田豊三郎	滋賀	井上	正雄	德島	中谷	武彦	奈良	
佐々木芳正	石川	橋	春吉	高知	中村剛太郎	山口	矢田貝	薫	鳥取		
渡邊	龍泰	岐阜	大道貴八郎	京都	甲原	齋	大分	岡部	泰治	埼玉	
上村	永敬	京都	星川	清躬	山形	山澤三次郎	京都	今井	磐雄	高知	
柴田	宗助	山口	井上	邦男	廣島	市川	重平	德島	上村	幸範	德島
秋山	信雄	靜岡	廣兼	宣男	鳥根	中島	正志	神奈川	笹木	武雄	廣島
中西晴太郎	京都	杉原滿次郎	鳥根		福島	龍男	青森	岩田	常憲	京都	
小林	源太	新潟	竹田	敬一	奈良	毛利幸太郎	香川	遠山	正路	東京	
齋藤	敏夫	兵庫	山下金十郎	岡山	高橋	昇	德島	増尾房太郎		京都	
小笹	三知	島根	飯田	廣雄	三重	川井謙次郎	茨城	西村榮太郎		京都	
柴田	薫	滋賀	角谷	友衛	石川	山本	鎌次	京都	中本	正直	鳥取
廣野	幸三	京都	根岸	芳雄	埼玉	齋藤	晋	山形	佐藤農夫雄		岡山

山田 計二 岐阜 中村 甚吉 石川 大井 正雄 三重 岡本 广太 岡山
 橋爪 幸太郎 三重 迫田 兼徳 鹿兒島 細江 國三 岐阜 谷端 敬治 兵庫
 金時 瓔 朝鮮 何 滄 支那 胡 嘉訓 支那

附屬産婆教習所卒業生

明治二十二年四月第一回卒業生十名

田尻 ハヤ 京都 森 キク 京都 井上 シゲ 京都 吉村 スエ 京都
 吉田 ヌイ 京都 山中 カノ 京都 森田 タツ 京都 林 ウタ 京都
 津田 チエ 京都 大塚 スエ 京都

明治二十三年第二回卒業生三名

榎並 カツ 鳥取 吉田 ラン 京都 白井 タカ 京都

明治二十四年二月第三回卒業生四名

澤田 ハヤ 京都 今村 ツル 京都 久野 エン 京都 山下 ミキ 京都

明治二十五年四月第四回卒業生二名

足立 信 鳥取 杉田 スミ 京都

明治二十六年四月第五回卒業生二名

近藤 加鶴 奈良 關口 音女 京都

明治二十七年四月第六回卒業生八名

瀧口 タカ 奈良 大島 小等 京都 高田 フサ 京都 松田 ヤス 三重
 手塚 カチ 京都 足立 節 京都 野間 柳 滋賀 入田 サタ 愛知

明治二十八年八月第七回卒業生四名

石田 千賀 京都 林田 藤江 京都 安井 シヅ 京都 下條 セキ 徳島

明治二十九年四月第八回卒業生二名

有持 カツ 徳島 竹原 シニ 滋賀

明治二十九年十一月第九回卒業生四名

守田 シヅ 滋賀 藤田 スミ 岡山 二川 ヒサ 愛媛 兒崎壽美代 岡山

明治三十年四月第十回卒業生五名

松木 シウ 京都 御園 イマ 千葉 小池 タミ 京都 美川 コマ 鳥取

小川 ユウ 京都

明治三十年十二月第十一回卒業生四名

福永 フウ 徳島 井上 繁代 福岡 岡村 辰世 鳥取 石山 キヌ 京都

明治三十一年十一月第十二回卒業生三名

生駒 マス 鳥取 井上 スイ 京都 藤井 ハナ 京都

明治三十二年四月第十三回卒業生四名

黒田 ユキ 京都 西脇 レイ 岐阜 廣田 キヌ 京都 吉村 雪枝 奈良

明治三十二年十月第十四回卒業生三名

田宮 テイ 京都 藤直美都乃 和歌山 藤田 八重 岡山

明治三十三年四月第十五回卒業生五名

中島 ヲスエ 京都 小原 ノブ 岡山 福井 ミヨ 京都 川村 イト 京都

中島 ヒサ 岐阜

明治三十三年九月第十六回卒業生八名

鹿野 加代 京都 湯川 鶴野 和歌山 岩井 トヨ 鳥取 飯田 クレ 京都

宮澤 ユウ 京都 吉井 スエ 京都 足立 ハル 京都 高橋 モト 京都

明治三十四年四月第十七回卒業生八名

猿丸 重野 兵庫 片木 ヒサ 京都 橋田 アイ 鳥取 山中 ムメ 京都

小木 リセ 京都 吉田 ツネノ 和歌山 脇坂 チヨ 三重 望月 キセ 滋賀

明治三十四年十月第十八回卒業生七名

山本 ユキ 京都 的場 莊 京都 中村 ジユン 京都 古川 ハヤ 岡山

佐野 ツル 京都 鶴見 アヤ 京都 中江 トシエ 京都

明治三十五年四月第十九回卒業生九名

岡田 陸 愛媛 大塚 キヌ 滋賀 萩谷 テイ 京都 井蓋 フジ 京都

永田 カメ 大阪 牧野 スク 京都 森 フサ 京都 山田 秀代 愛媛

山本 幸 京都

明治三十五年十月第二十回卒業生九名

重松 喜久 高知 千田 谷サメ 鳥取 植村 トメ 京都 小林 幸 京都

竹腰 ヒサ 滋賀 横井 テイ 愛知 立石 マツ 大阪 柏原 フミ 京都

明治三十六年四月第二十一回卒業生十七名

瀧田 ヨ子	京都	伊藤 奈遠	愛知	岸川 ヨノ	長崎	後藤ツルニ	京都
中川 キミ	京都	山田 キヌ	奈良	越知小トラ	愛媛	原田 満壽	京都
大野 ヤス	愛媛	上田 ヒサ	京都	上島 やす	京都	齋藤 小梅	京都
岡本 サト	京都	大町 サト	京都	田阪キサヨ	廣島	近藤 テイ	京都
松島 通	鳥取						

明治三十六年第二十二回卒業生十四名

細見 キヨ	京都	和田 ツル	徳島	藤井 てい	京都	田中 八重	京都
長松 マス	島根	松原 まさ	京都	富永 高さの	京都	西尾 ウノ	京都
廣瀬 せく	京都	中司 エイ	大阪	高城 鈴	富山	三木 フク	奈良
長谷川ミチ	兵庫	藤田 ミツ	三重				

明治三十七年第二十三回卒業生十九名

佐藤 タカ	廣島	松本 小光	京都	八木 ソメ	京都	村瀬 加代	京都
-------	----	-------	----	-------	----	-------	----

明治三十七年九月第二十四回卒業生十一名

垣田 ユウ	京都	須川 フサ	兵庫	八木 クニ	京都	吉田 トク	大阪
池上 ヤス	京都	中野アグリ	京都	青柳チヨウ	大分	井上 チセ	福岡
清水 富江	京都	西田 ミツ	兵庫	主原トミエ	京都	野田 ソチ	大分
横江 フサ	愛知	安村 シゲ	京都	中川美佐尾	京都		
有馬 カメ	山口	守内 千代	岡山	山起 コスエ	福井	一井カツ尾	京都
吉田 ナヲ	京都	田中 キン	京都	松浦 ソノ	熊本	吉谷 イク	京都
森 サダ	京都	稲元 マツ	京都	吉野 ハル	千葉		

明治三十八年四月第二十五回卒業生八名

兼易 サツ	廣島	大久保セン	岡山	松尾 ヒナ	山口	中井 テル	兵庫
十倉 イシ	京都	川田 セキ	三重	島崎 吉枝	京都	向井 サダ	京都

明治三十八年十月第二十六回卒業生五名

日野 スミ	廣島	山本 タメ	京都	木村 イト	山口	内山 ノブ	山口
村上 テツ	福岡						

明治三十九年三月第二十七回卒業生九名

野村 シマ 廣島 青木リヤウ 兵庫 野間 ノブ 京都 岡田 テル 京都
 下村 リツ 京都 垣田 フミ 京都 高宮 キク 京都 藤井カツノ 岡山
 野々口サヒノ 京都

明治三十九年九月第二十八回卒業生八名

神谷 ハナ 愛知 桐村 マキ 京都 宮岡フサヨ 廣島 安藤 チヨ 岡山
 新谷 タカ 秋田 本郷 サト 滋賀 清水 キミ 京都 奥村 滿佐 熊本

明治四十年三月第二十九回卒業生十五名

加納 信枝 京都 青山 ナカ 京都 宮内 マス 鹿兒島 山下 嘉津 京都
 北村 ヒデ 京都 奥田 イセ 巖手 片岡 カチ 滋賀 野々口スエ 京都
 藤 ユキ 福岡 赤澤マツエ 京都 三田村ステ 北海道 伊藤 愛子 京都
 加藤キヤウ 兵庫 高橋 イセ 兵庫 長谷川クニ 香川

明治四十年九月第三十回卒業生十二名

下手 トモ 廣島 高田 トシ 岡山 井口ヒサエ 京都 西川 キミ 滋賀

明治四十一年三月第三十一回卒業生十四名

種田 ノブ 京都 井口 歸佐 岡山 高島 ヨシ 兵庫 高田 アツ 京都
 桐山 カマ 岐阜 仁科 シマ 東京 西野 入重 京都 杉本 ハツ 滋賀
 竹下 チエ 京都 服部 フサ 滋賀 田中ミチヨ 山口 杉江 壽賀 大阪
 明田 サタ 京都 關 サト 京都 河原 英 京都 中川 チセ 京都
 岡本 ノブ 京都 水野 和 滋賀 矢部 シマ 滋賀 小島 クリ 京都
 山口ハルエ 京都 大澤 セキ 京都

明治四十一年九月第三十二回卒業生八名

橋本 チヨ 香川 中村 テツ 滋賀 宮部 カメ 大阪 龜田 フデ 京都
 和泉シカノ 奈良 川口ミツエ 滋賀 仲田 エン 岡山 久保 國子 京都

明治四十二年三月第三十三回卒業生十三名

吉田 ツ子 京都 奈古 サク 和歌山 岸本 登代 京都 田口 ヨ子 京都
 岡本 イト 京都 片山 ヤエ 京都 鞍岡 八重 京都 川中 コト 京都
 松尾喜代野 岡山 安藤 トメ 岐阜 永田ツルノ 徳島 中川マスノ 京都

松本 トヲ 京都

明治四十二年九月第三十四回卒業生四名

谷口 シマ 滋賀 平意 シゲノ 滋賀 佐藤 ミサチ 福岡 上野 ヒロ 滋賀

明治四十三年三月第三十五回卒業生一名

梶村 イソヨ 山口

明治四十三年九月第三十六回卒業生四名

林 シノ 滋賀 林 光 京都 吉弘 スエ 滋賀 難波 クラ 岡山

明治四十四年三月第三十七回卒業生八名

長岡 松枝 京都 村上 フミ 京都 小林 ヨシコ 広島 黛田多美野 岡山

平川 壽 京都 出崎 チヨ 兵庫 北島萬意苗 京都 奥津 ユキ 愛知

明治四十四年九月第三十八回卒業生七名

比賀 静屋 京都 岡見 綾 京都 長谷川カツ 京都 高木 てい 滋賀

中井 トメ 和歌山 吉雄 玄もの 京都 小林 テル 京都

明治四十五年三月第三十九回卒業生六名

久保 チスカ 愛媛 久保 七穂 愛媛 長谷川 節 滋賀 中野 りう 滋賀

峰松 コハル 広島 吹上 クニ 京都

大正元年九月第四十回卒業生九名

今井 ツギ 京都 八木 要 京都 栗倉 よそ 京都 平野 春の 兵庫

片山 ヤエヨ 愛媛 横尾 末榮 大阪 内山 タマ 京都 井上 キヌエ 和歌山

紺谷 ミツノ 和歌山

大正二年三月第四十一回卒業生十六名

水口 糸 京都 岡田 まつる 京都 川勝 せり 京都 佐野 政夫 滋賀

西村 龍 滋賀 小牧 ふじ 京都 巖本 絹 岡山 中川 りん 京都

吉岡 マキ 福井 長谷川 サダ 山口 細見 まほ 京都 高尾 せく 和歌山

豊田 ハル 京都 倉橋 亨 京都 永福 たき 滋賀 山野 寅 千葉

大正二年九月第四十二回卒業生四名

今福ますの 京都 相宗 シナ 京都 岩崎 てる 京都 大江 かず 滋賀

大正三年三月第四十三回卒業生七名

櫻井ユキノ 京都 三輪 琴代 岡山 佐々木チカ 島根 中尾 みち 京都
 喜多はるの 和歌山 村井 ひめ 京都 末弘 元枝 滋賀
 大正三年九月第四十四回卒業生四名
 高橋 玉野 福井 古川 シモ 滋賀 武田 ちか子 京都 須田 すき 滋賀
 大正四年九月第四十五回卒業生四名
 永濱 ゆき 京都 山田 たけ 愛知 菊山 不二重 愛媛 山田 ちか子 岡山
 大正五年九月第四十六回卒業生七名
 播磨 キン 大阪 山田 晴子 鳥取 北 たま 兵庫 御田 フミ子 京都
 澤田 美代乃 岐阜 新 とよ 石川 平田 としこ 兵庫
 大正六年九月第四十七回卒業生十二名
 松山 てい 京都 山西 小とみ 京都 齊藤 サダ 京都 廣岡 美津恵 兵庫
 大槻 ぬじ 京都 松田 春 京都 山内 きぬ 京都 寺西 ヤヨイ 富山
 宮崎 たか 和歌山 大竹 つるを 鳥取 川勝 きみ 京都 水島 イエ 北海道

附屬看護婦教習所卒業生

明治三十一年四月第一回卒業生五十名

福井 ヨヨ	高橋 モト	池田 ヨリ	早乙女 ヨシ
岡本 アイ	苅谷 小竹	田村 エイ	澁谷 尾末
鶴見 ヤス	岩本 サダ	山口 捨鶴	山室 サダ
田口 ヨ子	佐竹 ミツエ	小林 政枝	島田 ヨカ
藤木 アキ	河瀬 夏枝	澤田 ハナ	井澤 トキ
今井 マツ	岡山 小政	市川 ミヨノ	石山 キヌ
山口 トメ	吉田 ツチノ	古橋 モト	植木 イク
杉山 クニ	田中 マス	細川 リツ	牧野 シゲノ
藤田 チヨ	西川 マツ	戸田 ツヤ	中山 ヤノ
加藤 シゲ	若林 トキ	樋口 キヨ	樋口 ラク
小池 タミ	村上 ウシ	粟津 モト	坂田 カツ
岩本 トヨ	夜久 フサ	松浦 シン	柳樂 セノ

山田 ステラ 桑原 タ子 高瀬 ヒサ 石川 ヒサ
柳樂 マサ

明治三十三年四月卒業生第二回卒業生二十四名

植田 トメ 高木 カ子 田中 ツヤ 森戸 鋸
千田谷 サメ 松島 アイ 三戸 ユウ 中田 ツル
藤田 シコウ 井上 トモ 石川 ヌイ 藤本 シナ
岸田 イセ 竹内 初音 藤山 ハマ 勝村 タマ
櫻田 ヨシ 永井 テル 大槻 イト 梅垣 キタ
佐竹 フジナ 安井 ツ子 大枝 タミ 福井 タミ
明治三十三年九月第三回卒業生十三名
土屋 ムラ 的場 莊子 井蓋 フツ 中江 トシエ
堀井 フヂ 西原 クメ 田村 ミツ 田阪 キサヨ
中島 ハル 榎 リツ 織田 光枝 吉田 トク
吉原 タカ

明治三十四年四月第四回卒業生十八名

岩本 カツ 八木 ソメ 三宅 チカ 居初 チカ
小島 ヨシ 青木 ユラ 原田 マス 井上 初瀬
木成 セイ 早見 セツ 在間 ツマ 高瀬 トミ
小林 マツノ 中村 テイ 津田 政尾 司馬 眞始
矢部 ミチ 齋藤 カツノ

明治三十四年十一月第五回卒業生十六名

森 サダ 安井 トミ 清水 恵以 井上 トシ
田中 カ子 坂根 壽野 廣瀬 小銀 鈴木 スハ
田中 絹榮 河村 静江 堀江 熊 京極 ヒサ
長谷川 スエ 山田 キヌ 三好 リウ 杉原 キヨ

明治三十五年四月第六回卒業生九名

林 ツル 松尾 ヒナ 神村 スミ子 垣見 千代
松原 マサ 三輪 トミ 藤本 フサ 上田 ヒサ

下山トミ

明治三十五年八月第七回卒業生十六名

- 竹下 智枝 渡邊 ユキ 高田 ユキ 兵頭 ツトル
- 山田 シン 高島 千代 林 コトリ 大槻 コウ
- 西村 トヨ 北川 アイ 中村 トモ 齋藤 トヨ
- 今井 キミ 山崎 ソノ 間室 田鶴 青木 喜之榮

明治三十八年十月第八回卒業生十二名

- 石津 タツノ 京都 足立 ユキヨ 兵庫 槌山 クニヨ 廣島 種田 ノブ 京都
- 信田 靜枝 岐阜 佐々木 フサ 岐阜 大澤 セキ 京都 高橋 ナミ 京都
- 星田 ハツ 京都 小林 エイ 滋賀 菱川 虎壽 岡山 町原 タキ 福井

明治三十九年三月第九回卒業生二十二名

- 桂 トク 京都 宮岡 シゲヨ 廣島 古川 ヤス 滋賀 佐々木 ミスヨ 廣島
- 吉川 コマツ 京都 今村 ツタ 福岡 川出 スマ 愛知 福永 ヨシエ 滋賀
- 小泉 ヒサヨ 島根 山口 アイ 廣島 安藤 トメ 岐阜 多田 アヤ 岐阜

- 佐々 ツキ 京都 朝山 ミツ 大分 白井 ユウ 愛知 福岡 ミサヲ 廣島
- 河原 梅野 兵庫 福岡 ソワ 京都 中田 ムラ 兵庫 鹿村 ツルキ 佐賀
- 藤原 千代重 石川 安念 ハツイ 富山

明治三十九年九月第十回卒業生十三名

- 廣瀬 キン 京都 武田 トミ 愛媛 小幡 カツ 山口 菅原 スエ 京都
- 市川 ムラ 島根 西占 イク 徳島 橋本 チョ 香川 和泉 シカノ 奈良
- 服部 ハツ 京都 三木 シヅ 京都 影山 トマ 廣島 中尾 ツゲ 佐賀
- 山崎 サダ 島根

明治四十年三月第十一回卒業生九名

- 白川 シゲ野 富山 中島 ヨチ 滋賀 西尾 ムメ 京都 福山 キクエ 京都
- 岡島 カツ 京都 佐々木 シズ代 鳥取 蓮澤 ヤヨヒ 富山 三谷 春榮 大阪
- 向本 アヤ 福岡

明治四十年九月第十二回卒業生十名

- 馬場 ツルエ 香川 梅本 タツエ 奈良 荒井 カメ 京都 白川 ヨシ 京都

生島 佐知 京都 野入 ソヤ 三重 吉岡 カヨ 京都 石川 フジ 京都
大月 ヲユウ 岡山 大槻 タケ 京都

明治四十一年三月第十三回卒業生十三名

宇式 クニ 京都 石井 トク 岡山 荒井サカエ 京都 名畑 リウ 大阪
板阪 徳壽 香川 篠原 敏慧 徳岡 井上ソトイ 富山 森田 カン 滋賀
多和 トエ 愛媛 今井 フサ 京都 橋本 アヤ 兵庫 山村 トエ 福岡
三井ヒサナ 山口

明治四十一年第十四回卒業生十二名

泉 テイ 京都 林原ソノイ 富山 伊藤 コマ 愛媛 片岡 クノ 滋賀
檜皮 チヨ 福井 平野 ナチ 島根 金塚トメノ 滋賀 林崎 ヨウ 京都
山本 チノ 滋賀 柴田 アイ 福岡 本郷 イト 京都 山本 トメ 山口

明治四十二年三月第十五回卒業生十九名

麻布 コウ 島根 中塚 コト 京都 藤塚 カヨ 京都 水谷 トイ 三重
西川 イシ 滋賀 山下ヨシエ 兵庫 貫 クニ 京都 津野 苞矣 高知

明治四十二年九月第十六回卒業生十一名

辻出 スミ 京都 武田 フミ 京都 高橋 静枝 滋賀 足立チクノ 福岡
高木小ユキ 愛知 堀 愛野 京都 林 マサ 山口 西村 マサ 京都
片山 若菜 滋賀 辻倉 フサ 京都 佐々木サノ 京都

明治四十三年三月第十七回卒業生二十四名

國近 ツル 山口 伊賀 トミ 福岡 戸野廣エイ 廣島 小野ヨシエ 巖手
松尾ヨシコ 京都 高橋 トヲ 廣島 野々口トミ 京都 高橋 フサ 京都
平居 イサ 滋賀 治武 トラ 滋賀 大鋸 ワキ 石川
長野 タツ 京都 林 クノ 滋賀 矢追 ミツ 京都 福見 ハマ 岡山
八木 要 京都 近藤 梶 京都 藤園 ノブ 大阪 佐々木チカ 島根
笹川 カチ 鳥取 河合スミチ 福井 吉田 シズ 京都 堀 ナツ 京都
吉弘 スエ 滋賀 藤澤シゲノ 奈良 栗倉 ヨソ 京都 永田 エミ 滋賀
北野 薫 滋賀 水戸タツ子 廣島 松澤 道野 京都 上柳 ツタ 滋賀
吉川 モエ 滋賀 高木 テイ 滋賀 島 チヨ 京都 松井 里エ 滋賀

明治四十四年九月第十八回卒業生十三名

中村	てつ	滋賀	大山	さくの	京都	内田	眞子	岐阜	三久保	タツ	京都
大川	まゑ	三重	松田	せい	京都	西村	龍	滋賀	豊田	サチ	徳島
横山	嘉鶴	賀滋	澤水	この	滋賀	水口	系	京都	末弘	元枝	滋賀
倉橋	亨	京都									

明治四十四年九月第十九回卒業生十八名

饗場	秀野	滋賀	土田	タケ	山口	伊藤	キヨコ	廣島	寺田	ゆき	滋賀	
小西	みよ	京都	相宗	シナ	京都	福良	イサ	愛媛	山岡	チエ	京都	
法林	カズヲ	廣島	河内	山テ	ル	山口	土田	きく	滋賀	竹内	満	大阪
中村	シナ	京都	山田	シナ	京都	久井	たみ	京都	佐々木	さか	三重	
仲田	エン	岡山	北尾	カフ	京都							

明治四十四年九月第二十回卒業生十三名

櫻井	エキノ	京都	永田	ツルノ	徳島	三輪	琴代	岡山	木村	ミチエ	愛媛
伊庭	ミサチ	京都	宿利	ヤサカ	愛媛	高山	ゑん	京都	永井	カズ	京都

生田	いち	京都	黒瀬	イタコ	山口	八木	まみ	滋賀	岩城	とき	京都
須田	すぎ	滋賀									

明治四十五年三月第二十一回卒業生十九名

日下部	よし	京都	高松	静枝	高知	杉山	やゑ	兵庫	安井	涼	京都
稲田	ツヤ	島根	竹澤	トミエ	徳島	板谷	みさゑ	滋賀	牧	せみ	京都
丸尾	いさ	滋賀	宮崎	須賀	石川	傍士	眞佐	高知	宮崎	たか	和歌山
神部	トモ	京都	高田	コト	富山	山元	静枝	滋賀	土山	おほ	滋賀
酒井	えげ	三重	三浦	ハル	廣島	三浦	うた	京都			

大正元年九月第二十二回卒業生十七名

佐々木	キヨ	山口	山田	たけ	愛知	後藤	ヒサ	大分	福島	豊野	愛媛
徳田	ノブ	京都	川道	えげ	滋賀	浅田	きよ	京都	北村	まな	京都
山兒	ひで	北海道	杉森	ヨネ	富山	平松	あさ	滋賀	永田	うの	京都
荻屋	コサミ	鹿兒島	山本	まち	兵庫	氏家	サリ	香川	高木	イチ	廣島
信岡	ミカ	廣島									

大正二年三月第二十三回卒業生十名

深尾 家壽 京都 井上 ます 京都 三宅 ちよ 京都 田中 ちよ 滋賀
加藤 はま 滋賀 山元 きぬ 滋賀 藤澤 照子 滋賀 川村 ゆか 滋賀
村上 タエ 大分 田畑 鶴榮 福井

大正二年九月第二十四回卒業生十八名

永井 市子 石川 左右田アイ 京都 横山 藤代 岡山 脇坂 おせ 富山
山本 やる 三重 山田 晴子 鳥取 中村 つる 滋賀 澤田美代乃 岐阜
岡部 ナル 廣島 鈴木 ごとく 滋賀 小林 操 滋賀 竹内 みと 三重
榊井 ミヨ 奈良 土井 トミ 京都 上村 さく 兵庫 中山 サイ 徳島
瀬川 フサ 京都 小島 ハキ 宮崎

大正三年三月第二十五回卒業生十七名

御田フミ子 京都 播磨 キン 大阪 白井まつゑ 福井 葉波 ひて 茨城
森坂フイノ 山口 安原 いな 滋賀 品川タカヨ 廣島 楫野 ウメ 嶋根
藤原 つや 京都 桑野ミサチ 山口 三浦ユキエ 京都 北 たま 兵庫

齊藤 チヨ 山口 高木 ゼめ 京都 井上ナツノ 山口 守田トモエ 福岡
翠 いわを 岐阜

大正三年九月第二十六回卒業生十六名

築澤 千年 岡山 大武イチヨ 廣島 善積 芳枝 京都 伊藤ノブ 廣島
浅田 あい 兵庫 月森 イキ 島根 岡田 リエ 滋賀 杉山 うた 兵庫
沼田 トラ 廣島 水島 イエ 北海道 中嶋 ウタ 岡山 松田 きみ 三重
永田 ふさ 京都 千田 かつ 京都 大槻 さく 京都 井上 えげ 京都

大正四年三月第二十七回卒業生二十六名

古橋 きよ 京都 島 うめ 三重 齋藤 サダ 京都 富部與志恵 岡山
高田 富佐 滋賀 細川 ライ 廣島 水野 たゞ 福井 久瀬 ハナ 京都
堀江 晴子 山口 永井シヅノ 廣島 寺西ヤヨイ 富山 大槻 ぬじ 京都
鈴木 貞子 和歌山 森 倫 京都 山内 きぬ 京都 小橋 ミツ 京都
田中 梅 京都 佐藤ハスノ 大分 林 チエノ 山口 横出 つな 群馬
板坂 君 香川 平原 ツイ 山口 大竹つるを 鳥取 松田 春 京都

友安 春榮 福井 若林 末野 京都

大正四年九月第二十八回卒業生十七名

根岸 スガ 廣島 尾名 みよ 福井 大塚 ハギエ 福岡 和多田敏子 兵庫
 谷川 カツノ 廣島 角川 てつ 滋賀 伊吹 幸真 京都 瀧波 トモ 福井
 江守 トク 京都 吉岡 くに 京都 松瀬 ウラ 長崎 西山 しげ 滋賀
 田邊 さくの 滋賀 大塚 花 京都 石丸 政代 愛媛 得永 しげ 富山
 中村 せき 滋賀

大正五年三月第二十九回卒業生十七名

飯田 艶子 岐阜 尾崎 純野 京都 千坂 幾久 京都 森 ハル 香川
 立入 きし 京都 澤 さだ 滋賀 大久保 キチ 島根 谷川 カズエ 廣島
 曾根 蘭 京都 竹田 春尾 滋賀 苅野 ハナ 大阪 駒池 とも 京都
 中川 フサエ 奈良 野山 彌壽代 岡山 林 みよの 京都 中村 こか 滋賀
 岩成 芳枝 鳥取

大正五年九月第三十回卒業生十三名

別所 キミ 福井 今西 きみ 京都 友安 萩枝 福井 井關 花江 京都
 谷村 カヅエ 京都 中田 乙枝 京都 山際 碓さへ 京都 田中 つや 富山
 向阪 ヨシ 滋賀 石橋 ユウ 京都 梅上 カスエ 大阪 清水 カネ 京都
 渡邊 むね 京都

大正六年三月第三十一回卒業生十二名

尾畑 玄すへ 和歌山 中島 千枝 滋賀 中村 とみ 滋賀 曾我 あさ 岐阜
 岡本 キク 富山 藤原 春子 岡山 深田 八重子 京都 高屋 義子 京都
 富永 シン 京都 菅谷 鉄子 京都 澁谷 ハルエ 京都 寺林 アヤ 富山

大正六年九月第三十二回卒業生十六名

西田 はる 兵庫 中島 ライ 島根 河添 ミサチ 愛媛 福田 なつゑ 兵庫
 村田 やす 京都 西山 シゲ 石川 岡野 りゆ 福井 國谷 いせ 兵庫
 藤井 ハヤ 廣島 藤村 滿江 京都 林 雪江 京都 橋本 いの 京都
 木村 アヤ 京都 梅本 芳江 滋賀 西浦 リョ 奈良 磯野 クラ 京都

産婆生徒

第二年後期生二名

大武イチヨ 廣島 日下千代 大阪

第二年前期生十二名

塩見すへ 京都 千坂幾く 京都 飯田艶子 岐阜 藤本スエノ 奈良
澤さだ 滋賀 月森イキ 島根 林ヨシ 京都 鍼田ぎん 愛知
吉岡くに 京都 遠藤静代 鳥取 西山シゲ 滋賀 大串ヒナ 京都

第一年前期生二十九名

井上みさる 兵庫 西尾美子 岡山 椎森喜美 石川 中川フサエ 奈良
角野マサ 福井 林まる 長野 生澤さん 三重 吉浪ツルエ 京都
武田ツネエ 徳島 宇平治セイ 京都 山岡ユカ 京都 有川貞子 大阪
懸野教子 京都 北村タツ 京都 駒池とみ 京都 今西きみ 京都
友安茂枝 福井 谷村カツエ 京都 向阪ヨシ 滋賀 渡邊ふゆ 京都

看護婦生徒

第二年後期生三十名

中島千枝 滋賀 中村とみ 滋賀 曾我あさ 岐阜 岡本キク 富山
藤原春子 岡山 深田八重子 京都 富永シン 京都 菅谷鉄子 京都
澁谷ハルエ 京都

第二年前期生二十三名

林さき 滋賀 丸橋房子 京都 村井文 岡山 田中わい 滋賀
松本クニ 山口 柴田政乃 滋賀 山根タケノ 山口 万木ふく 滋賀
高城雪榮 京都 小西てふ 滋賀 黒澤久野 岡山 柳森さき 滋賀
時松スミ 岡山 福井喜久江 静岡 初田はす 滋賀 保田ふき 京都
福本マツエ 京都 三村み津代 岡山 牧野なを 富山 脇田ひめ 鳥取
齋藤みよ 兵庫 塩見まき 京都 山本貞世 愛媛 塚本まさる 兵庫
曾我左枝 愛媛 川崎ミハル 愛媛 山内藤枝 京都 竹中タキエ 和歌山
尾崎としる 鳥取 伊藤とほ 福井

磯川 貞子 廣島	西井 國江 京都	長尾 イマ 京都	太田 春惠 滋賀
宮林 チカト 廣島	中川 勇 京都	石井 澤子 京都	富士木 絹子 滋賀
荒川 さき 京都	北村 ハマ 京都	今崎 フミ 京都	福西 久子 京都
加納 タキ 京都	森 りさ 滋賀	齊藤 志ひ丸 京都	吉弘 はる 滋賀
横山 シケ 石川	笠島 スエ 京都	阪根 ハナヨ 廣島	河合 節子 鳥取
石野 はつ 京都	上野 小まげ 京都	中山 菊野 京都	
第一年後期生二十九名			
前田 たか 滋賀	筑紫 チヨコ 廣島	橋 二三尾 滋賀	白石 ハル 愛媛
大村 ふさ 静岡	浪本 尊代 岡山	中井 志壽子 岡山	樋口 久惠 岐阜
角尾 ひで 鳥取	矢野 きぬへ 三重	元木 チヨ 東京	岩城 さと 三重
並川 セツ 京都	半林 ヨウ 京都	久松 ハルミ 廣島	山内 てつ 京都
原 君子 京都	篠原 綾子 京都	水谷 やすゑ 兵庫	森林 ちか 三重
速水 郁 京都	早川 むづね 三重	山内 俊子 京都	木村 光 京都
山田 みつゑ 三重	法貴 ミツエ 京都	梅香家 ゆた子 京都	大槻 ミね 京都

笠井 静子 島根
第一年前期生二十九名

島崎 まさ 福井	新井 初榮 大阪	東田 茂 京都	松本 むづ江 京都
池垣 ちか 京都	那須 ナリン 岡山	大石 はまへ 京都	木村 コユミ 兵庫
小野 よしの 岐阜	藤井 やす 三重	中原 ゆか 滋賀	高野 ちか 京都
曾我 可丈 愛媛	松井 多喜子 滋賀	松岡 かつ 滋賀	連 春江 滋賀
由利根 クマ 京都	小谷 ヒサ 京都	小河 ハルノ 兵庫	堀江 登代 滋賀
富山 キヌ 香川	原 千代の 岐阜	茶 つま 兵庫	和田 篤子 大阪
阪野 きよ 京都	石津 千代 滋賀	金森 まさ 岐阜	西本 タニエ 愛媛
岸桐 ひろ 静岡			
看護婦見習生徒六名			
岸本 綾子 京都	芝 恒子 愛媛	仁張 美津 京都	河野の 久枝 京都
關 みほね 京都	主原 キヌ 京都		

京都府立醫學專門學校附屬療病院職務規程

第一本院ニ左ノ職員ヲ置ク

- | | | | | |
|---------|-----|----------------------------------|--------|-----|
| 院 長 | 一人 | <small>〔學校長ヲ以テ之ヲ充ツ〕</small> | 内科第一部長 | 一人 |
| 内科第二部長 | 一人 | | 小兒科部長 | 一人 |
| 外科部長 | 一人 | | 眼科部長 | 一人 |
| 産科婦人科部長 | 一人 | | 精神科部長 | 一人 |
| 咽喉科部長 | 一人 | | 皮膚科部長 | 一人 |
| 調劑部長 | 一人 | <small>〔以上各部長ハ教諭ヲ以テ之ヲ充ツ〕</small> | | |
| 庶務部長 | 一人 | <small>〔幹事ヲ以テ之ニ充ツ〕</small> | | |
| 醫員 | 若干人 | | 書記 | 若干人 |
- 各部ニ副部長一人又院務顧問及事務囑托若干人ヲ置クコトヲ得
- 第二條 院長ハ院務ヲ總管シ職員ヲ監督シ其進退賞罰ヲ知事ニ具狀ス
- 第三條 院長事故アルトキハ醫務ニ就テハ首席部長事務ニ就テハ庶務部長之ヲ代理ス
- 第四條 庶務部長ハ一切ノ事務ヲ掌理シ職員ヲ〔部長以上ヲ除ク〕監察シ其進退賞罰ニ參與ス

- 第五條 事務部長ハ部下ノ書記ヲ監督シ會計事務ニ關シ意見アルキハ直ニ知事ニ上申スルコトヲ得
- 第六條 各科部長ハ部下ノ職員ヲ監督シ其擔任ノ醫務ヲ掌理ス
- 第七條 調劑部長ハ部下ノ調劑員ヲ監督シ製藥及調劑ヲ掌理ス
- 第八條 副部長ハ部長ヲ補佐シ部長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス
- 第九條 醫員ハ各科部ニ屬シ當該部長ノ指揮ヲ承ケ診療及醫務ニ従事ス
- 第十條 調劑員ハ調劑部ニ屬シ部長ノ指揮ヲ受ケ製藥及調劑ニ従事ス
- 第十一條 書記ハ庶務部ニ屬シ部長ノ指揮ヲ受ケ庶務及會計ニ従事ス
- 第十二條 院長ハ左ノ事項ヲ專行スルコトヲ得
- 一 職員ノ分掌ヲ定ムル事
 - 二 雇給豫算内ニ於テ雇員ヲ雇入又ハ解雇スル事
 - 三 醫員以下職員ニ除服ヲ命ジ及暇願ヲ許否スル事
- 第十三條 各科部ニ於テハ左ノ事務ヲ管掌ス
- 一 患者ノ治療ニ關スル事
 - 二 患者ノ飲食物ニ關スル事